

今宿五郎江 16

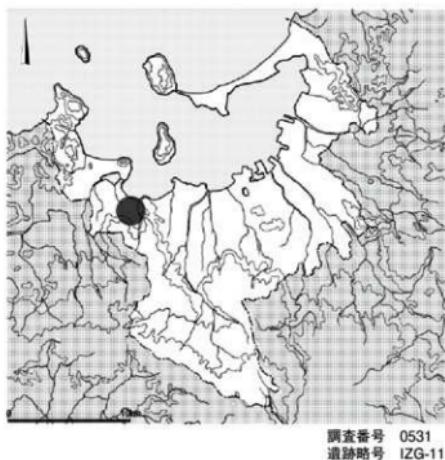
—今宿五郎江遺跡第11次調査報告(2)—

2014

福岡市教育委員会

い ま じ ゃ く び ろ う え
今宿五郎江 16

—今宿五郎江遺跡第11次調査報告(2)—



2014

福岡市教育委員会

序

福岡市の西部に位置する今宿平野は、中国の史書にその名を残す糸島平野の東を占め、歴史的にみても重要な位置にある地域です。しかし今、土地区画整理事業により、縦横に整備された道路が走り、日々街の姿を整えつつあります。

福岡市では、工事等により現状での保存が不可能となった埋蔵文化財について、記録による保存を図ることとし、そのための発掘調査を行ってきました。本書は、この目的で伊都土地区画整理事業地内において実施した今宿五郎江第11次調査の報告書として刊行するものです。

発掘調査では、膨大な量の土器のほかに、農具や漁撈具をはじめとする木器、石錘などの石製品、鏡や銅鐸といった金属器など様々な種類の遺物が多数出土しました。このような遺物の内容は、今宿五郎江遺跡が、かつての伊都国とされる地域のなかでも、重要な位置を占めていたことを物語っています。

本書の刊行は、関係各位の多大なご理解とご協力の結果であることをここに記し、心からお礼を申し上げます。また、本書が今宿平野の歴史について、理解を深めるために資するところがあれば幸いです。

平成26年3月24日

福岡市教育委員会
教育長 酒井龍彦

はじめに

- 1 本書は、2005（平成17）年から2006（平成18）年度にわたり、福岡市西区今宿町伊都土地区画整理事業地内で福岡市教育委員会がおこなった、今宿五郎江第11次調査報告の2であり、出土遺物について報告する。なお、遺構についての報告は、第1181集『今宿五郎江13』（2013）で行った。
- 2 発掘調査は、文化財保護法57条の3（改正前）に基づく通知を受け、埋蔵文化財保存についての協議を行った結果、福岡市都市整備局（当時）伊都区画整理事務所の依頼により、記録保存を目的として、教育委員会埋蔵文化財課（平成24年度組織改編により移管し 経済観光文化局文化財部 埋蔵文化財調査課）が実施したものである。作業は、関係各位のご理解とご協力のもと、円滑に遂行することができた。この場で深く感謝申し上げる。
- 3 整理・報告は、埋蔵文化財調査課 杉山富雄が全般を担当したほかに、木器実測・写真撮影を加藤隆也が、土器実測を埋蔵文化財事前審査課森本幹彦が行った。また、木器実測図については埋蔵文化財センターの協力を得た。本文執筆は担当のほか森本が行った。
- 4 木製品の整理については、首都大学東京山田昌久先生の指導を頂いた。記して感謝申し上げます。
- 5 出土資料および調査記録は、福岡市埋蔵文化財センターで収蔵管理し、利用に供する予定である。

凡例

- 1 位置の記録は、伊都土地区画整理事業に伴い設置された基準点（日本測地系）を利用した。
- 2 調査区画については、座標系の格子を利用し、表記の標準化を図った。100m格子を東西・南北それぞれ10分割し、さらに各5分割した2m格子を設定した。100m格子の位置は、1km格子を同様各方向10分割した位置で表示した。実際は各2桁の数字を用い、上の桁が西方向、下の桁が北方への分割区画を示す。100m格子に「G」を冠して記述中でわかるものとした。
例) G46-8032は100m区画46の東から8、南から10番目の10m区画中の、東から3番目、南から2番目の2m格子。
- 3 図中に用いる方位は国土座標の座標北である。
- 4 報告中の遺構・遺物番号は、それぞれ登録番号を用い、調査現場での記録から整理、収蔵まで一貫して管理し、台帳・図・日誌等関係に記載した情報と極力連づけておくことに努めた。記述中必要に応じて、遺物には「R」、遺構には「M」を付した。また、遺構番号については、第10次調査の番号を引き継いで、1201から用いることとした。

遺跡調査番号	0 5 3 1		調査略号	I Z G - 1 1	
調査地籍	福岡市西区今宿町76-1の一部、76-2、78-5、92-2、92-5、95、97-1の一部、および98		分布地図番号	1 1 2	
工事面積	130 ha	調査対象面積	6,900 m ²	調査面積	6,900 m ²
調査期間	2005（平成17）年7月8日～2006（平成18）年12月9日				

本文目次

1 今宿五郎江遺跡第11次調査の概要	5
1. 発掘調査の概要	1
(1) 発掘調査	1
今宿五郎江遺跡の立地	
発掘調査	
(2) 調査遺構	1
2. 谷1203の土層	4
2 今宿五郎江遺跡第11次調査出土遺物	5
1. 出土遺物の概要	5
2. 出土遺物	5
(1) 土器・土製品	5
(2) 金属器・金属製品	6
(3) 木器・木製品	7
(4) 土製品	8
(5) 石器・石製品	8
3 おわりに	125

図目次

図1 今宿五郎江遺跡調査区位置図	2
図2 今宿五郎江第11次調査区	3
図3 谷1203土層模式図	4
図4 薄片鑑定試料	18
図5 薄片(1)	19
図6 薄片(2)	20
図7 歴年較正結果	22
図8 今宿五郎江第11次調査出土木製品の 光学顕微鏡写真(1)	30
図9 今宿五郎江第11次調査出土木製品の 光学顕微鏡写真(2)	31
図10 今宿五郎江第11次調査出土木製品の 光学顕微鏡写真(3)	32
図11 谷1202 4層出土土器	33
図12 谷1202 5層出土土器	34
図13 谷1202・溝1204出土土器	35
図14 谷1202・溝1204出土土器	36
図15 挖立柱建物1831出土土器	36
図16 谷1203 11層出土土器(1)	37
図17 谷1203 11層出土土器(2)	38
図18 谷1203 11層出土土器(3)	39
図19 谷1203 19層・22層出土土器	40
図20 谷1203 23層出土土器	41
図21 谷1203 19層・27b層・39層出土土器	42
図22 谷1203 49層出土土器	42
図23 谷1203 50層出土土器	43
図24 谷1203 50層・25層・35層出土土器	44
図25 谷1203 36層出土土器	45
図26 谷1203 36層・39層出土土器	46
図27 谷1203 40層出土土器	47
図28 谷1203 27層・42層出土土器	48
図29 谷1203 42層出土土器	49
図30 谷1203 51層出土土器	50
図31 谷1203 52層出土土器	29
図32 谷1203 52層・53層・67層出土土器	30
図33 溝1561・溝1567・M1570出土土器	53
図34 井戸2029出土土器	24
図35 土器埋置1716～1718	54
図36 楽浪系土器	55
図37 瓦質土器・陶質土器	56
図38 異系統土器・土師器(1)	57
図39 異系統土器・土師器(2)	58
図40 金属器(1)	36
図41 金属器(2)	37
図42 金属器(3)	38
図43 金属器(4)	39
図44 鍤(1)	40
図45 鍤(2)	41
図46 鍤(3)	42
図47 鍤(4)	43
図48 鍤(5)	44
図49 鍤(6)	45
図50 鍤(7)・鍤柄	46
図51 鍤(1)	47
図52 鍤(2)	48
図53 斧(1)	49

図54 斧 (2)	50	図89 土製品	107
図55 斧 (3)	51	図90 石器 (1)	107
図56 斧 (4)	52	図91 石器 (2)	108
図57 箔 (やす) (1)	53	図92 石器 (3)	109
図58 箔 (やす) (2)	54	図93 石器 (4)	110
図59 尖頭器	55	図94 石器 (5)	111
図60 網棒・櫂	56	図95 石器 (6)	112
図61 斧柄 (1)	57	図96 石器 (7)	113
図62 斧柄 (2)・鎌柄・柄	58		
図63 工具・火鉗臼・紡錘車 (1)	59		
図64 紡錘車 (2)・木鎌・短甲	60		
図65 弓・容器 (1)	61	表目次用	
図66 容器 (2)	62	表 1 放射性炭素年代測定結果	12
図67 容器 (3)	63	表 2 歴年較正結果	12
図68 容器 (4)・杓子	64	表 3 岩石薄片鑑定結果	17
図69杓文字	65	表 4 放射性炭素年代測定結果	22
図70 蓋 (1)	66	表 5 今宿五郎江第11次調査出土木製品の 樹種同定結果	25
図71 蓋 (2)・机	67	表 6 今宿五郎江第11次調査出土木製品の 樹種同定結果一覧	29
図72 椅子・服飾具	68	表 7 揭載遺物一覧 (1)	114
図73 裝飾部材・形代	69	表 8 揭載遺物一覧 (2)	115
図74 部材・板材	70	表 9 揭載遺物一覧 (3)	116
図75 部材・未分類	71	表 10 揭載遺物一覧 (4)	117
図76 谷1202出土土器	95	表 11 揭載遺物一覧 (5)	118
図77 谷1202、谷1203 10層・11層出土土器	96	表 12 揭載遺物一覧 (6)	119
図78 谷1203 11層出土土器	97	表 13 揭載遺物一覧 (7)	120
図79 谷1203 11層・21層・22層・19層・44層・ 27層出土土器	98	表 14 揭載遺物一覧 (8)	121
図80 谷1203 27 (b) 層・25層・26層・35層・ 36層出土土器	99	表 15 搬入土器観察表 (1)	122
図81 谷1203 39層・40層出土土器	100	表 16 搬入土器観察表 (2)	123
図82 谷1203 40層・50層出土土器	101	表 17 搬入土器観察表 (3)	124
図83 谷1203 50層・23層・38層・45層・49層 出土土器	102		
図84 谷1203 49層・57層・42層出土土器	103		
図85 谷1203 42層・51層出土土器	104		
図86 谷1203 52層・凹地1557・凹地1565・ 溝状凹地1567出土土器	105		
図87 溝状凹地1569出土土器	106		
図88 楽浪系土器	106		
		別表	
		表18 報告遺物一覧	
		表19 今宿五郎江第11次調査台帳	

1 今宿五郎江遺跡第11次調査の概要

1. 発掘調査の概要

(1) 発掘調査

今宿五郎江遺跡第11次調査は、発掘作業を2005（平成17）年度着手し、2006年度まで継続した。

調査成果のうち、遺構については2012年度報告した^{*}。続いて、今回出土遺物について報告するが、始めに発掘調査・調査遺構について概要を記す。

今宿五郎江遺跡の立地 今宿五郎江遺跡は、高祖山麓から今津川に向かって延びる丘陵の末端部に台地発達する台地上に立地する。遺跡の立地する台地は、沿岸砂州の後背湿地に突出するような地形となっている。遺跡の範囲は中央の台地と一段低い周縁の台地、東西に深く入り込んだ谷の一部に及ぶ。全体に北へ緩く傾斜し、最高所で現況の標高8m、西側の低い台地の西縁部に位置する第11次地点調査区では、南東隅で標高5.6m、緩く北へ下った調査区北端で3.2mとなる。第11次地点では、調査区の西側を南方から北方に貫流する谷1203が埋没した状態で検出された。

発掘調査 発掘調査は、2005（平成17）年7月8日着手し、調査区を南北4区に区分して進め、調査区西側に遺構分布が広がる可能性が生じたことから、5区を設定した。台地部の調査を終わり、谷1203の調査を進めて、現場作業を2006（平成18）年12月9日完了した。

(2) 調査遺構

第11次調査で検出した遺構は、登録したもの961件、うち台地部で登録したものが大半である。また、登録した以外に遺物の出土がない、あるいは柱痕跡の確認できない小穴が多数分布している。

台地部では、主に谷1203東岸台地の北側に偏って、M1222等不整形形状の土壌群が、南に偏って柱穴が分布する。柱穴の分布域と重なって、弧状の溝が群在する。2次調査区から伸びる溝（M1204）も確認した。柱穴から掘立柱建物48棟を復原することができた。1間×1間の構造が多いが、1間×1間、2間×3間規模が多いなかで、建物1531は梁行3間、桁行5間以上を復原できる。

調査区の北東隅では東側を流れる谷1202が埋没している、第2次調査区に谷頭があるもので、岸部では遺物投棄が見られる。

調査区西半部の谷1203底には、南の第12次調査区から続いて溝2495が掘削されおり、調査区内で終わる。溝2195の掘削により、その残土が盛土状に残される。残土層中からは埋置されたような土器の出土があった（M1716～1718）。また、この盛土状の高まりによりそれと、谷岸部との間の谷底に溝状の凹地（M1561・1567）形成され、その底部で纏まとった遺物の出土状態が見られる。

溝2495は程なく埋没し、続いて谷1203も埋没してゆく。その過程で、おそらく流水により、浅い凹地が形成される（M1391・1557・1565・2025・2076）。この部分から多数の木器を含む遺物が出土した。

更に谷1203埋没途中、井戸2029が掘削され、その下位堆積層を掘り込んで設置されていたものとみえる。溝2495北端部では、埋没の進行した段階で、杭群2086が打設される。また、東西両岸、特に東岸から土器の投棄が行われて、大量の土器が集中して出土した。その遺物については、一部を土器投棄1569（39層）・1670（40層）として取り上げた。

以上の様に谷1203では、溝2495掘削後に様々な変化、人為的改変が加わっている。それを反映してか、本調査において出土した遺物の大半は谷1203中の出土である。また、このような改変が加わる以前、あるいは古い段階の可能性考えられる矢板列1560・2205・2028の構築も行われている。

*『今宿五郎江13』福岡市埋蔵文化財調査報告書第1181集 2013

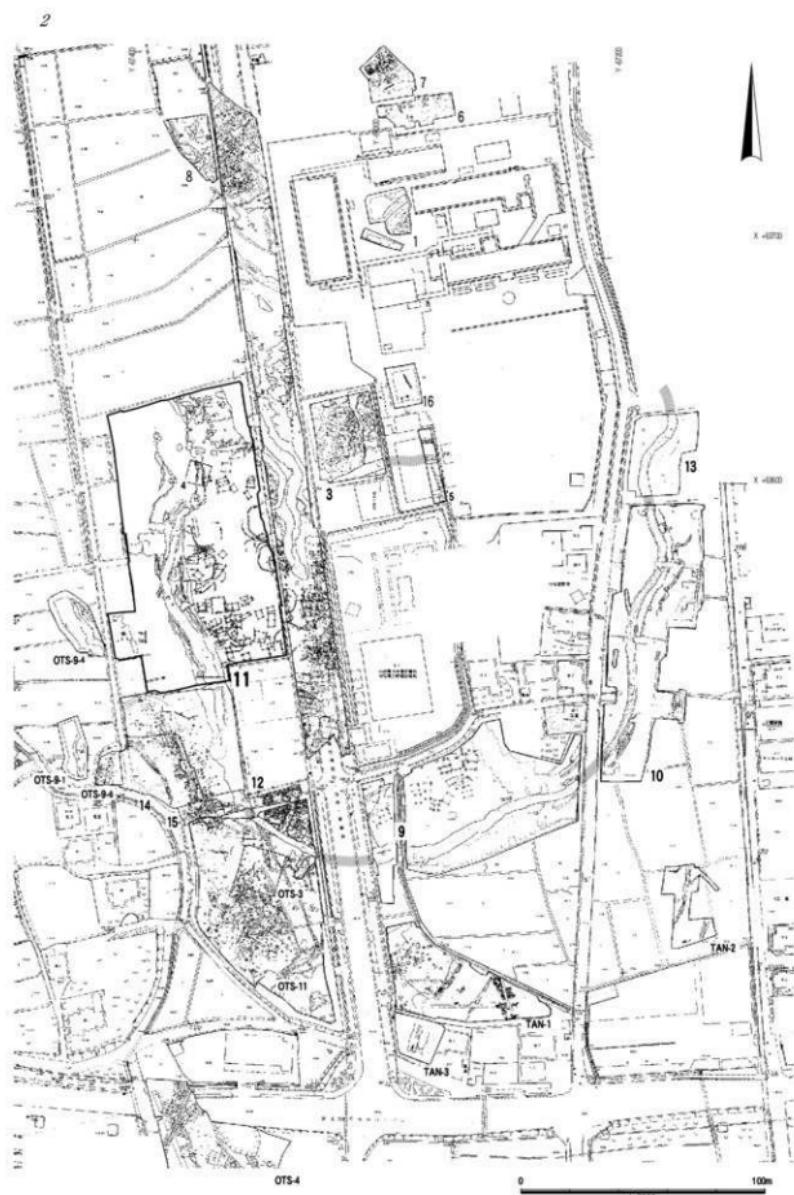


図1 今宿五郎江遺跡調査区位置図 (1:2,000)

※ 数字は、今宿五郎江遺跡調査地点（調査次数）

OTS 大塚遺跡調査地点

TAN 谷遺跡調査地点

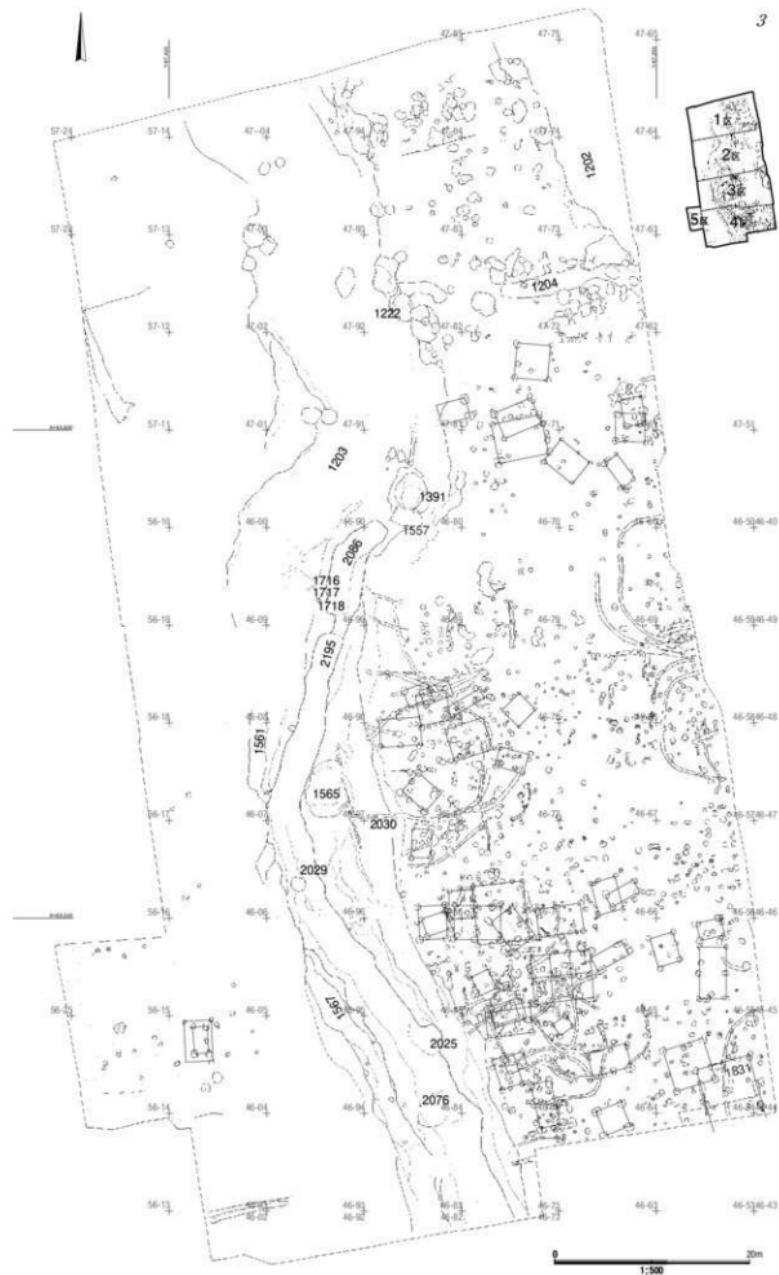


図2 今宿五郎江第11次調査区全体遺構図(1:500)

2. 谷1203の土層

第11次地点では、台地部のほかに谷部の調査を行った。本調査で出土した遺物の大半は谷部、特に谷1203からの出土が大半である。調査では、作業の進行順に堆積層を極力細分、層番号を付していったため、必ずしも数字の前後関係が層の上下関係を表していない。また、調査位置ごとに採番した部分もあり、異なる層（番号）で、同一層と見られるものも含まれている。

谷1203の土層について、谷底に掘削された溝2195との関係を含め、再度整理しておきたい。調査地を含む一帯は、東西の谷（谷1202・1203）埋没の後、広く均質な堆積層に覆われる。発掘調査はこの層を除去し、谷部の全体を覆う黒褐色土層（10層）以下について行った。各層は量の多寡はあるが、ほぼ全て遺物包含層である。報告遺物の出土層を大きく分けると以下のようになる。

1) 上部層 谷1203埋没最終段階の部分。谷1203の範囲のはば全域に堆積する。粘土質の黒褐色土～泥炭質の黒褐色土層（10層・10b層・11層）の上部、泥炭質の下部に分けることができる（19層・44層）。凹地（M1391・1565・2076）は19層で検出し、19層が埋めている。

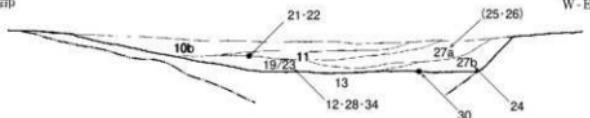
11層下面とする位置に、土器投棄層かと思われる遺物の集中出土部が分布する。（27a層・39層・40層・36層・44層・50層）。3区では上下に分層した地点がある（39層/40層）。44層を除き、谷1203東岸に沿う分布である。21層（粘土）、22層・62層（粗砂）もこの位置に部分的に分布する。

2) 中部層 谷底の溝2195埋積層上部。溝が漏斗状に大きく広がった部位の堆積。調査1区では、溝2195を超えて分布する。粗砂・砂礫層、泥炭まじりの粗砂・砂礫層。（23層・28層・48層）

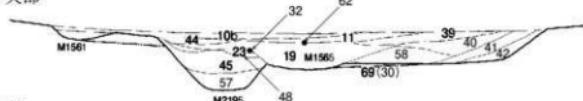
3) 下部層 溝2195下部層。粗砂・細礫層、上・下部に泥炭層の薄層を挟む（45層・49層（49a～c層）・56層・57層）。最下底には有機物を含まず、細砂薄層を挟む粘土層（67層）が一部に堆積する。

4) 基底層 溝2195掘削以前または、掘削に伴い形成された層である。谷1203東岸から谷底面にかけて、投棄されたように土器が密集出土する（27b層・41層・42層・52層）のは、溝2195掘削以前か、これに掘削に伴い生成したと思われる層が重複する（51層）。溝2195掘削に伴う残土を盛り上げたとおもわれる層が溝の東西岸に分布する（29・53層）。

谷1203 北部



谷1203 中央部



谷1203 南部

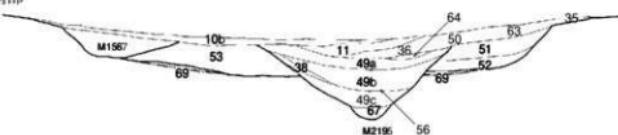


図3 谷1203 土層模式図

2 今宿五郎江遺跡第11次調査出土遺物

1. 出土遺物の概要

今宿五郎江第11次調査の出土遺物は、土器類・木質遺物が大半を占め、石器類が続く。加えて少量の金属製品・ガラス製品が加わるという構成であった。

土器について、整理作業（注記分別）中、出土単位（現場遺物番号）で計量を行った。結果、出土土器の総量は28,634kgとなる。谷1203内からの出土が最も多く、24,903kgで計量総量の67%近くを占めている。これに次いで谷1202出土土器が623kg（2%強）、溝1204出土土器270kg（0.9%強）となる。更に不整な土壤1222（53kg）・1211（49kg）の土器量が目立つが、いずれも谷1203の遺物集中部に重複していることから理解できる。ちなみに、出土量10kg以上の遺構が別に6基、10kg未満の遺構は、769基。そのうち、出土量1kg未満のもの668kg、平均土器量150gとなる。このように、谷1203・1202、溝1204から集中出土したことがわかる。

谷1203においても、偏りがあり、10（b）・11層で6,944kg、総量の30%近くを占めている。

木器と分類するものは、840点余りが出土し、ほかに杭の類が多数出土した。出土層は、下部層（49層）からものが多く、上部の11層、次いで中部の23層となる点、土器とは相違する。

石器と分類した資料は2,770余点となる。最も多いのは敲打刃器（縁部打ち潰し状石器）でほぼ40%を占める。以下、石錐（19%）、敲石（13%）、砥石（11%）が主要な構成器種である。出土層は、谷1203上部層に偏り、総数の70%となる、うち10（10b）層・11層から36%近くを占めている。以下、中部層13%、下部層7%、基底層（谷1203底部）4%。谷1203以外からは4%の数出土している。

今回、実測図を示すことのできなかった遺物は、一部写真で補った。後掲一覧表（表7～14）に、遺物分類・出土位置について記し、以下の詳細については、紙数の関係から、別表（データ）で示す。

2. 出土遺物

（1）土器・土製品

谷1203については層別、他は遺構別で出土土器を報告する。なお、外来系土器については、集成して、別項で詳述する。

谷1202出土土器（図11～13、76・77）5層、15層出土遺物を示す。5層出土の大形甕315は、細片となったものが、いくつかに纏まって出土した。同様の大形土器は、溝1203では顕著でない。

谷1204出土土器（図14・77）上半部から、土層の堆積に沿うような状態で出土した。破片が多く、全形のわかる資料は器台が多い。

建物1831・建物1832出土土器（図15）布掘りの柱穴があり、大形の掘立柱建物。12987・12988・12989は建物1831柱穴、R12986は建物1832柱穴出土。小破片～細片資料である。

谷1203 10b層出土土器（図19・77）細片化した資料が谷の岸から一面に分布するような状況が見られた。高坏脚部9080は、中程に線刻による文様を刻んでいる。

谷1203 11層出土土器（図16～18、77～79）部分的に投棄したような土器の出土が見られる。地點により土師器、須恵器の出土があったが、層を分離できるような出土状況は確認できなかった。

谷1203 21層・22層出土土器（図19・79）11層下に部分的に分布する粘土層、粗砂層であり、洗い出しによるような出土状況も観察された。高坏8759は、圧潰したような状態で坏部が細片化して出土した。

谷1203 25層・26層・27 (a) 層出土土器 (図12・21・24・28・79・80) いずれも1・2区の谷岸部に沿って地的に分布堆積する。27層はa・b層に分離したが、その境界部は不明瞭。上下層の土器が接するようにして出土した。断面観察では、別々の面に沿って堆積していることがわかる。

谷1203 35層・36層・50層出土土器 (図23～25・80～83) 35層は調査4区、谷東岸、岸部付近の台地状に細片化した土器の密集分布部分。肩部から谷へ向かって堆積する50層、谷中央に近く土器が密集する36層となる。36層では、土器がほぼ完形のまま内部に空隙を残して出土した。

谷1203 39層・40層出土土器 (図19・26・27～25・81～83) 調査3区、溝2195の蛇行により、広く残された谷底面に、東岸から堆積する。39層上部では細片化した土器が顕著である。この中で後述する楽浪系土器の出土があった。二つに割れた破片を重ねた状態で出土し、その位置に置かれたことがわかるものである (図36-楽浪系土器/土器3702)。

谷1203 19層・44層出土土器 (図19・21・79) 11層から漸移するような地点もある。土器の出土量は減少し、全形がわかる資料は少ない。44層は谷1203西岸に沿って形成されたもの。図21に示す、壺底部12990は、底面に線刻が残る。先端の整っていない工具で、屈曲する薺研磨り状の沈線を刻む。図19下段4819・11805が44層出土。

谷1203 23層出土土器 (図20～22・25・83) 粘土・泥炭が主となっていた上部層から変わって、粗砂、部部的に砂礫が。主となる層である。遺物出土量は比較的多い。洗い出しによるような出土状況が見られた。図20に示す鉢9604は、やや特異な土器である。口縁部が不整で、口縁に沿う方向に帯状に被熱したような痕跡が残る。

谷1203 45層・49層出土土器 (図22・83・84) 溝2106の埋積層。土器総量の%程の出土量である。全形のわかる状態での出土は少なく、遺存状態の良好なものは小形の器形が多い。

谷1203 67層出土土器 (図32) 溝2195の最下底層。調査区南半部に分布する。出土遺物は少量であるが、壺7528が成立した状態で出土した。

谷1203 27 (b) 層出土土器 (図28・79・80) 調査1区、谷東岸から底面に堆積する層で、先述したように上層との境界が不明瞭なため上層資料と思われる土器を含む。調査時の所見では完形の土器を含み、壺は丹塗りのものが多い。

谷1203 41層・42層出土土器 (図27～29・33・84・85) 調査3区谷1203東岸から谷底面にかけて、流れ込んだ様な状態で土器が密集する。丹塗り土器が顕著である。

谷1203 51層・52層出土土器 (図23・30～32・85・86) 51層は、溝2195掘削残土、52層は、それに先立つ堆積としたが、52層は谷底部分のみか。崩落した第11次調査区南壁では、より密集した出土状況が見られた。壺は丹塗りのものが特徴的。破片も比較的大振りである。

谷1203 53層出土土器 (図32・85・86) 主として調査4区、溝2195両岸にのこる、掘削残土と考えられる層中の出土。全形がわかるような破片が、点々と残っているような状態での出土があった。赤色顔料塗彩の壺が含まれる。2区29層と同じ契機による形成。

井戸2029出土土器 (図34) 谷1203埋没途中の段階で設置されたものと考えられるが、調査では確認できなかった。底部近くにやや斜めに傾いて壺7479が出土し、その中に落ち込んだ状態で手捏ね土器7475が出土した。後者が浮いた状態で出土していることから、やや遅れて流入したものか。

土器埋置1716～1618 (図35) 調査2区、溝2195西岸に残る、溝掘削残土層とする粘土層中に埋め込まれた状態で、近接して出土した。土器埋置1716・1717は壺を倒立した状態で、下層の粘土層に据えた状態、土器埋置1718は下に壺底部5395を置き、上に壺上部5375を乗せた状態で出土した

(2) 金属器・金属製品

溝1204出土の銅鏡を除き、谷1203上部層からの出土である。溝2195中・下部層からの出土である。

耳環は、11層の出土。同層には極小量の須恵器が出土する地点がある。鋳造鉄斧は、谷2103上部層からの出土の他溝2195掘削時の残土層とする（51層）、下位の包含層（52層）からの出土があった。図40・42に銅鏡、貨泉、耳環、小銅鐸を、図41・43に銅鏡、鉄斧他、図42・43に鋳造鉄斧を示す。

（3）木器・木製品

以下、分類に沿って報告する。

鎌・柄（図44～51） 平鎌を図44～47に、狭鎌を図48・50、又鎌を図48～50、広鎌を図49に示す。鎌を構成する部材として図47下に泥除け、図50・51に柄を示す。狭鎌3644には、柄3644が装着された状態で出土した。鎌とするものの1/2近くは49層の出土、1/4が23層出土。

鎌・柄（図51・52） いずれも一本鎌である。刃先の広狭、形状に幅がある。5589は、握把部の再加工品で、尖端部を削りだしている。

柄振・田下駄（図51・52） 柄振2727は、柄を装着した状態で出土した。装着状態を復原図示するが、楔の上下は不明。柄振本体に柄の形状に合わせた抉り込みがある。また柄の切欠きは、鍬柄とは逆の位置が深い。

杵・椎（図53～56） 図53・54に大形、図54・55に小形の資料を示す。大形の2262は柄の形状から両頭の杵と考えられる。小形の資料は、撫面が平滑もしくは球面状にならないものがあり、側面に敲打痕を残すものと合わせて砧（小形の横槌）とする（1861・2237・3706・5802・12735）。図56の2575・5914・6291は横杵、掛矢5841は顕著な敲打痕を残す。6870は広く平滑な撫面をもつ。堅杵とするが、臼に対するものは不明。

錠・尖頭器（図57～59） 長尺細身の尖頭器を錠（やす）とする。大半がイスノキを材に使用するものと見える。先端部に片側の切欠き、全周する削り込みにより、逆刺を作り出すものがある。基部の片側あるいは両側を削ぎ取り薄くするものがあり、東ね合わせて放射状に開く先端部を構成するための加工と考えられる。錠5707には基部近くに切欠き部があり、結束用の加工ともされるが、他資料には見られない。錠以外に径が大で、先端が籠状に薄くなり、基部端を丸く削るもの（7812・5279・5978・1305）、両端を薄く削ぐもの（7051・7613）などがある。

網枠・柵（図60） 枠部分の他、枠部分が分歧する位置の柄（6772）、枠の結束部（4509）がある。

斧柄・鎌柄・工具柄・鞘（図61・62） 斧柄の台は、金属斧の袋部を受ける形状に整形される。本地点では横斧が多い。5209は、鶴嘴状の端部に整形されている点得意である。鞘7079は、平滑な端面が残り、鞘口部分か。

工具類・火鑄臼（図63） 5979・7065は、全長の1/2程の部分を広く厚い板状に整形する。1858は、板状の材の一端を臍状に削りだし、片側と他端に顕著な磨耗部が残る。5525・7449・5748は土器の器面調整具かとする資料である。前2者は両端部が磨耗、焼入している。スギ材。5748は端部を上に置いた位置で右側に当たる縁部が顕著に磨耗し、側面観では形成された稜線がSの字状にねじれる。アカガシ材。火鑄臼は、未使用のもの（1876）、部分的に使用したもの（5695・3802・7583）がある。

紡錘車（図63・64） 中央部が僅かに厚い形状が多いが、片側がより膨隆するものがあり、その程度に変異がある。5288は、石製であるが、木製の軸が遺存する。図64Cに、未完成と思われる資料を掲げる。連接して整形を進めている。成品は紡錘車6295のような片側がより膨隆する形状か。

武器・武具（64・65） 5366・1236・3634は木鎌。1647・1648は柄の断片。2179は短甲の右前脛部分か。側面に紐孔が残る。5646・4767・7340・8984は弓。後2者は断片で、赤色の顔料で塗彩されている。

容器（図65～71） 12530・5351は削り抜きの壺、2321は底部中央に穿孔がある。2664～4426は簡

形容器の部分。2664は体部断片か、4426は底部、それ以外は蓋。11558・7449は壺を想定するが、全形不明。6831・2722は筒形容器、1881・1862は桶部材。5895は脚付皿。12148・4635・6737は高环脚部。12732は脚付鉢、7101・5711・6383・7040は脚付槽。5727・3957は小形の槽。図68下は杓子。杓子4411は未成品か。図69は杓文字。図70・71-5729は蓋。

家具（図71・72）図71上・中段に示すのは案（机）部材。図72には倒り抜き椅子を示す。

服飾具（図72）5510は沓。7620は簪。4419・5583は腰帯。5583は薄く、刃部は刻線。

装飾部材（図73）7037・2733とともに部材であるが、組み合わせの位置、原形不明。

人形・鳥形（図73）1866は取りか。6897は、線刻で顔を表現する。

部材ほか（図74・75）図74は建築にかかる部材。1903は独楽形木製品。459は臍穴のある部材。5610は留め具か。6460は組輪の掛かった棒材。12733は切断材。12734軸状突起ある断片。

（4）土製品

少數が出土し、図89に示す。8666は、土製勾玉、1022・9086は卵形で、投弾とする。1552は丸玉、9081・8806は大小あるが円盤。5182は、紡錘車とする。孔径は小さく不整、側面形は山形を呈す。

（5）石器・石製品

先土器時代・縄文時代の石器（図90）8590は2側縁加工のナイフ形石器。4066以下12369までは石鎌。9270・8658は石匙。

磨製石鎌・石斧（図90）3883は磨製石鎌。8603・4996は偏平片刃石斧。9384は柱状片刃石斧。

石包丁（図91）背の部分が直線状と曲線を成すものとがある。各段階の未成品を含む。

大型蛤刃石斧（図91中）完形の資料は無いが、製作各段階の資料が含まれる。

敲打刃器（図91下）剥片縁部に剥離痕が連続するもの・打ち潰し状となるものが典型的であるが、礫の縁辺にも同様の痕跡が残るもの（10105）があり、それも含めた。

紡錘車（図92上）厚い板状が大半、片側が膨隆する例（5221）がある。各段階の未成品を含む。

石錘（整形石錘）（図92下～94）紡錘形（図92）・涙滴形（図93上）・鐘形・環形（図94上）に分類できる。各段階の未成品を含む。紡錘形の石錘は、溝の位置により、縱溝・横溝・縱横溝の分類をすることができる。環形とする石錘は、厚薄の変異がある。

石錘（礫石錘）（図94中）素材礫により角柱形、平行2分類できる。側縁中央部を打ち欠く。極大型の例（9519）がある。平行は更に上下編を打ち欠く交差形のものがある。

浮子（図94）素材軽石に穿孔（1292・8692）、切欠きを行い（9507・12043）、紐掛かりを設ける。

砥石（図95）平行と角柱形とがある。平行の12524・12525には、溝状の窪みが形成されている。砥石10343・10345・10349・8677は鋳型転用と思われる。3180は大形で、広く平滑な凹面が形成されて、石皿とする。

鳥形（図95）1287は滑石材。頭部の表現が先述した木製鳥形（1366（図73）に似る。

石杵（図96）454以下10344まで、何れも、研磨により、図上の下面が平滑な面となっている。454下面には赤色顔料が遺存する。10344は他資料が砂岩であるのに対し玄武岩製。研磨面と見た部分は節理面の可能性もある。厚い礫11676の上面は、平坦な平滑面で、僅かに赤色顔料が残る。石杵と組み合わせ使用した石皿か。

（6）玉類

図95に玉未成品、製作残滓を示す。2294は青色のガラス小玉。図示しないが極小径のガラス小玉が限られた範囲から多数出土した。R2341以下は、碧玉素材の角柱状の加工品である。一見すると石核であるが、剥片となるものの規模が小さく、角柱状に整形されているようにみえる。玉素材か。

3. 外来系土器について

今宿五郎江遺跡の中でも第11次調査地点から朝鮮半島系土器が最も多く出土している。今宿五郎江遺跡・大塚遺跡からは楽浪系土器約40点と三韓系瓦質土器約20点が出土しているが、それらは95%以上が環濠集落域周辺に集中しており、さらにその8割以上が11次調査出土である。また、外来系の弥生土器の出土も多く、本章で合わせて報告することにする（第36～39図、表15～17）。

(1) 楽浪系土器（第36図）

図化28点、未図化4点出土している。いずれも灰色泥質胎土で、個体識別が難しいが、25個体前後はあるとみられる。全て鉢（椀）類である。法量は口径11.6～17cm、底径6.9～10cm器高6cm前後の小型のものが多いため、8608は底径12cm、9442は底径15.4cm前後とやや大型である。出土層位は環濠周辺の上層から上面の包含層であり、弥生終末期前後の土器が多い層である。

調整は、内外面凹凸のある回転ナデ、底面は静止糸切で、外底面～底側部を持ちケズリで調整している。風化しているものが少くないが、基本的に内外面黒化処理が施されている。内面に暗文が確認されるもの（141、1986、3732、8602、8994、9051）、外底面にX字状のヘラ記号（3702）や円形刺突（8606）のあるものなどがある。暗文（沈線に近いものもある）は斜行の放射線文が多いが、3732は底面に斜格子文も施されている。口縁形態を中心に、以下のように大きく3つに分類することができる。

A類（口縁端部が内傾気味で、単純口縁から肥厚するものを含む。法量等でも細分可）：3702、8607、9203、12984

B類（口端部はA類に準じるが、口縁下と胴中位に突帯状の稜線を作出）：8604、3625、3732、3314、8994

C類（口縁がL字状に外方へ突出）：8660、8602、9438、8664、192、9202

C類は楽浪土城出土土器（谷1985他）にあるが、B類ではなく、A類も楽浪土城のものとは、器形等違いが目立つ。「帶方郡の土器」が多いのではないかと推測しているが、その区別については今後の課題である。博多湾沿岸では糸島地域を中心にA～C類の各類例が出土しているが、今宿五郎江遺跡は明らかにこの器種に特化しており、優品を含むことから、「伊都国」内における交易品の集積地であり、市場であったことがうかがえる（森本2010）。

(2) 三韓系瓦質土器と陶質土器（第37図）

三韓系瓦質土器は図化12点、未図化4点出土しており、10個体前後とみられる。出土層位は楽浪系土器と同様である。また、陶質土器が1点出土している。9056が、陶質土器大型鉢である。「く」字状口縁であるが、端部に面があり、先端が垂下気味である。4世紀前後、古墳前期段階の、他の瓦質土器よりは新しいものとみられる。

瓦質土器は716と8605を除き、全て縄目タタキの壺である。8501・7621の個体は頸部周辺から底部付近までの破片が出土している。頸部が比較的すぼまっており、胴部に沈線等がみられない。同様のタイプは12次調査でも出土している。

716は半島中西部系、平底タイプの小型甕（鉢）とみられ、3世紀前後に位置づけられるものである。格子目タタキの瓦質土器はこの716と8605のみであった。

(3) 外来系の弥生土器、土師器（第38・39図）

12985、11782、11926、1382は、凹線（擬凹線）文を有する内傾口縁の瀬戸内系土器で、型式的に弥生時代後期前半以前のものである（ただし、出土層位は環濠上層）。12985は胴部に瘤のある特異

な壺である。内面は、ケズリでなく、西部瀬戸内系とみられる。11782は比較的精製の作りで、器壁も薄い。口頸内面の凹線や胴部内面のケズリが頸部まで及んでいないことからも、中部瀬戸内ではIV様式の型式となる。1382は白っぽい胎土で、頸部下が列点文風となっており、山陰寄りのものとみられる。

9078・9054は櫛描波状文の施された広口長頸壺で、10次の7533と同一型式のものである。弥生後期後半から終末期前半の西部瀬戸内系とみられる。

8788、4049は山陰系壺、12377、8812は山陰系の小型壺や甕、9528、9085は山陰系甕、11867、11862、9164は山陰系鼓形器台、9278は山陰系低脚杯である。8812は弥生後期後半の可能性があるが、多くは弥生時代終末期以降の型式で、9085は古墳前期前半の型式である（古墳前期前半以降のものは他にも一定量出土）。鼓形器台は厚手粗製で、脚台の方が受け部の段より径が大きいので、搬入品ではなく在地産とみられる。低脚杯も、胎土は外来的であるが、器面調整が粗く、在地産と考えられる。

9091は近畿系の垂下口縁広口小型壺で、竹管文や櫛描波状文が施される弥生後期の型式である。胎土は「チョコレート色」生駒西麓のものに近いように見受けられる。

2661は垂下口縁の器台で、脚部の円形透孔は、縦位に2個並び、横位には段違いとなるよう配置されている。やや大型の器台で、近畿西部と西部瀬戸内が候補地であるが、柱状の脚部形態から北近畿の影響が及んだ播磨地域周辺のものとみられる。弥生後期末から終末期であろう。

9079は細かい櫛描文や貝殻列点文を特徴とする精製の小型壺または高杯である。野方久保遺跡、元岡桑原遺跡群、唐津の千々賀遺跡等に類例がある。類例から身下部に重心と稜線がある器形とみられる。文様は山陰等の外來系とみられるが、類似する器形のものを他地域には見出し難い。9206も細線による鋸歯文や羽状文等を特徴とする精製の鉢で、農前や肥後等にも類例がある。これも文様は瀬戸内等、外來系のものとみられる。9184は脚部に刻目突帯状の段を有する低脚の高杯である。系譜が明確でないが、外来的要素をもつ高杯である。9185は櫛描波状文を有する複合口縁壺で、搬入品かどうかは明確でないが、農前との関連がうかがえる。8308も「遠賀川以東系」の跳上口縁の甕で、弥生中期後半の型式である。9483は縦長の透孔を有する器台脚部で、「肥前型」とみられる。近隣では、三雲遺跡群で複数個体の肥前型器台が出土しており、大塚遺跡や谷遺跡では有明海沿岸系譜の高杯が出土している。9204、4924は耳状の把手と片口を有する浅鉢形である。瀬戸内や農前等で出土している、朱の精製用煮沸器に類例を求めることができる。本例には赤色顔料が付着していないものの、12次調査で朱の付着した破片が出土しているほか、L字形を含む赤色顔料精製用の石杵が11次調査等でも出土しているので、遺跡内で朱の精製が行われていたことは間違いない。

748は布留系の甕で、古墳前期初頭の型式である。今宿五郎江遺跡では、後続型式の布留系甕が多いので、稀少型式として報告したものであるが、福岡平野產の可能性がある。

11次調査出土の外來系土器には弥生後期前半型の瀬戸内系土器等もあり注目される。後期後半から終末期に増加するが、10次、12次調査地点などでも外來系弥生土器がまとまって出土しており、河内系を含む近畿系の垂下口縁広口壺、西部瀬戸内系の壺や高杯、山陰系の壺、甕、器台、東海系の壺、高杯などがみられる。本州広域から土器が入っている状況は、朝鮮半島系土器からもうかがえる対外交易の拠点遺跡としての性格ゆえであろう（森本2013）。

朝鮮半島系土器について、金武重氏、寺井誠氏（大阪歴史博物館）、久住猛雄氏（福岡市）よりご教示を得ました。末筆ながら御礼申し上げます。

（森本幹彦）

【参考文献】

谷豊信1985「浪速土城址出土の土器（中）」『東京大学文学部考古学研究室研究紀要』4

寺井誠2007「日本列島出土土器系土器についての基礎的研究」「古文化談叢」第56集

寺井誠2009「一の町遺跡および糸島地域出土の朝鮮半島系土器」「一の町遺跡発掘調査概要」志摩町教育委員会

森本幹彦2010「玄界灘沿岸地域における朝鮮半島系土器の様相2—弥生時代後期前後の楽浪系土器と三韓系土器の様相—」

「日本出土の朝鮮半島系土器の再検討—弥生時代を中心にして—」第59回国立歴史文化財研究集会

森本幹彦2013「博多湾沿岸域における外來系土器の様相」「平成25年度九州考古学会総会」研究発表資料集

3 自然科学分析

今宿五郎江遺跡第9次・10次・11次調査出土資料について、自然化学分析を委託実施した。分析は平成21年度・24年度・25年度実施した。

分析内容は、平成21年度、今宿五郎江第9次・10次調査出土炭化物の放射性炭素年代測定（1）及び第11次調査出土礫の岩石薄片鑑定（2）、24年度、第11次調査出土炭化材の放射性炭素年代測定（3）、25年度、第11次調査出土木製品の樹種同定（4）である。以下分内容別に報告する。分析・報告者については文頭に記す。

1. 今宿五郎江第9次・10次調査出土炭化材の放射性炭素年代測定

パリノ・サーヴェイ株式会社

（1）試料

試料は、今宿五郎江遺跡9次調査で出土した炭化材2点（試料番号6122、6132）と10次調査で出土した炭化材1点（試料番号1895）の合計3点である。各試料の調査番号、遺構、出土層位などは、結果を示した表1に併記する。

（2）分析方法

土壤や根など目的物と異なる年代を持つものが付着している場合、これらをビンセット、超音波洗浄などにより物理的に除去する。その後HClにより炭酸塩等酸可溶成分を除去、NaOHにより腐植酸等アルカリ可溶成分を除去、HClによりアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分を除去する（酸・アルカリ・酸処理）。

試料をバイコール管に入れ、1gの酸化銅（II）と銀箔（硫化物を除去するため）を加えて、管内を真空にして封じきり、500°C（30分）850°C（2時間）で加熱する。液体窒素と液体窒素+エタノールの温度差を利用して、真空ラインにてCO₂を精製する。真空ラインにてバイコール管に精製したCO₂と鉄・水素を投入し封じ切る。鉄のあるバイコール管底部のみを650°Cで10時間以上加熱し、グラファイトを生成する。

化学処理後のグラファイト・鉄粉混合試料を内径1mmの孔にプレスして、タンデム加速器のイオン源に装着し、測定する。測定機器は、NEC製コンパクトAMS・1.5SDHを用いる。AMS測定時に、標準試料である米国国立標準局（NIST）から提供されるシェウ酸（HOX-II）とバックグラウンド試料の測定も行う。また、測定中同時に¹³C/¹²Cの測定も行うため、この値を用いて¹³Cを算出する。

放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5,568年を使用する。また、測定期代は1950年を基点とした年代（BP）であり、誤差は標準偏差（One Sigma;68%）に相当する年代である。なお、暦年較正は、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV5.02 (Copyright 1986-2005 M Stuiver and PJ Reimer) を用い、誤差として標準偏差（One Sigma）を用いる。暦年較正とは、大気中の¹⁴C濃度が一定で半減期が5,568年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の¹⁴C濃度の変動、及び半減期の違い（¹⁴Cの半減期 $5,730 \pm 40$ 年）を較正することである。暦年較正は、CALIB 5.02のマニュアルにしたがい、1年単位まで表された同位体効果の補正を行った年代値を用いて行う。また、北半球の大気中炭素に由来する較正曲線を用い、測定誤差 σ 、 2σ 双方の値を計算する。 σ は統計的に真の値が68%の確率で存在する範囲、 2σ は真の値が95%の確率で存在する範囲である。表中の相対比とは、 σ 、 2σ の範囲をそれぞれ1とした場合、その範囲内で真の値が存在する確率を相対的に示したものである。較正された暦年代は、将来的に暦年較正曲線等の改正があった場合の再計算、再検討に対応するため、1年単位で表された値を記す。

(3) 結果

同位体効果による補正を行った測定結果を表1に示す。試料番号6122は $2,075 \pm 20$ BP、試料番号6132は $3,065 \pm 25$ BP、試料番号1895は $1,980 \pm 20$ BPであった。

各試料の較正暦年代を表2に示す。測定誤差 σ の年代でみると、試料番号6122は紀元前2世紀中頃～紀元前1世紀中頃、試料番号6132は紀元前14世紀、試料番号1895は紀元前1世紀末～紀元後1世紀中頃となる。藤尾(2009)に示されている九州北部の編年表に従えば、試料番号6122の年代は弥生時代中期後半に相当し、試料番号6132の年代は縄文時代後期末頃、試料番号1895の年代は弥生時代後期初頭頃の年代にそれぞれ相当する。

表1 放射性炭素年代測定結果

調査次	調査番号	試料番号	遺構	出土層位	種類	補正年代 BP	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	Code No.
今宿五郎江9次	0255	6122	4	23層	木炭	$2,075 \pm 20$	-27.03 ± 0.13	10853-1
今宿五郎江9次	0255	6132	427	36層	木炭	$3,065 \pm 25$	-29.28 ± 0.11	10853-1
今宿五郎江10次	0420	1895	427	16層	木炭	$1,980 \pm 20$	-26.39 ± 0.14	10853-1

1) 年代値の算出には、Libbyの半減期5568年を使用。

2) BP年代値は、1950年を基点として何年前であるかを示す。

3) 付記した誤差は、測定誤差 σ （測定値の68%が入る範囲）を年代値に換算した値。

* 試料番号は遺物登録番号。

表2 暗年較正結果

試料番号	補正年代 (BP)	暦年較正年代 (cal)										相対比	Code No.		
		σ	cal	BC	148	-	cal	BC	141	cal	BP	2,098	-	2,091	0.075
6122	$2,074 \pm 20$	2σ	cal	BC	111	-	cal	BC	48	cal	BP	2,061	-	1,998	0.925
		2σ	cal	BC	166	-	cal	BC	43	cal	BP	2,116	-	1,993	1.000
6132	$3,066 \pm 23$	σ	cal	BC	1,389	-	cal	BC	1,313	cal	BP	3,339	-	3,263	1.000
		2σ	cal	BC	1,408	-	cal	BC	1,289	cal	BP	3,358	-	3,239	0.961
1895	$1,982 \pm 22$	2σ	cal	BC	1,282	-	cal	BC	1,269	cal	BP	3,232	-	3,219	0.039
		σ	cal	BC	18	-	cal	BC	14	cal	BP	1,968	-	1,964	0.037
		2σ	cal	AD	0	-	cal	AD	55	cal	BP	1,950	-	1,895	0.963
		2σ	cal	BC	39	-	cal	AD	66	cal	BP	1,989	-	1,884	1.000

1) 計算には、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV5.02 (Copyright 1986-2005 M Stuiver and PJ Reimer) を使用

2) 計算には表に示した丸める前の値を使用している。

3) 1桁目を丸めるのが慣例だが、暦年較正曲線や暦年較正プログラムが改正された場合の再計算や比較が行いやすいように、1桁目を丸めていない。

4) 統計的に真の値が入る確率は σ は68%、 2σ は95%である。

5) 相対比は、 σ 、 2σ のそれぞれを1とした場合、確率的に真の値が存在する比率を相対的に示したものである。

* 試料番号は遺物登録番号。

2. 今宿五郎江第11次調査出土礫の岩石薄片鑑定

パリノ・サーヴェイ株式会社

(1) 試料

試料は、今宿五郎江遺跡11次調査で出土した礫5点（調査番号0531、試料番号11753～11757）である。いずれも破損した円礫であり、径5～10cm程度である。外観からは、花崗岩類、砂岩、緑色岩、火山岩などそれぞれ異なる岩種であることが推定される。各試料の出土遺構および出土層位などは、結果を示した表3に併記する。また、試料の外観を図4に示す。

(2) 分析方法

薄片観察は、岩石を0.03mmの厚さに研磨して薄片にし、顕微鏡下で観察すると、岩石を構成する鉱物の大部分は透光性となり、鉱物の性質・組織などが観察できるようになるということを利用している。

薄片を作製するために試料をダイヤモンドカッターにより $22 \times 30 \times 15\text{mm}$ の直方体に切断して薄片用のチップとする。そのチップをプレパラートに貼り付け、#180～#800の研磨剤を用いて研磨機上で厚さ0.1mm以下まで研磨する。さらに、メノウ板上で#2500の研磨剤を用いて正確に0.03mmの厚さに調整する。プレパラート上で薄くなった岩石薄片の上にカバーガラスを貼り付けたものが、観察用の薄片となる。薄片は偏光顕微鏡を用い、下方ポーラーおよび直交ポーラーにおいて観察記載を行う。

(3) 結果

鏡下における各構成物の量比は、薄片上の観察面全体に対して多量（◎：>50%）、中量（○：20～50%）、少量（△：5～20%）、微量（+：<5%）およびきわめて微量（±：<1%）という基準で目視により判定した。鏡下における代表的な箇所については、方ポーラーおよび直交ポーラーにおいて写真撮影を行い、写真図版として添付した。以下に、各試料の観察記載結果について述べる。

1) 0531-11753

岩石名：黒雲母角閃石花崗閃綠岩

岩石の組織：完晶質花崗岩状組織（holocrystalline granitic texture）

主成分鉱物

石英：中量存在し、粒径最大1.21mmの他形で不定形状を呈し、斜長石や苦鉄質鉱物の粒間を埋める。径0.3mm以下の細粒なものが大部分を占めている。

カリ長石：少量存在し、粒径最大3.5mmの他形で不定形板状を呈し、マイクロクリン双晶が発達する。石英、長石類、黒雲母、角閃石の粒間を埋める座状を示す。

斜長石：中量存在し、粒径最大3.3mmの半自形～他形で板状～不定形板状を呈し、集片双晶が発達する。カリ長石と接する部分においてはミルメカイト組織が発達する。配向性を示して分布するものが散見される。

黒雲母：少粒存在し、粒径最大0.25mmの他形で不定形柱状を呈し、淡褐色～暗褐色の多色性を示す。斜長石と同様な弱い配向性を示すものが認められる。

角閃石：少量存在し、粒径最大1.72mmの他形で不定形板状を呈し、淡褐色～緑褐色の多色性を示す。細粒な石英をポイキリティックに包有するものが散見される。

副成分鉱物

燐灰石：きわめて微量存在し、粒径最大0.17mmの半自形～他形で六角柱状～不定形状を呈し、角

閃石や黒雲母と接して分布する。

チタン石：きわめて微量存在し、粒径最大0.37mmの他形で不定形楔状～不定形柱状を呈し、褐色を示す。不透明鉱物、黒雲母、角閃石などと接して分布する。

褐廉石：きわめて微量存在し、粒径最大0.25mmの他形で不定形柱状を呈し、淡褐色～暗褐色の多色性を示す。

ジルコン：きわめて微量存在し、粒径最大0.22mmの半自形～他形で柱状を呈し、淡褐色を示す。角閃石や黒雲母と接して分布する。

不透明鉱物：微量存在し、粒径最大0.28mmの他形で不定形状を呈し、角閃石と接して散在する。

変質鉱物

セリサイト：きわめて微量存在し、粒径最大0.06mmの他形で針状～不定形板状を呈し、斜長石を交代する。

緑廉石：きわめて微量存在し、粒径最大0.27mmの他形で不定形柱状を呈し、無色透光性～淡黄色を示して斜長石を交代する。

炭酸塩鉱物：きわめて微量存在し、粒径最大0.41mmの他形で不定形状を呈し、斜長石のコアを交代する。

2) 0531-11754

岩石名：細粒砂岩

岩石の組織：碎屑状組織 (clastic texture)

鉱物片

石英：少量存在し、粒径最大0.27mmの他形で破片状を呈して散在する。円磨度の低いものが大部分を占めている。

斜長石：少量存在し、粒径最大0.36mmの他形で板状～破片状を呈し、集片双晶が発達する。セリサイト化しているものが散見される。

白雲母：きわめて微量存在し、粒径最大0.07mmの他形で薄板状を呈する。

角閃石：きわめて微量存在し、粒径最大0.74mmの他形で板状～破片板状を呈し、淡緑色～淡褐色の多色性を示す。

单斜輝石：微量存在し、粒径最大0.48mmの他形で柱状～不定形柱状を呈し、淡緑色を示す。結晶内部の割れ目に沿って粘土鉱物化しているものが散見される。

不透明鉱物：微量存在し、粒径最大0.29mmの他形で不定形柱状～不定形状を呈する。

岩片

デイサイト：きわめて微量存在し、粒径0.55～1.15mmで亜円礫状を呈し、角閃石の斑晶が認められ、石基は珪長質鉱物および変質鉱物の緑泥石で埋められる。

安山岩：少量存在し、粒径0.10～0.49mmで亜円礫～亜角礫状を呈し、斜長石の微斑晶を含み、石基はインターチューバル組織を示す。

基質

粘土：少量存在し、粒径最大0.002mmで微細粒状～不定形状を呈し、碎屑片の粒間に埋める。

緑泥石：微量存在し、粒径最大0.03mmの他形で纖維束状を呈し、淡緑色を示す。

緑廉石：微量存在し、粒径最大0.14mmの他形で不定形柱状～不定形状を呈し、淡黄色～淡褐色の多色性を示す。碎屑片の粒間に点在する。

酸化鉄：少量存在し、隠微晶質で微細不定形状を呈し、暗褐色を示して基質中に広範に分布する。

肉眼的な褐色の色調の原因物質となっている。

3) 0531-11755

岩石名：アクチノ閃石緑色岩

岩石の組織：交代状組織（replacement texture）

主成分鉱物

斜長石：少量存在し、粒径最大1.55mmの他形で不定形板状を呈し、無双晶で波状消光を示す。一部、集片双晶を示すものも認められる。

アクチノ閃石：中量存在し、粒径最大3.1mmの他形で針状～不定形板状を呈し、淡褐色～淡緑色の多色性を示す。弱い定向配列を示して分布する。板状を呈するものは径0.5mm以上の比較的粗粒なものが主体となっているのに対し、針状を呈するものは、板状結晶のリムに分布する。

緑簾石：微量存在し、粒径最大0.33mmの半自形～他形で柱状～不定形状を呈し、淡黄色～淡緑色を示す。針状のアクチノ閃石と共生して散在する。

副成分鉱物

不透明鉱物：きわめて微量存在し、粒径最大0.05mmの他形で不定形粒状を呈し、アクチノ閃石に包有される。

変質鉱物

炭酸塩鉱物：きわめて微量存在し、粒径最大0.22mmの他形で不定形状を呈して点在する。

水酸化鉄：きわめて微量存在し、粒径最大0.01mmの他形で微細不定形状を呈して点在する。

4) 0531-11756

岩石名：かんらん石玄武岩

岩石の組織：インターフラニュラー組織（intergranular texture）

斑晶

单斜輝石：きわめて微量存在し、粒径0.3～0.57mmの他形で柱状～不定形柱状を呈し、淡褐色を示す。累帯構造や波状消光を示すものが認められる。

かんらん石：少量存在し、粒径0.3～1.32mmの半自形～他形で不定形柱状～不定形粒状を呈し、無色～淡褐色を示す。結晶表面部からイディオサイト化が進行しており、結晶表面部は褐色を呈している。結晶内部には不規則な割れ目が発達する。

石基

斜長石：中量存在し、粒径最大0.16mmの半自形～他形で柱状～不定形柱状を呈し、集片双晶が発達する。弱い定向配列を示して分布する。

单斜輝石：中量存在し、粒径最大0.3mmの他形で柱状を呈する。淡褐色を示して石基斜長石の粒間に散在する。斑晶と同様に波状消光を示すものが散見される。細粒な不透明鉱物と共生して粒径0.8mm以下のオバサイト状の柱状～粒状集合体を形成しているものも認められる。

かんらん石：微量存在し、粒径最大0.3mmの他形で柱状～不定形粒状を呈し、無色～淡褐色を示して石基中に点在する。斑晶と同様にややイディオサイト化しているものが多い。

不透明鉱物：少量存在し、粒径最大0.26mmの半自形～他形で四角形、六角形または粒状～不定形粒状を呈して散在する。

変質鉱物

水酸化鉄：微量存在し、隠微晶質で微細不定形状を呈し、褐色を示してかんらん石を汚染している。

5) 0531-11757

岩石名：黒雲母ホルンフェルス

岩石の組織：碎屑状組織 (clastic texture)

鉱物片

石英：微量存在し、粒径最大0.09mmの他形で破片状～粒状を呈し、散点状に分布する。やや円磨されているものが多い。鉱物片として含まれる。

カリ長石：きわめて微量存在し、粒径最大0.06mmの他形で不定形板状を呈し、無双晶でマイクロバーサイト組織を示す。

斜長石：きわめて微量存在し、粒径最大0.09mmの他形で不定形板状を呈し、無双晶でやや汚濁している。

矽灰石：きわめて微量存在し、粒径最大0.04mmの他形で破片柱状を呈する。

ジルコン：きわめて微量存在し、粒径最大0.04mmの他形で粒状を呈する。淡褐色を示し、円磨状を呈する。

基質

黒雲母：多量存在し、粒径最大0.14mmの他形で板状～微細不定形板状を呈し、淡褐色～褐色の多色性を示す。碎屑片の粒間に密に埋めている。

緑廉石：微量存在し、粒径最大0.10mmの他形で不定形柱状～不定形状を呈し、淡褐色を示す。結晶度はきわめて不良で、微細不定形状粒子が集合して点在する。

不透明鉱物：微量存在し、粒径最大0.02mmの他形で微細粒状～微細不定形状を呈して点在する。

クラック

微量存在し、幅最大0.08mmで薄片上に5程度分布し、連続性は良好で30mm以上のものも認められる。

(4) 考察

ここでは、日本の地質「九州地方」編集委員会（1992）、久保ほか（1993）および唐木田（1994）などの既存資料により、今回鑑定された各岩石が今宿五郎江遺跡の周辺を分布域とするか否かについて検討してみたい。

0531-11753の黒雲母角閃石花崗閃綠岩は、九州北部では糸島花崗閃綠岩と呼ばれる岩体として背振山地から糸島半島まで広く分布している。本遺跡周辺では、糸島平野東側の長垂山に部分的に分布し、糸島平野南側の山地斜面にも糸島花崗閃綠岩が分布する。さらに、後述する今宿五郎江遺跡の北東方に位置する今山も基部は、糸島花崗閃綠岩により構成されている。これらの分布状況から、黒雲母花崗閃綠岩は、糸島平野周縁の山地から比較的容易に入手できる石材であると言える。

0531-11754の細粒砂岩については、糸島平野周辺に堆積岩類の分布はなく、最も近い分布域として福岡平野西側の鴻巣山丘陵や福岡平野東側の東平尾丘陵などがあげられる。これらの丘陵は、いずれも古第三紀の始新世や漸新世に堆積した砂岩や礫岩などから構成されている。

0531-11755のアクチノ閃石緑色岩および0531-11757の黒雲母ホルンフェルスは、九州北部では三郡変成岩に伴われる岩石であると推定される。三郡変成岩が広く分布する地域は、その名が示す福岡平野北東方に広がる三郡山地と福岡県西部の背振山地であるが、糸島平野周辺でも能古島および今津半島に分布が認められている。本遺跡から出土した試料は、これら周辺地域の三郡変成岩に由来する可能性がある。

0531-11756のかんらん石玄武岩の産地としては、本遺跡の北西方約2kmに位置する今山の頂上部

に見られるアルカリ玄武岩を第一の候補としてあげることができる。今山産の玄武岩は、弥生時代の石斧の石材に使用されているといわれている。なお、同質の玄武岩は、能古島にも広く分布しており、今山の玄武岩との区別はつかない。

以上述べたように、今回対象試料とされた礫は、細粒砂岩を除けば概ね周辺域で入手できる石材であると言うことができる。細粒砂岩については、最短でも10km程度の移動を伴っていることが推定される。今後とも、糸島平野に分布する弥生時代遺跡における石材の資料を蓄積することができれば、石材の入手という生業活動の一端の実態がさらに明らかになるものと期待される。

引用文献

- 藤尾慎一郎 2009 弥生時代の実年代 西本豊弘編 新弥生時代のはじまり 第4巻 弥生農耕のはじまりとその年代 雄山閣 9-54.
- 唐木田芳文・富田宰臣・下山正一・千々和一豊 1994 福岡地域の地質 地域地質研究報告（5万分の1図幅） 地質調査所 192p.
- 久保和也・松浦浩久・尾崎正紀・牧本 博・星住英夫・鎌田耕太郎・廣島俊男 1993 20万分の1地質図幅 福岡 地質調査所.
- 日本の地質「九州地方」編集委員会 1992, 日本の地質9 九州地方, 共立出版, 371p.

表3 岩石薄片鑑定結果

調査次	調査番号	試料番号	遺構	出土層位	種類	鑑定結果（岩石名）
今宿五郎江11次	05311	11753	1565	19層	礫	黒雲母角閃石花崗閃緑岩
今宿五郎江11次	05311	11754	1203	44層	礫	細粒砂岩
今宿五郎江11次	05311	11755	1203	11層	礫	アクチノ閃石緑色岩
今宿五郎江11次	05311	11756	1203	48層	礫	かんらん石玄武岩
今宿五郎江11次	05311	11757	1527		礫	黒雲母ホルンフェルス

* 試料番号は遺物登録番号。

図版1 薄片鑑定試料

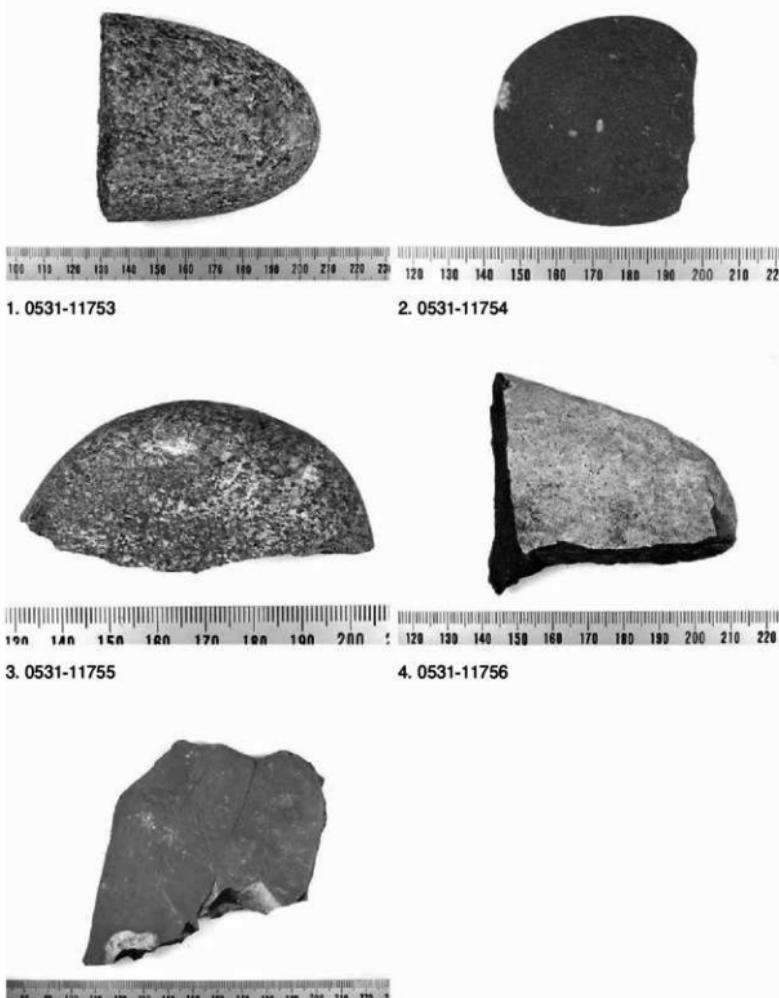
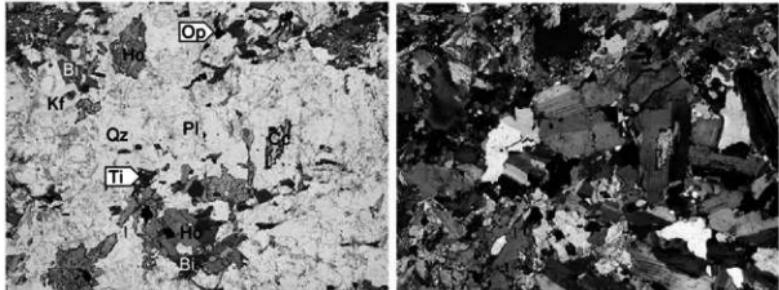
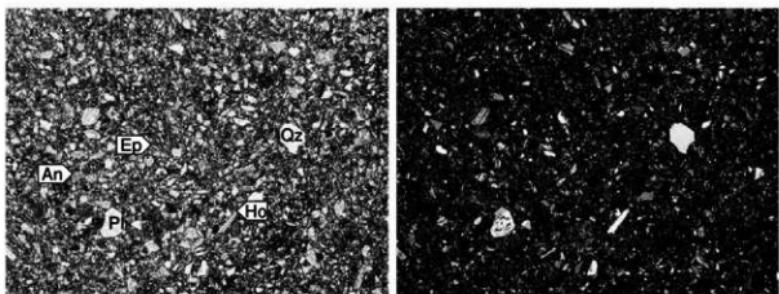


図4 薄片鑑定試料



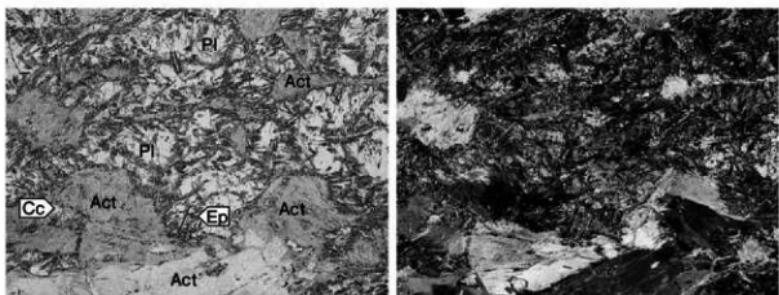
1. 0531-11753 黒雲母角閃石花崗閃綠岩

0.5mm



2. 0531-11754 細粒砂岩

0.5mm



3. 0531-11755 アクチノ閃石緑色岩

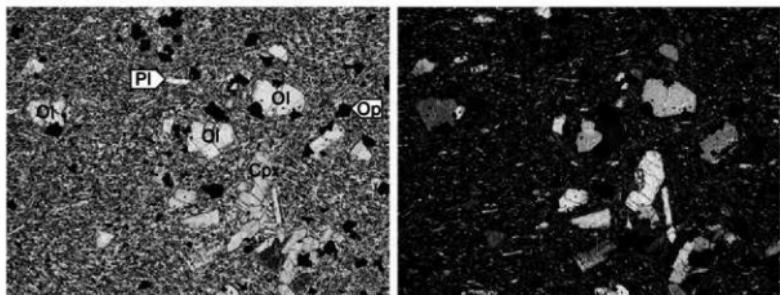
0.5mm

Qz : 石英 Kf : カリ長石 Pl : 斜長石 Bi : 黒雲母 Ho : 角閃石 Act : アクチノ閃石 Ep : 緑簾石

Ti : チタン石 Op : 不透明鉱物 Cc : 炭酸塩鉱物 An : 安山岩

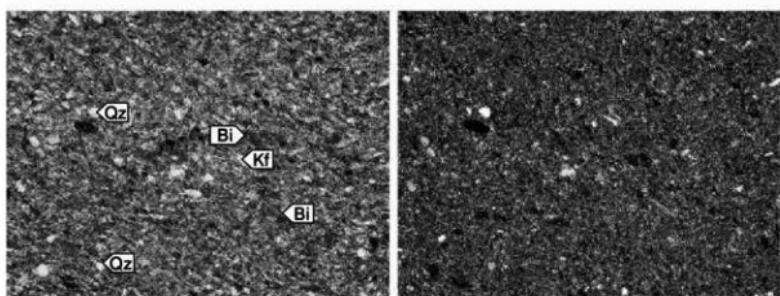
写真左列は下方ポーラー、写真右列は直交ポーラー下。

図5 薄片(1)



4. 0531-11756 かんらん石玄武岩

0.5mm



5. 0531-11757 黒雲母ホルンフェルス

0.2mm

Qz : 石英 Kf : カリ長石 PI : 斜長石 OI : かんらん石 Cpx : 単斜輝石 Bi : 黒雲母

Op : 不透明鉱物

写真左列は下方ポーラー、写真右列は直交ポーラー下。

図6 薄片(2)

3. 今宿五郎江第11次調査出土炭化材の放射性年代測定

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

今回の分析調査では、今宿五郎江遺跡11次調査区で検出された弥生時代後期の遺物が出土する溝、および弥生時代中期後半の遺物が投棄されたような状態で出土する谷斜面部の包含層の形成年代に関する情報を得ることを目的として、AMS法による放射性炭素年代測定を実施する。

(1) 試料

試料は、弥生時代後期の遺物が出土する溝（M1204）の6層から出土した炭化材（No.1675）と、南へ深く入り込む谷部東岸に形成された遺物包含層（M1338）の42層から出土した炭化材（No.2923）の2点である。

(2) 分析方法

試料に土壤や根など目的物と異なる年代を持つものが付着している場合、これらをビンセット、超音波洗浄などにより物理的に除去する。その後HClによる炭酸塩等酸可溶成分の除去、NaOHによる腐植酸等アルカリ可溶成分の除去、HClによるアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分を除去する（酸・アルカリ・酸処理）。

試料をバイコール管に入れ、1gの酸化銅（II）と銀箔（硫化物を除去するため）を加えて、管内を真空にして封じきり、500°C（30分）850°C（2時間）で加熱する。液体窒素と液体窒素+エタノールの温度差を利用して、真空ラインにてCO₂を精製する。真空ラインにてバイコール管に精製したCO₂と鉄・水素を投入し封じ切る。鉄のあるバイコール管底部のみを650°Cで10時間以上加熱し、グラファイトを生成する。

化学処理後のグラファイト・鉄粉混合試料を内径1mmの孔にプレスして、タンデム加速器のイオン源に装着し、測定する。測定機器は、3MV小型タンデム加速器をベースとした14C-AMS専用装置（NEC Pelletron 9SDH-2）を使用する。AMS測定時に、標準試料である米国国立標準局（NIST）から提供されるシュウ酸（HOX-II）とバックグラウンド試料の測定も行う。また、測定中同時に¹³C/¹²Cの測定も行うため、この値を用いて¹³Cを算出する。

放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5,568年を使用する。また、測定年代は1,950年を基点とした年代（BP）であり、誤差は標準偏差（One Sigma;68%）に相当する年代である。なお、暦年較正は、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV6.0.0 (Copyright 1986-2010 M Stuiver and PJ Reimer) を用い、誤差として標準偏差（One Sigma）を用いる。

暦年較正とは、大気中の¹⁴C濃度が一定で半減期が5,568年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の¹⁴C濃度の変動、及び半減期の違い（¹⁴Cの半減期5,730±40年）を較正することである。暦年較正に関しては、本来10年単位で表すのが通例であるが、将来的に暦年較正プログラムや暦年較正曲線の改正があった場合の再計算、再検討に対応するため、1年単位で表している。暦年較正結果は、測定誤差 σ 、 2σ （ σ は統計的に真の値が68%の確率で存在する範囲、 2σ は真の値が95%の確率で存在する範囲）双方の値を示す。また、表中の相対比は、 σ 、 2σ の範囲をそれぞれ1とした場合、その範囲内で真の値が存在する確率を相対的に示したものである。

(3) 結果

放射性炭素年代測定および暦年較正結果を表4に示す。同位体効果による補正を行った測定年代（補正年代）は、No.1675が $2,030 \pm 20$ BP、No.2923が $2,040 \pm 20$ BPを示す。また、誤差を 2σ で計算した暦年

較正結果（確率 1）は、No.1675がcal BC104-cal AD25（相対比0.999）、No.2923がcal BC111-cal AD23（相対比0.984）である。

なお、測定に用いた炭化材は、一部を分割して樹種同定を併せて実施した。いずれも広葉樹であり、No.1675がクスノキ科、No.2923がスダジイに同定された。各種類の解剖学的特徴を以下に記す。

・スダジイ (*Castanopsis cuspidata* var. *sieboldii* (Makino) Nakai) ブナ科シイ属

環孔性放射孔材で、道管は接線方向に 1 - 2 個幅で放射方向に配列する。孔圈部は 3 - 4 列、孔圈外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、單列、1 ~ 20 細胞高。

・クスノキ科 (Lauraceae)

散孔材で、道管壁は薄く、横断面では角張った橢円形、単独または 2 ~ 3 個が放射方向に複合して散在する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性、1 ~ 2 細胞幅、1 ~ 20 細胞高。柔組織は周囲状および散在状。柔細胞には油細胞が認められる。

表4 放射性炭素年代測定結果

調査・試 料番号	遺構 層位	材質 種類	処理 方法	測定年代 BP	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	補正年代 (曆年較正用) BP	曆年較正結果			CodeNo.	
							誤差	cal BC/AD	cal BP		
No.0531 No.1675	m1204 6層	広葉材 クスノキ科	AAA	2,990 ± 20	-28.53 ± 0.32 (2,032 ± 21)	2,030 ± 20 (2,032 ± 21)	σ	cal BC 52 - cal AD 2	cal BP 2001 - 2948	1.00	IAAA- 122618
							2σ	cal BC 104 - cal AD 25 cal AD 44 - cal AD 46 cal BP 1906 - 1904	cal BP 1903 - 1929 cal BP 1906 - 1904	0.999 0.001	
No.0531 No.2923	m1388 42層	広葉材 スダジイ	AAA	2,080 ± 20	-27.27 ± 0.23 (2,038 ± 22)	2,040 ± 20 (2,038 ± 22)	σ	cal BC 87 - cal BC 78 cal BC 35 - cal AD 1 cal BC 154 - cal BC 140 cal BC 111 - cal AD 23	cal BP 2036 - 2027 cal BP 2004 - 1949 cal BP 2103 - 2089 cal BP 2060 - 1927	0.117 0.883 0.016 0.984	IAAA- 122619
							2σ	cal BC 104 - cal AD 25 cal AD 44 - cal AD 46 cal BP 1906 - 1904	cal BP 1903 - 1929 cal BP 1906 - 1904	0.999 0.001	

1) 年代値の算出には、Libby の半減期5568年を使用した。

2) BP年代値は、1950年を基点として同年代であるかを示す。付記した誤差は、測定誤差 σ (測定値の68%が入る範囲) を年代値に換算した値。

4) 年代の計算には、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV6.0 (Copyright 1986-2010 M Stuiver and P Reimer) を使用した。解析の計算には、補正年代BC (1) で曆年較正用年代として示した。1項目を丸める前の値を使用している。年代値は、1項目を丸めるのが慣例だが、曆年較正曲線や曆年較正プログラムが改正された場合の再計算や比較を行ってやさしくるように、曆年較正用年代値は1項目を丸めていない。被計がに真的値が入る確率は σ は68%、 2σ は95%である。) 相対比は、 σ 、 2σ のそれぞれを 1 とした場合、確率的に真的値が存在する比率を相対的に示したものである。

* 試料番号は遺物登録番号

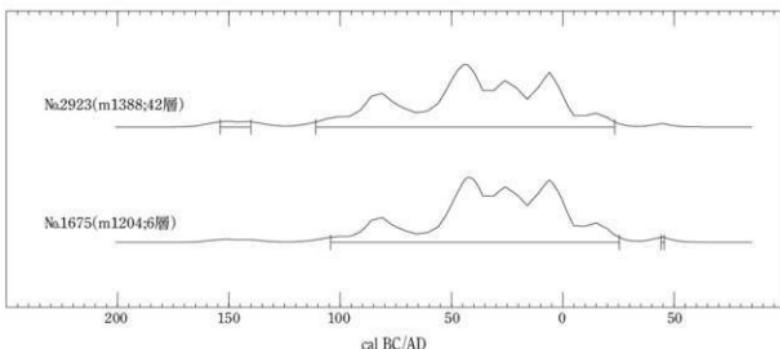


図7 歴年較正結果

(4) 考察

弥生時代後期の遺物が出土する溝（M1204）埋土6層から出土した炭化材（№1675）は、 ^{14}C 補正年代で $2,030 \pm 20\text{BP}$ 、暦年較正年代でcal BC104-cal AD25を示した。一方、谷斜面の弥生時代中期後半の遺物を伴う遺物包含層（M1338）の42層から出土した炭化材（№2923）は、補正年代で $2,040 \pm 20\text{BP}$ 、暦年較正年代でcal BC111-cal AD23を示した。これら2点の年代測定結果および暦年較正年代は、誤差範囲内で一致していた。また、これらの年代値は、北部九州の既存の測定事例（西本,2006）と比較すると、弥生時代中期末～後期初頭頃の年代値に相当している。

今回調査を実施した遺構は、出土遺物から見れば、若干の時期差が生じてることになるが、年代測定結果からは有意な差をみいだすことができなかつた。測定対象とした炭化材は、いずれも樹皮が残存していない小破片であり、得られた測定値は実際の伐採・使用年代よりも古い年代を示している可能性がある。そのため、ほぼ同時期の年代値を示した可能性がある。今後、各時期の土器付着物等の年代測定による検証が必要と思われる。

引用文献

西本豊弘（編） 2006, 弥生時代の新年代 新弥生時代のはじまり第1巻 雄山閣 143p.

4. 今宿五郎江第11次調査出土木製品の樹種同定

小林克也（パレオ・ラボ）

(1) はじめに

高祖山麓の丘陵末端の、砂丘後背湿地への突出部に立地する今宿五郎江遺跡で出土した木製品について、樹種同定を行なった。

(2) 試料と方法

試料は、埋没した谷であるM1203から41点、凹地であるM1391から1点、凹地であるM1565から2点、凹地であるM2025から1点の、出土木製品45点である。時期については、発掘調査所見より、弥生時代後期～終末であると考えられている。各試料について、切片採取前に木取りの確認を行なった。

生材の樹種同定では、材の横断面（木口）、接線断面（板目）、放射断面（柾目）について、カミソリで薄い切片を切り出し、ガムクロラールで封入して永久プレパラートを作製した。その後乾燥させ、光学顕微鏡にて検鏡および写真撮影を行なった。

(3) 結果

同定の結果、針葉樹であるカヤとマツ属複維管束亜属、スギの3分類群と、広葉樹であるノグルミとクリ、ツブライジ、コナラ属アカガシ亜属（以下アカガシ亜属と呼ぶ）、コナラ属クヌギ節（以下クヌギ節と呼ぶ）、ムクノキ、クスノキ、クスノキ科、ツバキ属、サカキ、イスノキ、エゴノキ属、種不明の散孔材の13分類群の、計16分類群が産出した。

サカキが最も多く8点みられ、スギとクスノキが各5点、クリが4点、クヌギ節とムクノキ、イスノキが各3点、カヤとツブライジ、アカガシ亜属、クスノキ科、ツバキ属が各2点、マツ属複維管束亜属とノグルミ、エゴノキ属、散孔材が各1点産出した。結果を表5に、一覧を付表6に示す。

次に、同定された材の特徴を記載し、図版に光学顕微鏡写真を示す。

1) カヤ *Torreya nucifera* (L.) Siebold et Zucc. イチイ科 図8 1a-1c (No.5351)

仮道管と放射組織で構成される針葉樹である。晩材部は薄く、早材から晩材への移行は急であるが、試料では2年輪をまたいで採取できなかった。放射組織は単列で、高さ1～7列となる。分野壁孔は小型のヒノキ型で、1～4個みられる。また仮道管の内壁には2本1対のらせん肥厚がみられる。

カヤは暖温帯に分布する常緑高木の針葉樹である。材は比較的重硬で弾力性に富み、切削等の加工は容易で、水湿によく耐える。

2) マツ属複維管束亜属 *Pinus subgen. Diploxylon* マツ科 図8 2a-2c (No.12547)

仮道管と放射仮道管、放射組織、垂直および水平樹脂道で構成される針葉樹である。晩材部は厚く、早材から晩材への移行は緩やかである。放射組織は、単列のものと、水平樹脂道を含む多列のものみられる。分野壁孔は窓型で、放射仮道管の水平壁は内側に向かって鋸歯状に肥厚する。

マツ属複維管束亜属には、アカマツとクロマツがある。どちらも温帯から暖帯にかけて分布し、クロマツは海の近くに、アカマツは内陸地に生育する。アカマツもクロマツも材質は重硬で、切削等の加工は容易である。

3) スギ *Cryptomeria japonica* (L.f.) D.Don スギ科 図8 3a-3c (No.5525)

仮道管と放射組織、樹脂細胞で構成される針葉樹である。晩材部は厚く、早材から晩材への移行は緩やかである。放射組織は単列で、高さ1～9列となる。分野壁孔は大型のスギ型で、普通1分野に2個みられる。

スギは大高木へと成長する常緑針葉樹で、天然分布は東日本の日本海側に多い。比較的軽軟で切削などの加工が容易な材である。

4) ノグルミ *Platycarya strobilacea* Siebold et Zucc. クルミ科 図8 4a-4c (No.12530)

年輪のはじめに大型の道管が数列並び、晩材部では徐々に径を減じた道管が火炎状に配列する環孔材である。軸方向柔組織は短接線状となる。道管は単穿孔を有し、小道管の内壁にはらせん肥厚がみられる。放射組織は同性で、1~5列となる。

ノグルミは本州西南部、四国、九州に分布し、荒地や急傾斜地などに生育することの多い、陽樹の落葉高木の広葉樹である。材はやや重く、割れにくく。

5) クリ *Castanea crenata* Siebold et Zucc. ブナ科 図8 5a-5c (No.5895)

年輪のはじめに大型の道管が1~3列並び、晩材部では徐々に径を減じた道管が火炎状に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管は単穿孔を有する。放射組織は単列で同性となる。

クリは北海道の石狩、日高以南の温帯から暖帯にかけての山林に分布する落葉中高木の広葉樹である。材は重硬で、耐朽性が高い。

6) ツブライ *Castanopsis sieboldii* (Makino) Hatus. ex T.Yamaz. et Mashiba ブナ科 図8-9 6a-6c (No.7079)

年輪のはじめに大型の道管が不連続に1~3列並び、晩材部では急に径を減じた薄壁で角張った道管が火炎状に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管は単穿孔を有する。放射組織は同性で、単列のものと集合放射組織がみられる。

スダジイは暖帯から亜熱帯に分布する常緑高木の広葉樹である。重さと強さは中庸で、やや耐朽性があるが、切削加工は困難でない。

7) コナラ属アカガシ亜属 *Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis* ブナ科 図9 7a-7c (No.5748)

厚壁で丸い大型の道管が、放射方向に配列する放射孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管は単穿孔を有する。放射組織は同性で、単列のものと広放射組織がみられる。

表5 今宿五郎江第11次調査出土木製品の樹種同定結果

樹種/器種 カヤ	斧 柄	火 鉛 鋸 工 具	毛 刷	目 調 整	横 棒	綱 棒 /	綱 棒 部	短 材	弓 材	鞘 部	盾 甲	斎 甲	櫛 柵	簪 簪	壺 壺	高 環	盤 盤	桶 桶	筒 形容 器	簡 容 器	約 子	約 文	約 字	案 子	椅子
マツ属複維管束亞属	1																								
スギ		2						1											1	1					
ノグルミ																		1			1	1	1		1
クリ																									
ツブライ																									
コナラ属アカガシ亜属																									
コナラ属クヌギ節	1																								
ムクノキ																									
クヌノキ																									
クヌノキ科		2																							
ツバキ属																									
サカキ	7							1											2						
イスノキ								2											1						
エゴノキ属																									
殻孔材																									
合計	9	2	3	1	2	1	1	2	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1

コナラ属アカガシ亜属は、材組織の観察では道管の大きなイチイガシ以外は種までの同定ができない。したがって、ここでのコナラ属アカガシ亜属はイチイガシ以外のアカガシ亜属である。アカガシ亜属にはアカガシやツクバネガシなどがあり、暖帯に分布する常緑高木の広葉樹である。材は重硬、強靭で耐水性があり、切削加工は困難である。

8) コナラ属クヌギ節 *Quercus sect. Aegilops* ブナ科 図9 8a-8c (No.5914)

年輪のはじめに大型の道管が1～2列並び、晩材部では径を減じた厚壁で丸い道管が、放射方向に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管は単穿孔を有する。放射組織は同性で、單列のものと広放射組織がみられる。

コナラ属クヌギ節にはクヌギとアベマキがあり、温帯から暖帯にかけて分布する落葉高木の広葉樹である。材は重硬で、切削などの加工はやや困難である。

9) ムクノキ *Aphananthe aspera* (Thunb.) Planch. ニレ科 図9 9a-9c (No.5733)

壁の厚い中型の道管が単独ないし2～3個複合して疎らに散在する散孔材である。軸方向柔組織は4列以上の帶状、周囲状である。道管は単穿孔を有する。放射組織は上下端1列が方形となる異性で、幅1～4列となる。放射組織内には菱形の結晶が見られる。

ムクノキは温帯の日当たりのよい適潤地を好み、海に近い所に比較的多い落葉高木の広葉樹である。材の強さは中庸であるが、韌性があり割裂しにくい。切削加工等は中庸である。

10) クスノキ *Cinnamomum camphora* (L.) J.Presl クスノキ科 図9・10 10a-10c (No.5510)

単独ないし2～3個複合した中型の道管が、晩材部にかけて徐々に径を減じてゆく半環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管は単穿孔を有する。放射組織は上下端1列が方形となる異性で、1～2列となる。また放射組織や木部纖維には、油胞が確認できる。

クスノキは本州中南部、四国、九州などの暖帯から亜熱帯に分布する常緑高木の広葉樹である。材の堅さはやや軽軟～中庸で、切削加工等は容易である。また、材は精油分を含み水湿に強く、耐朽性、耐虫性が極めて高い。

11) クスノキ科 *Lauraceae* 図9・10 11a-11c (No.1876)

やや小型の道管が単独ないし2～3個複合してやや疎らに散在する散孔材である。軸方向柔組織は周囲状となる。道管は単穿孔を有する。放射組織は上下端1列が直立する異性で、幅1～3列となる。

クスノキ科にはニッケイ属やタブノキ属、クロモジ属などがあり、暖帯を中心に分布する、主に常緑性の高木または低木である。

12) ツバキ属 *Camellia* ツバキ科 図10 12a-12c (No.4419)

角張った小型の道管がほぼ単独でやや密に散在する散孔材である。軸方向柔組織は短接線状となる。道管は単穿孔を有する。放射組織は上下端1～3列が直立する異性で、幅1～3列となる。

ツバキ属にはヤブツバキやサザンカなどがあり、ヤブツバキは本州、四国、九州の温帯に、サザンカは山口県以南の温帯南部から亜熱帯に分布する常緑小高木の広葉樹である。材は重硬で、切削加工は困難である。

13) サカキ *Cleyera japonica* Thunb. ツバキ科 図10 13a-13c (No.5581)

小型の道管がほぼ単独で密に散在する散孔材である。道管は、20～30段程度の階段穿孔を有する。放射組織は上下端2～4列が直立する異性で、1～2列となる。

サカキは日本海側で新潟県、太平洋側で関東以西の本州、四国、九州などの温帯から亜熱帯に分布する常緑高木である。材は強靭、堅硬で、切削加工は困難である。

14) イヌノキ *Distylium racemosum* Siebold et Zucc. マンサク科 図10 14a-14c (No.3652)

小型の道管がほぼ単独でやや密に散在する散孔材である。道管は20~40段程度の階段穿孔を有し、内壁にはらせん肥厚がみられる。放射組織は上下端1~3列が直立する異性で、幅1~2列となる。

サカキは日本海側で新潟県、太平洋側で関東以西の本州、四国、九州などの温帯から亜熱帯に分布する常緑高木である。材は強韌、堅硬で、切削加工は困難である。

15) エゴノキ属 *Styrax* エゴノキ科 図10 15a-15c (No.6680)

小型の道管が単独ないし2~4個放射方向に複合してやや密に散在する散孔材である。軸方向柔組織は晩材部で線状となる。道管は10~20段程度の階段穿孔を有する。放射組織は上下端1~4列が直立となる異性で、幅1~4列となる。

エゴノキ属は温帯から亜熱帯の低山地、原野に分布する落葉小高木の広葉樹である。材はやや重く韌性があり、切削加工などは容易である。

16) 散孔材 Diffuse porous wood

横断面で小型の道管がほぼ単独で散在するのが確認できたが、材の保存が悪くて接線断面が明瞭に確認できなかった。放射断面では、道管内に20~40段程度の階段穿孔がみられ、放射組織は上下端1~4列が直立する異性であった。そのため散孔材までの同定に留めた。

(4) 考察

最も試料数の多かった斧柄では、サカキが7点、マツ属複維管束亜属とクヌギ節が各1点みられた。またクヌギ節は横柾でも1点みられ、耐朽性を必要とする器種にみられた。サカキとクヌギ節は堅硬な樹種で、マツ属複維管束亜属も針葉樹の中では堅い部類に含まれる（伊東ほか、2011）。斧柄は強い負荷のかかる器種であり、堅硬な樹種を選択していたと考えられる。

他の堅硬な樹種では、アカガシ亜属が刷毛目調整工具でみられたが、それ以外にスギも2点みられた。木取りはいずれも柾目だが、スギの刷毛目調整工具は、土器の調整によって早材部が摩耗し、残存した晩材部によって特徴的な調整痕が残るようになっていた。アカガシ亜属の刷毛目調整工具は、調整による摩耗は確認できたが、特定の部位が残存するような摩耗はせず、全体的に摩耗していた。アカガシ亜属は堅硬であるのに対し、スギは軽軟な樹種である（伊東ほか、2011）。よって刷毛目調整工具では、異なる土器の調整痕を施すために、スギとアカガシ亜属という、材質の異なる2種類の樹種を選択利用していたと考えられる。

またイスノキでは紡錘車が2点と簪が1点みられ、ツバキ属では櫛が2点みられた。共に堅硬な樹種である（伊東ほか、2011）。北九州市金山遺跡VI区で出土した、弥生時代後期～古墳時代初頭の紡錘車はアカガシ亜属とイスノキ、櫛はイスノキがみられており、堅硬な樹種が選択されている（伊東・山田編、2012）。今宿五郎江遺跡でも堅硬な樹種が用いられ、同様の傾向を示した。

ムクノキでは、弓が2点と装飾部材が1点みられ、木取りはいずれも芯去削出であった。ムクノキの材は韌性があって割裂しにくく、加工性が中庸である（伊東ほか、2011）。弓はしならせるという動作が必要であり、そのため韌性の高いムクノキを利用したと考えられる。また割裂しにくく、ある程度加工性が良いため、装飾板として利用していた可能性がある。

クスノキは短甲と柾、高柾、盤、装飾板でみられた。クスノキは比較的軽軟だが加工性が良く、耐朽性、耐虫性が極めて高いという材質を持つ（伊東ほか、2011）。そのため長期間使用する木製品では、耐朽性が高いクスノキを選択していた可能性がある。福岡市の弥生時代後期～古墳時代初頭のカキ遺跡でも、クスノキは板や、刳物の椀や鉢といった木製品に利用されている（伊東・山田編、2012）。

九州地方の木製品の集成では、弥生時代中期の柾や弥生時代後期～古墳時代初頭の容器でのクスノ

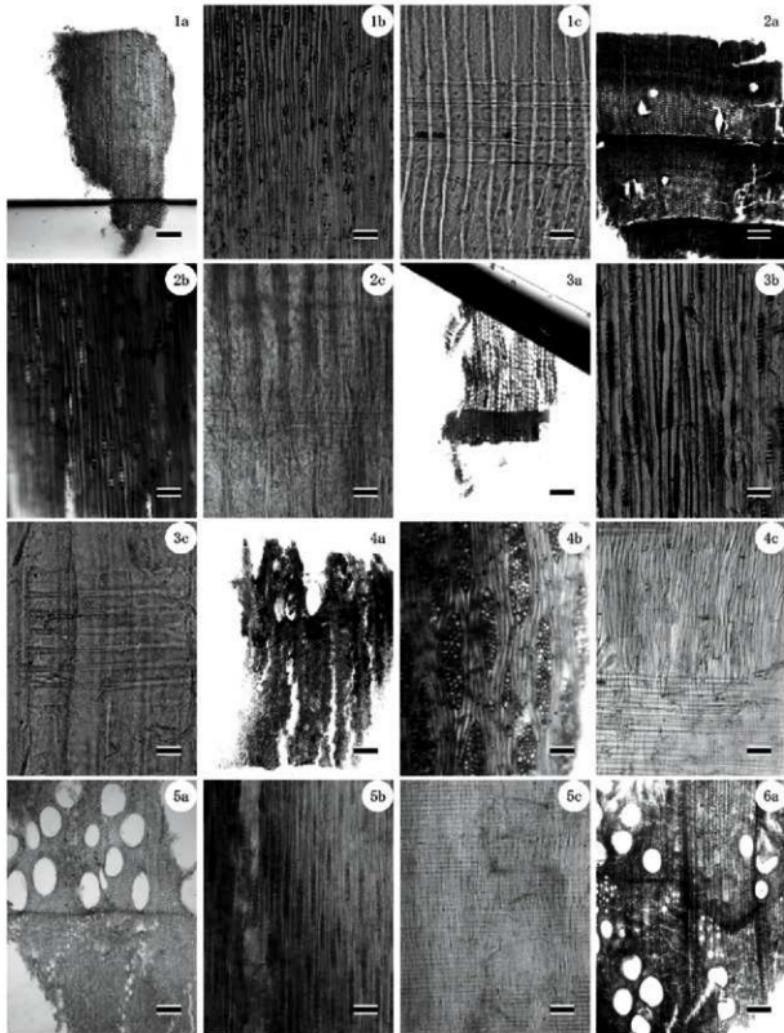
キの利用や、堅櫛や紡錘車でイスノキやツバキ属の利用が報告されており（山口, 2012）、今宿五郎江遺跡における用材と同様の傾向を示した。しかし斧柄については、縄文時代晩期の北部九州地方で石斧の斧柄に堅硬なアカガシ亜属が多く利用されることを確認しているが（山口, 2012）、弥生時代後期の傾向は不明であった。今回の斧柄の同定結果でも堅硬なサカキが多くみられ、弥生時代後期の斧柄でも堅硬な樹種が好まれている可能性が高い。

引用文献

- 伊東隆夫・佐野雄三・安部 久・内海泰弘・山口和穂（2011）日本有用樹木誌 238p 青海社。
伊東隆夫・山田昌久編（2012）木の考古学 449p 青海社。
山口謙治（2012）九州・沖縄（1）—古代以前— 伊東隆夫・山田昌久編「木の考古学」; 300-311 青海社。

表6 今宿五郎江第11次調査出土木製品の樹種同定結果一覧

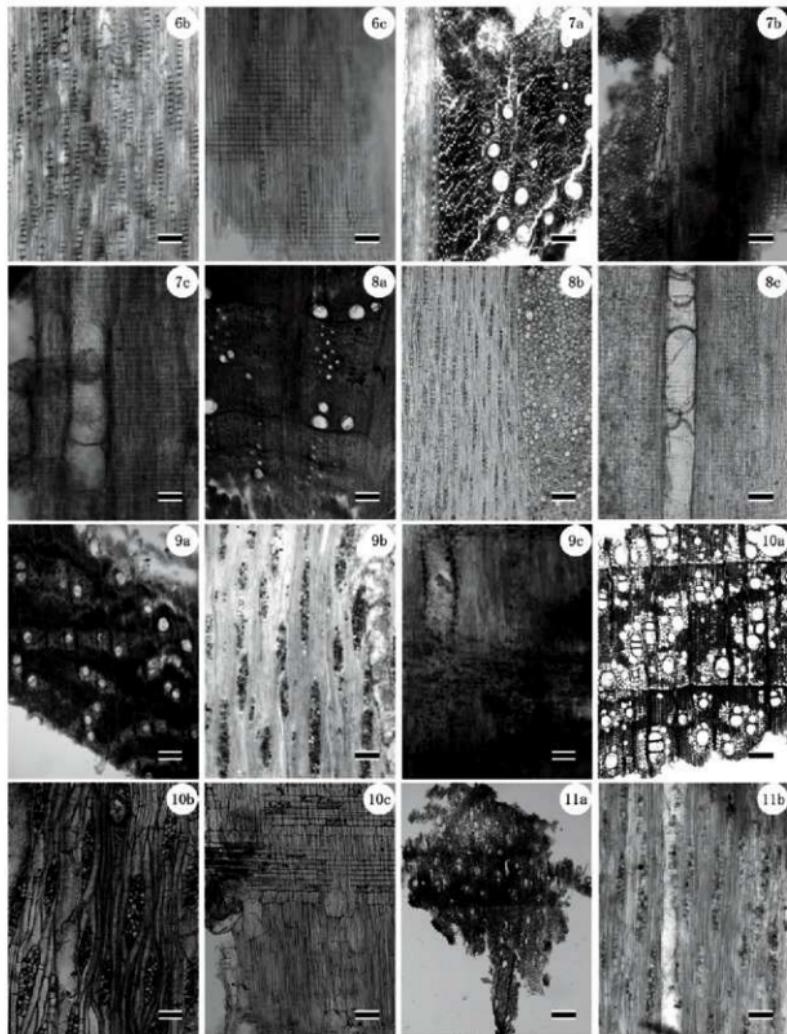
No.	出土遺構	層位	器種	樹種	木取り	備考1	備考2
1647	M1203	23層	盾	スギ	追征目	丹塗り盾	断片
1841	M1203	23層	盤	クスノキ	継木取り	板状脚付盤	半ばを欠く
1842	M1203	23層	杓子	コナラ属クヌギ節	芯去削出	長直柄	端部を欠く
1866	M1203	23層	鳥形	散孔材	芯去削出		部分を欠く
1876	M1203	23層	火鉗臼	クスノキ科	追征目	未使用	一部を欠く
1881	M1203	23層	桶	スギ	板目	曲物底板/脚付/透かし入り	破片
2179	M1203	26層	短甲	クスノキ	追征目	右前脚部材	袖部破片
2722	M1391		筒形容器	スギ	追征目	白木刷り貫き	小破片
2947	M1203	44層	筒形容器/蓋	クリ	横木取り	漆塗	1/3破片
3652	M1203	28層	紡錘車	イヌノキ	板目	未成品	完存
4419	M1203	19層	櫛	ツバキ属	征目	堅櫛/挽き櫛	部分欠く、乾燥収縮
4767	M1565	19層	弓	ムクノキ	芯去削出	丸木弓	一端を欠く
5209	M1565		斧柄	サカキ	芯去削出	鉄斧用縦斧膝柄	末端部核
5351	M1203	45層	壺	カヤ	継木取り	台付	小破片
5510	M1203	45層	杳	クスノキ	板目		半ばを欠く
5525	M1203	45層	刷毛目調整工具	スギ	征目	凹型	ほぼ完存
5581	M1203	23層	斧柄	サカキ	芯持丸木	袋状鉄斧用縦斧膝柄	台部を部分的に欠く
5583	M1203	23層	櫛	ツバキ属	征目	未成品/堅櫛	櫛刃尖端を欠く
5646	M1203	23層	弓	ムクノキ	芯去削出	丸木弓	一端を欠く
5647	M1203	23層	斧柄	サカキ	芯持丸木	横斧膝柄	柄を欠く
5695	M1203	49層	火鉗臼	クスノキ科	芯持削出		一端を欠く
5696	M1203	49層	紡錘車	イヌノキ	板目	片面膨隆	半ばを欠く
5733	M1203	49層	装飾部材	ムクノキ	芯去削出		部分的に欠く
5748	M1203	49b層	刷毛目調整工具	コナラ属アカガシ亞属	征目		ほぼ完存
5799	M1203		杓子	クリ	横木取り	斜め把手	杓子手半ばを欠く
5828	M1203	49b層	斧柄	サカキ	芯持丸木	小型鉄斧横斧膝柄	中間部を欠く
5895	M1203	49b層	高坏	クリ	横木取り		坏部破片
5914	M1203	49b層	横杵	コナラ属クヌギ節	芯持丸木		柄端部を欠く
6318	M2025		案	クリ	板目	天板	半ばを欠く
6366	M1203	23層	斧柄	サカキ	芯持丸木	鉄斧用横斧柄	台部一部を欠く
6542	M1203	23層	椅子	ツブラジイ	芯去削出	刎物板状2脚	脚部を含む小破片
6582	M1203	23層	斧柄	コナラ属クヌギ節	芯持丸木	袋状鉄斧用縦斧膝柄	柄の大部分を欠く
6772	M1203	23層	網枠/部材	サカキ	芯持丸木		柄基部破片
6787	M1203	49層	高坏	クスノキ	横木取り		脚部破片
6880	M1203	49層	杓文字	エゴノキ属	芯去削出		柄端部を欠く
6897	M1203	49b層	人形	コナラ属アカガシ亞属	芯持削出		部分的に欠く
7037	M1203	49b層	装飾板	クスノキ	征目		一端を欠く
7079	M1203	49b層	鞘	ツブラジイ	追征目		断片
7449	M1203	48層	刷毛目調整工具	スギ	征目	凹型	腐食
7620	M1203	48層	簪	イヌノキ	征目	三本歯	頭部残存
12089	M1203	22層	斧柄	サカキ	芯持丸木	鉄斧縦斧膝柄	末端部欠く
12258	M1203	49b層(下)	斧柄	サカキ	芯持丸木	鉄斧用横斧膝柄	柄端部を欠く
12338	M1203	49層	網枠	カヤ	芯持丸木		半ばを欠く
12530	M1203	55層	刎物壺	ノグルミ	横木取り	無頭平底	端部を欠く
12547	M1203	11層	斧柄	マツ属複複管束亞属	芯持丸木	横斧膝柄	台部を部分的に欠く



1a-1c. カヤ (No.5351)、2a-2c. マツ属複維管束亞属 (No.12547)、3a-3c. スギ (No.5525)、4a-4c. ノグルミ (No.12530)、5a-5c. クリ (No.5895)、6a. ツブラジイ (No.7079)

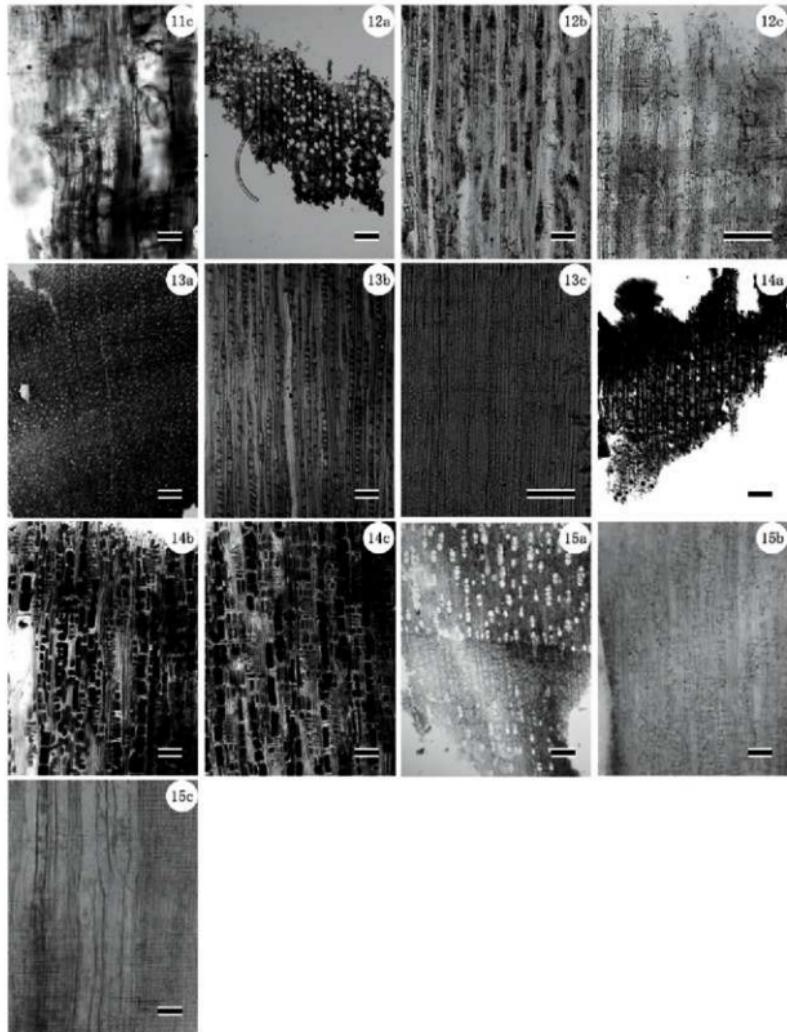
a:横断面(スケール=250 μm)、b:接線断面(スケール=100 μm)、c:放射断面(スケール=1-3:25 μm・4-5:100 μm)

図8 今宿五郎江第11次調査出土木製品の光学顕微鏡写真(1)



6b-6c.ツヅラジイ (No.7079)、7a-7c.コナラ属アカガシ亜属 (No.5748)、8a-8c.コナラ属クヌギ節 (No.5914)、
9a-9c.ムクノキ (No.5733)、10a-10c.クスノキ (No.5510)、11a-11b.クスノキ科 (No.1876)
a:横断面 (スケール=250 μm)、b:接線断面 (スケール=100 μm)、c:放射断面 (スケール=100 μm)

図9 今宿五郎江第11次調査出土木製品の光学顕微鏡写真(2)



11c.クスノキ科 (No.1876)、12a-12c.ツバキ属 (No.4419)、13a-13c.サカキ (No.5581)、14a-14c.イスノキ (No.3652)、15a-15c.エゴノキ属 (No.6880)
a:横断面 (スケール=250 μm)、b:接線断面 (スケール=100 μm)、c:放射断面 (スケール=100 μm)

図10 今宿五郎江第11次調査出土木製品の光学顕微鏡写真(3)

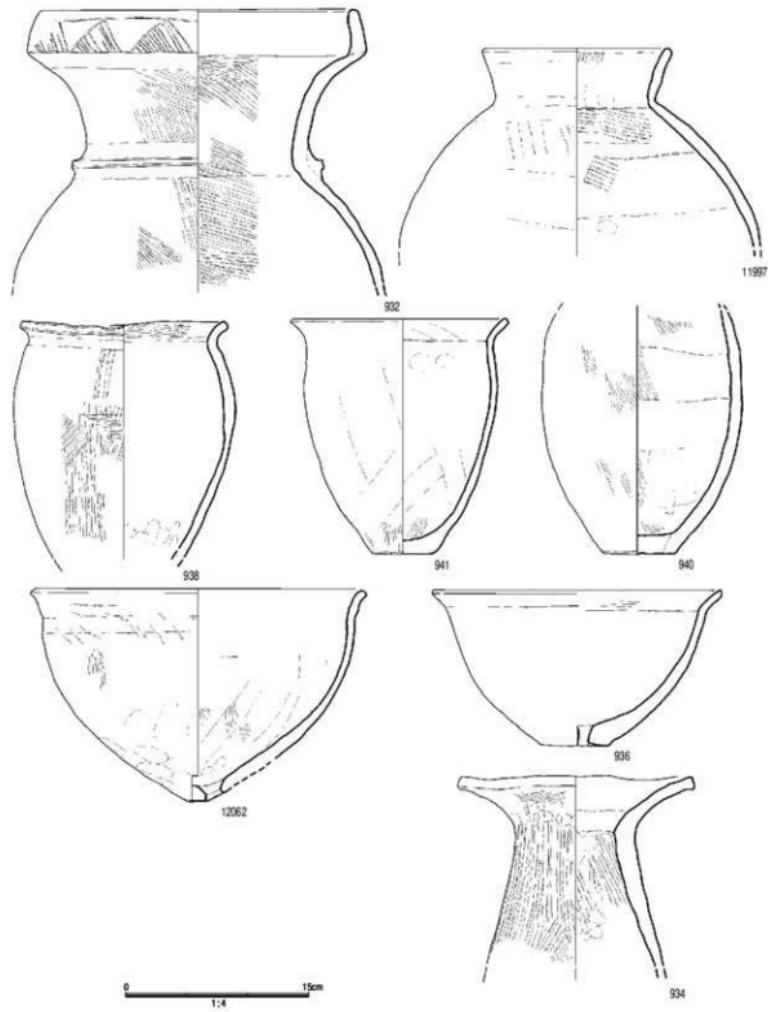


圖11 谷1202 4層出土土器 (1:4)

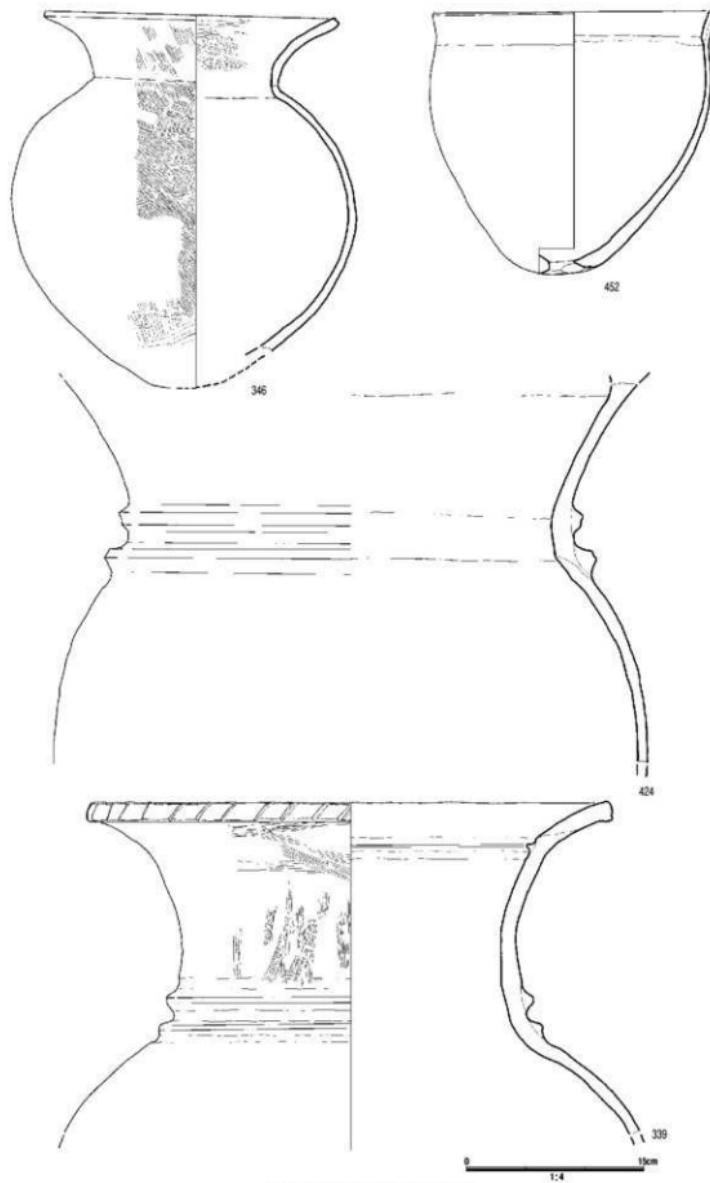


图12 谷1202 5层出土土器 (1:4)

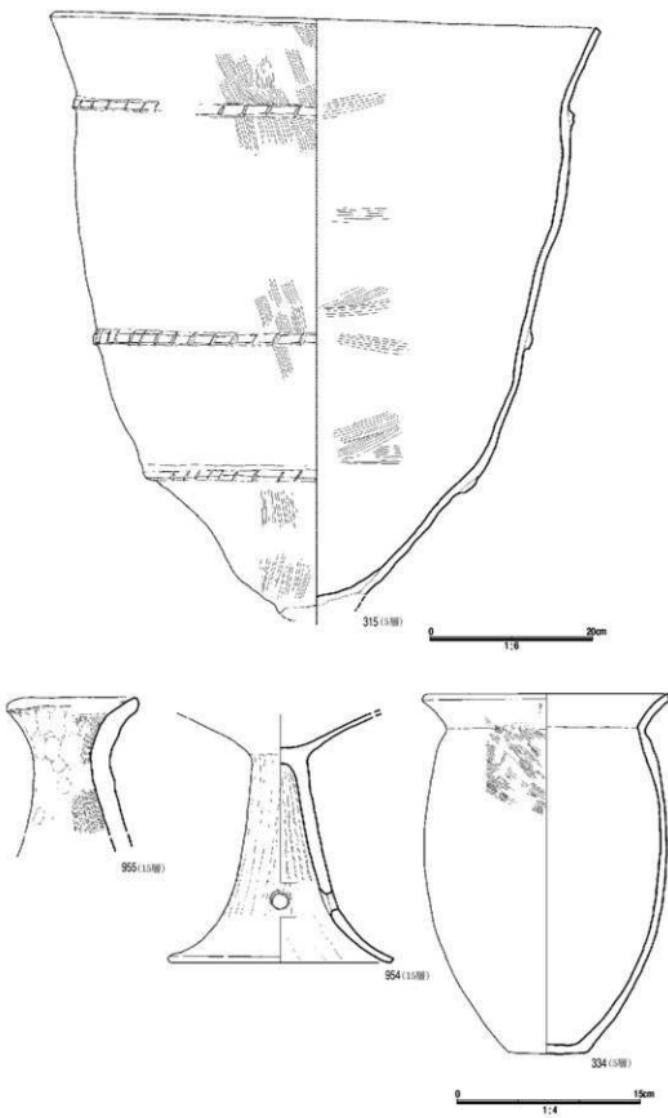


图13 谷1202 5层·15层出土土器 (1:4)

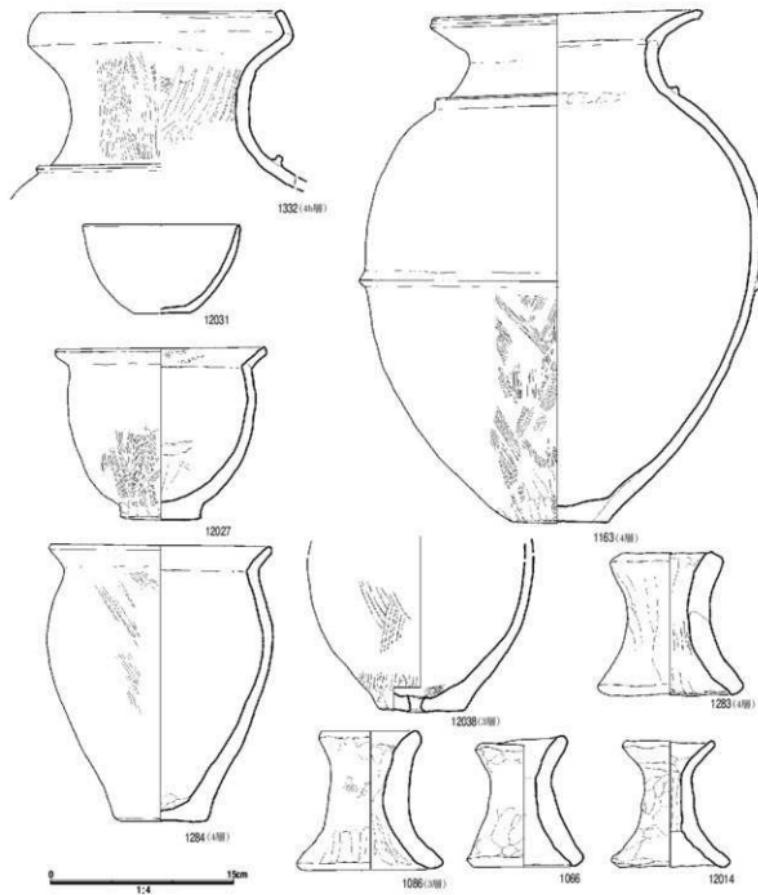


图14 满1204出土土器 (1:4)

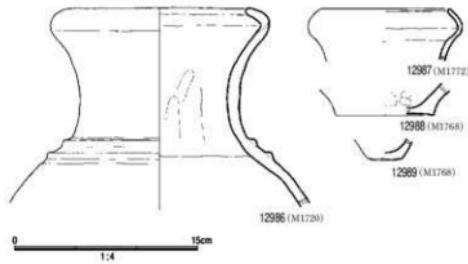


图15 捣立柱建物1831出土土器 (1:4)

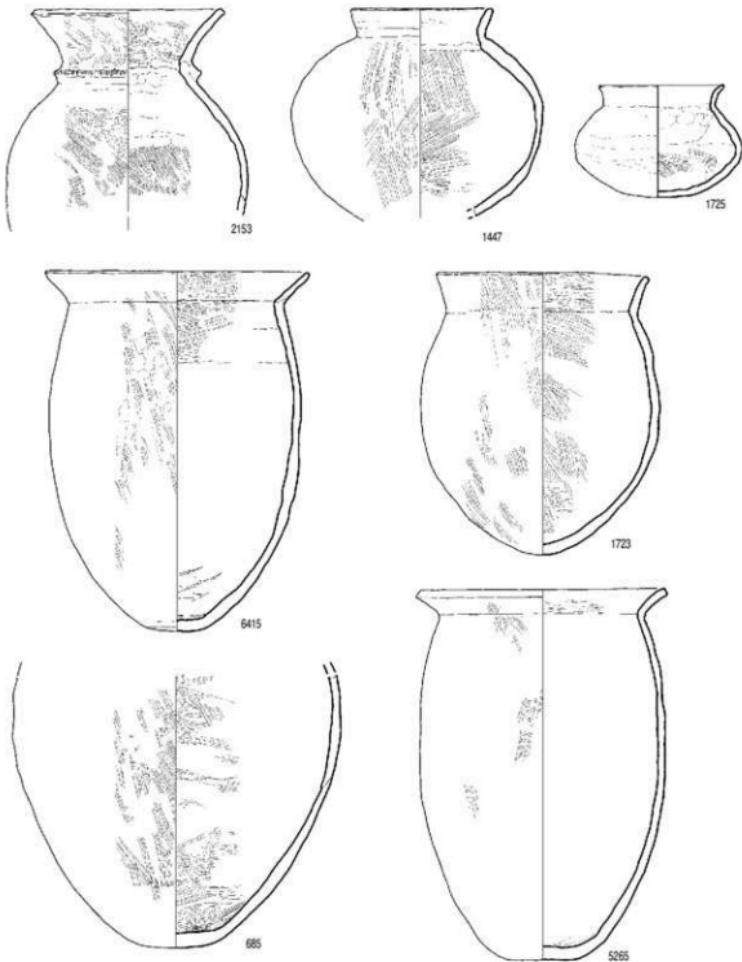


图16 谷1203 11层出土土器(1) (1:4)

0 1:4 15cm

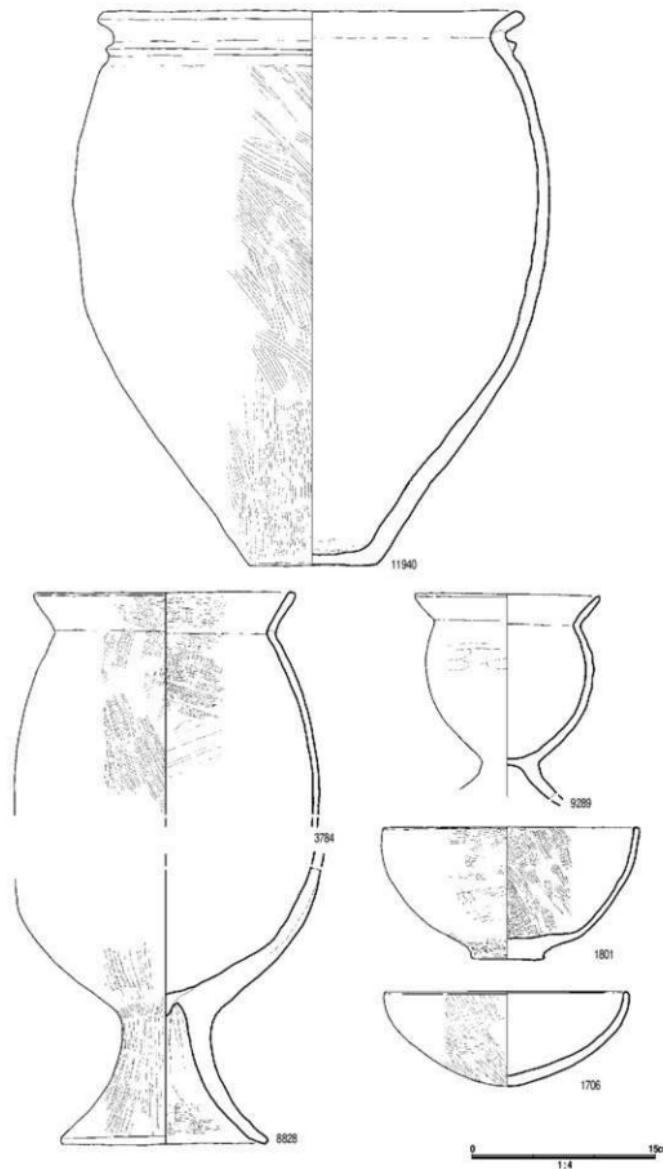
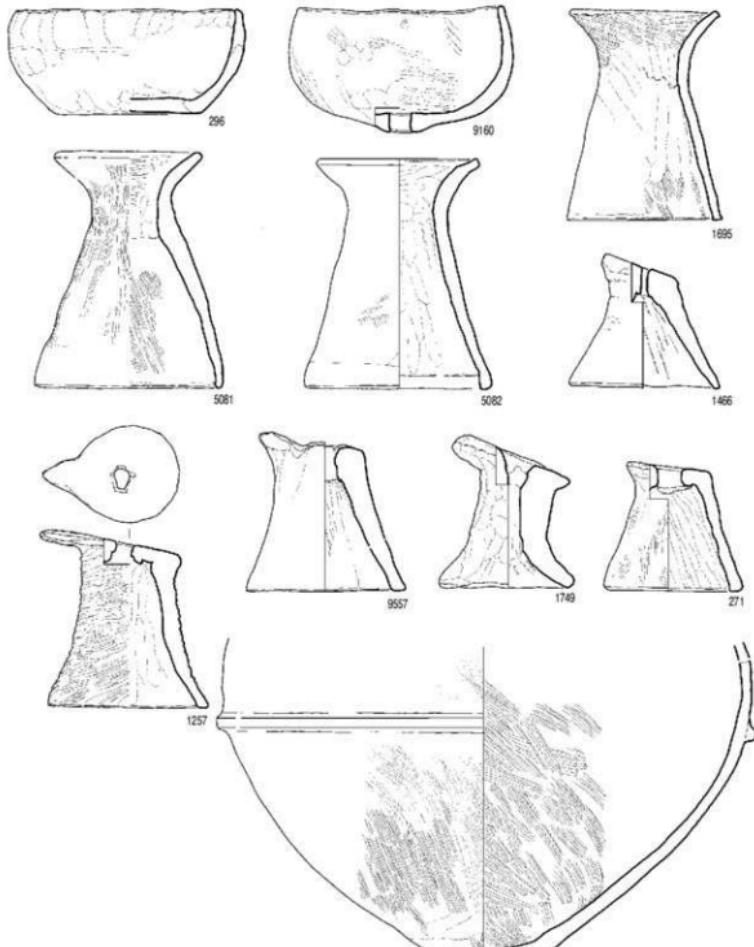


图17 谷1203 11层出土土器(2) (1:4)



0
1:4 15cm

图18 谷1203 11层出土土器(3) (1:4)

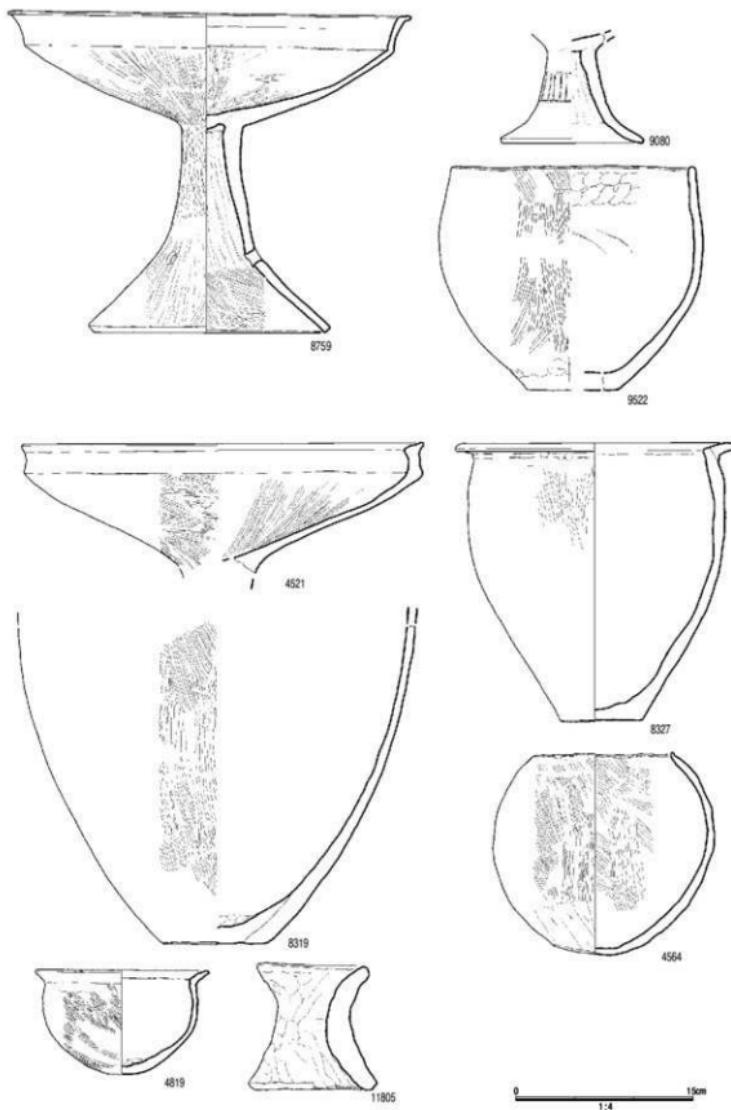


图19 谷1203 22层·19层出土地器 (1:4)

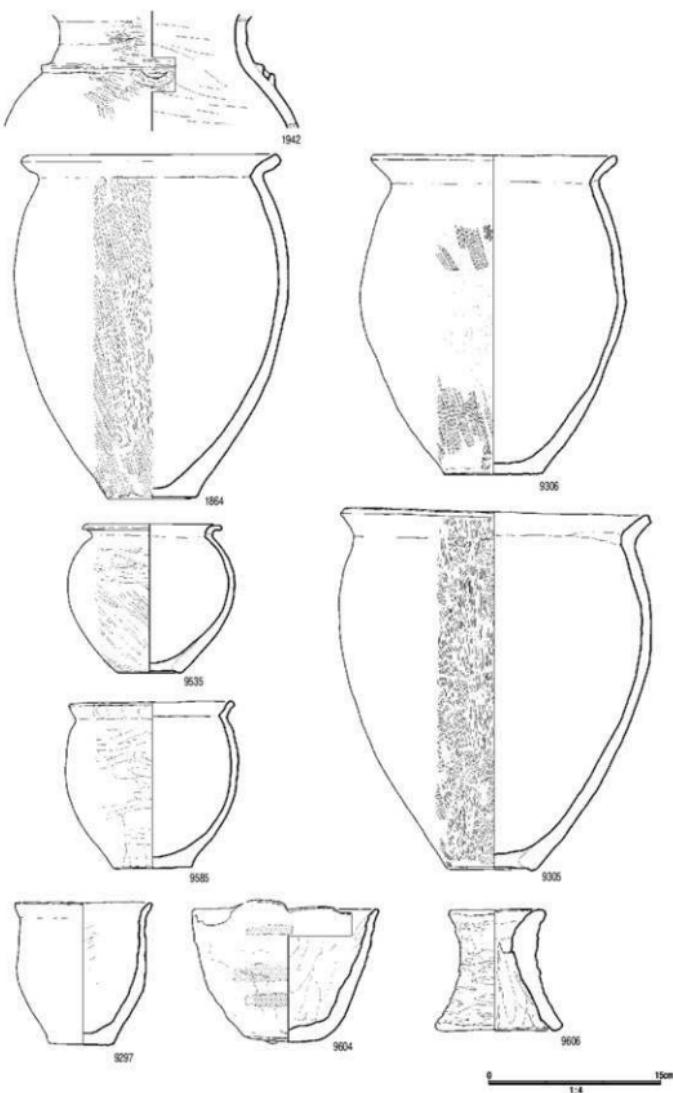


图20 谷1203 23层出土土器 (1:4)

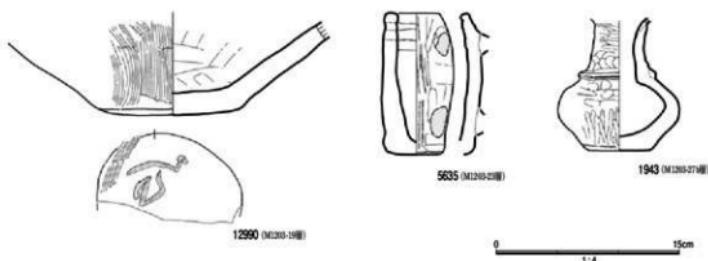


图21 谷1203 19层·27b层·39层出土地器 (1:4)

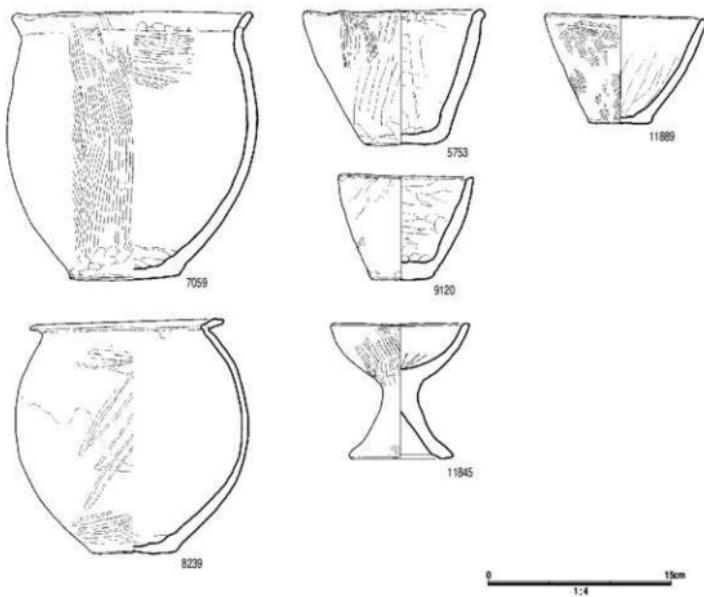


图22 谷1203 49层出土地器 (1:4)

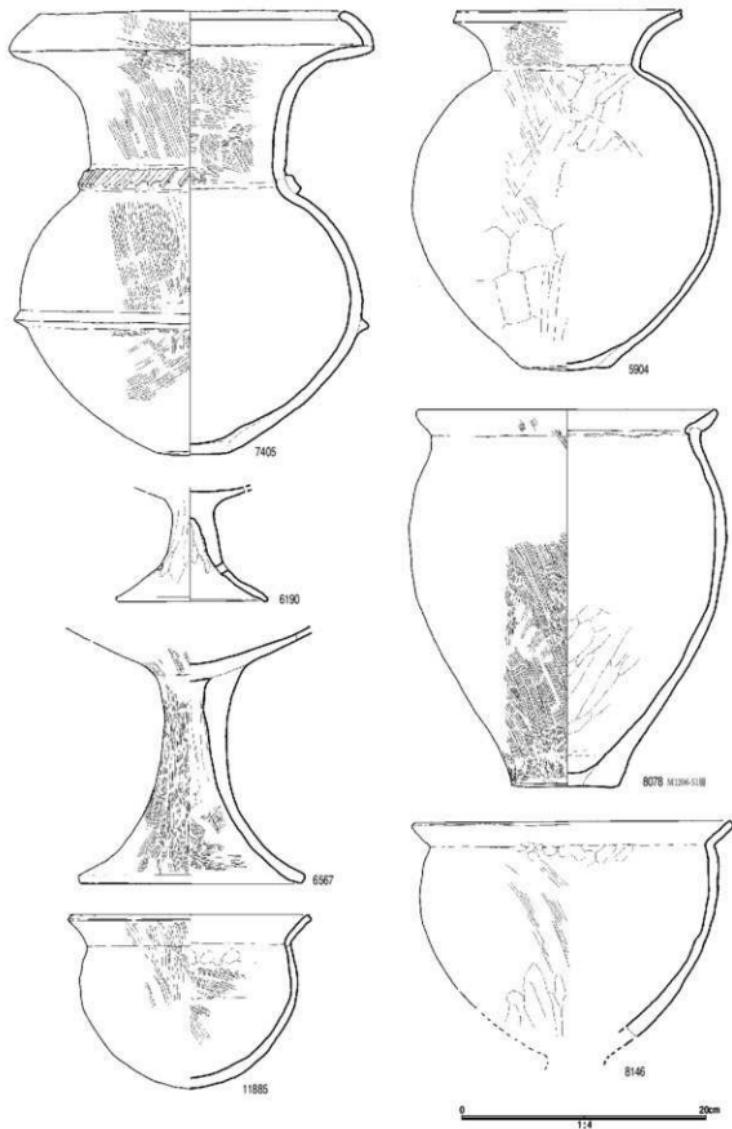
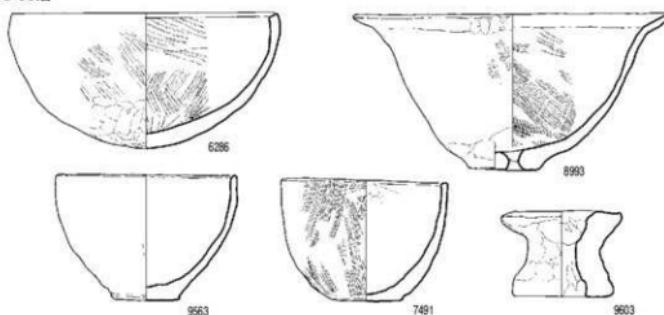


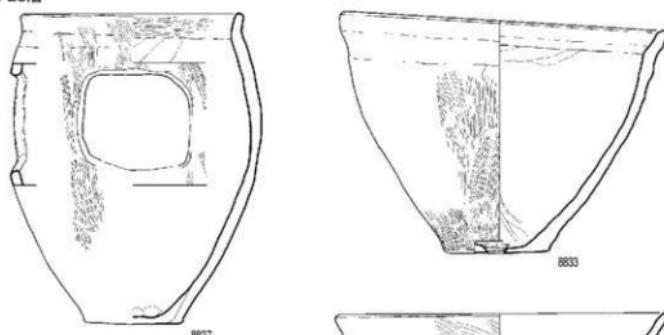
図23 谷1203 50層出土土器 (1:4)

0 10cm 20cm
1:4

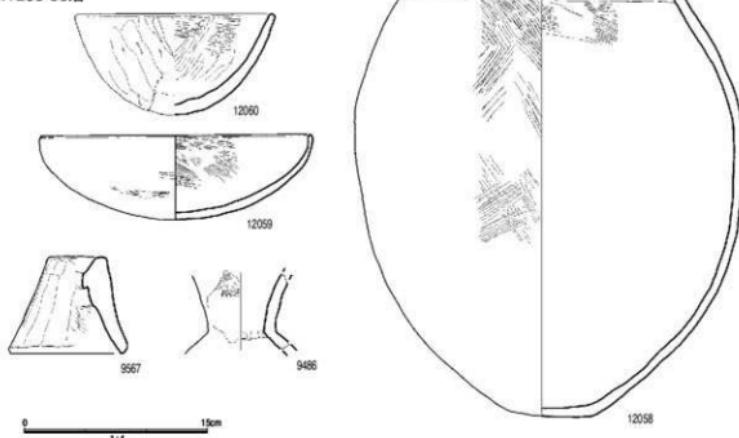
M1203-50層



M1203-25層



M1203-35層



0 15cm
1:4

図24 谷1203 50層・25層・35層出土土器 (1:4)

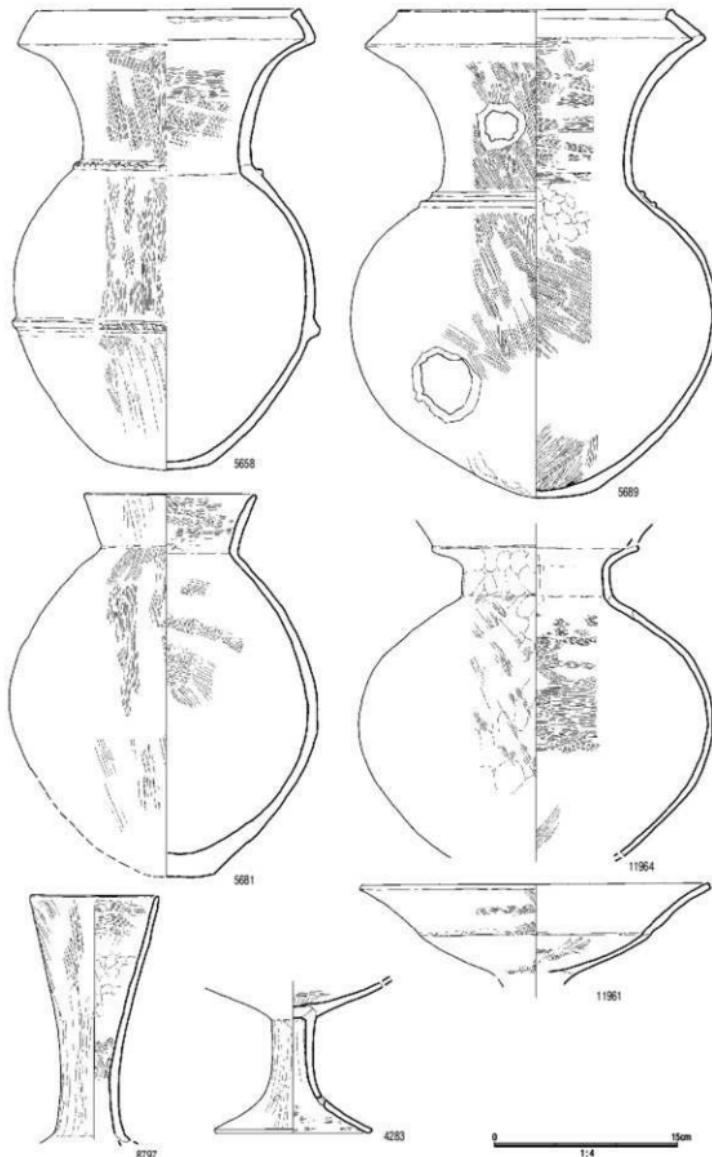
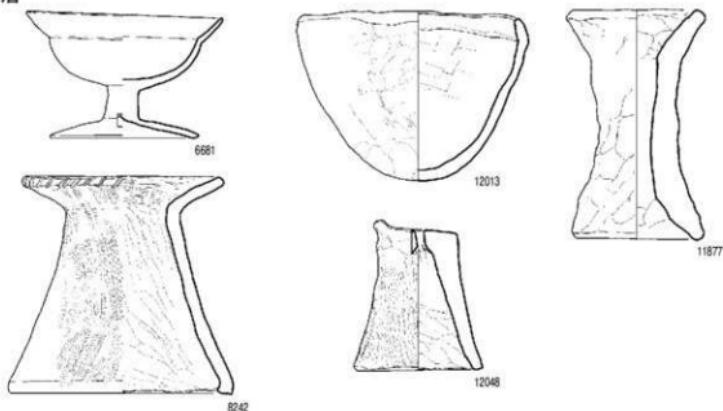


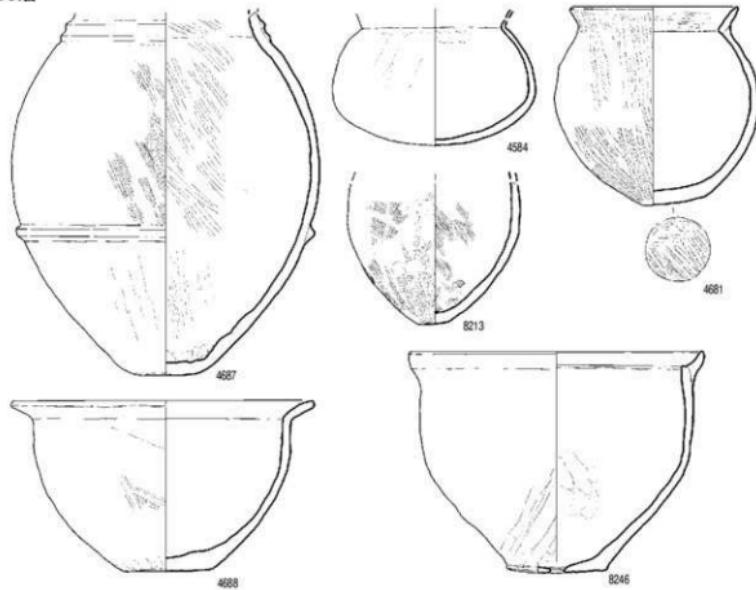
图25 谷1203 36层出土土器 (1:4)

0 1:4 15cm

36層



39層



0 15cm
1:4

図26 谷1203 36層・39層出土土器 (1:4)

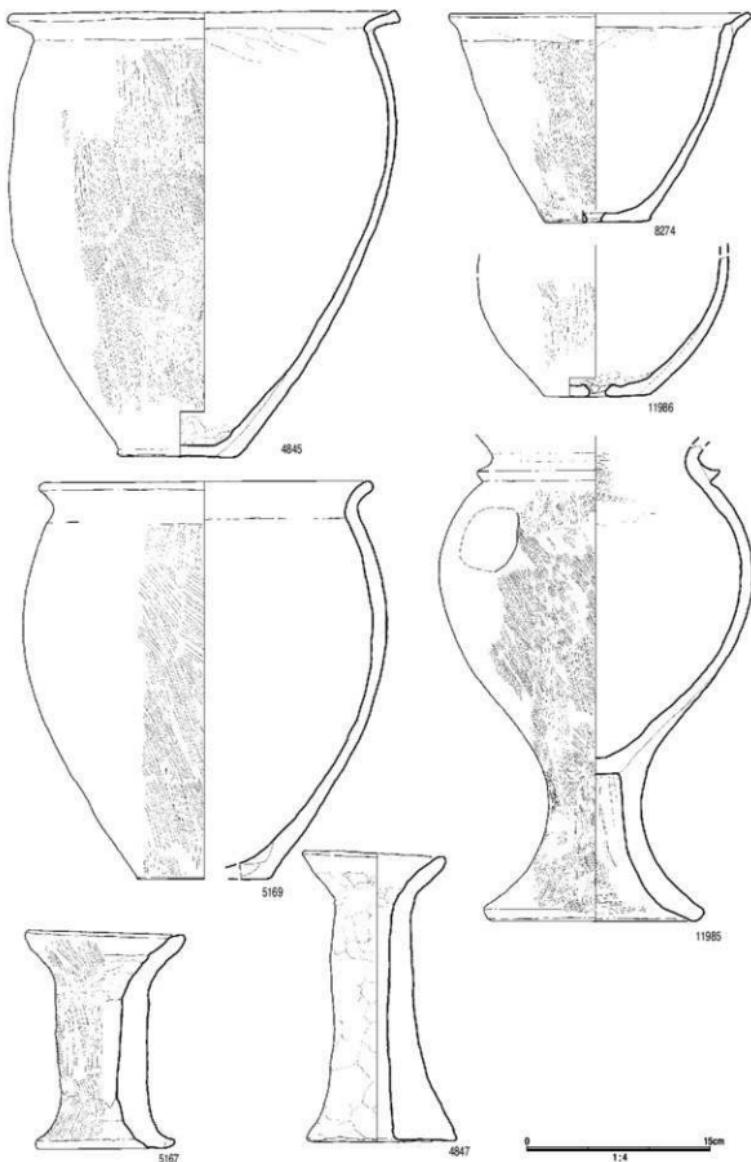
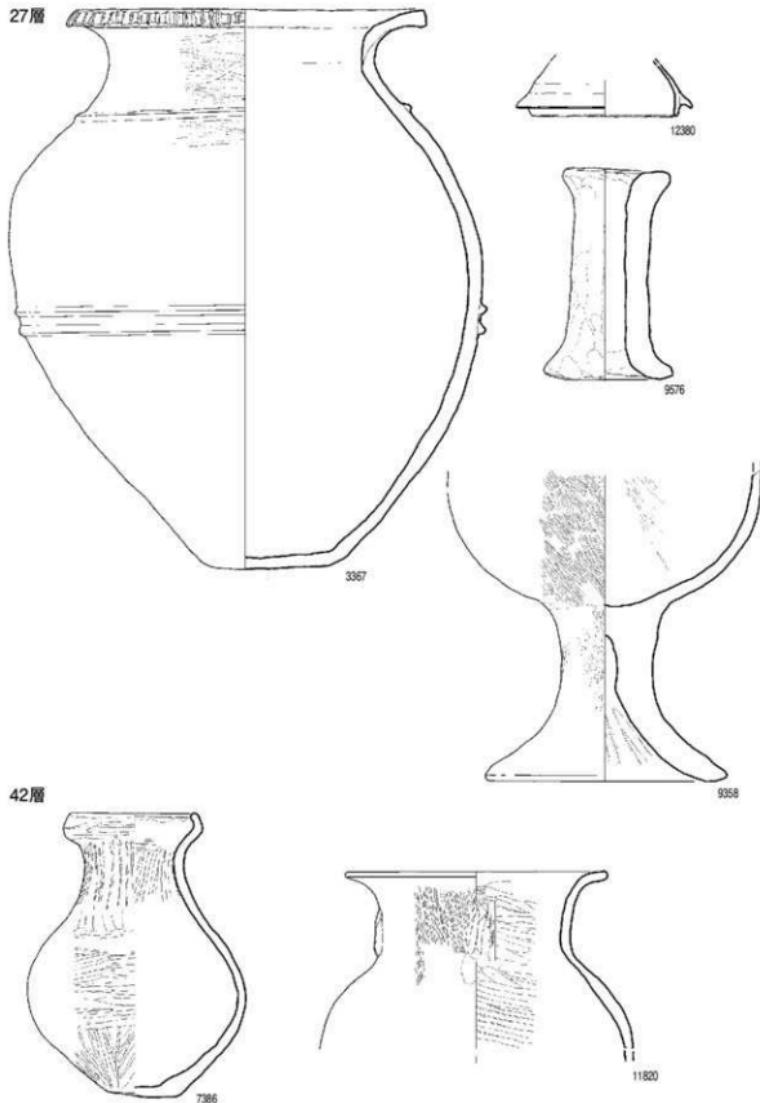


图27 谷1203 40层出土土器 (1:4)



0 1:4 15cm

図28 谷1203 27層・42層出土土器 (1:4)

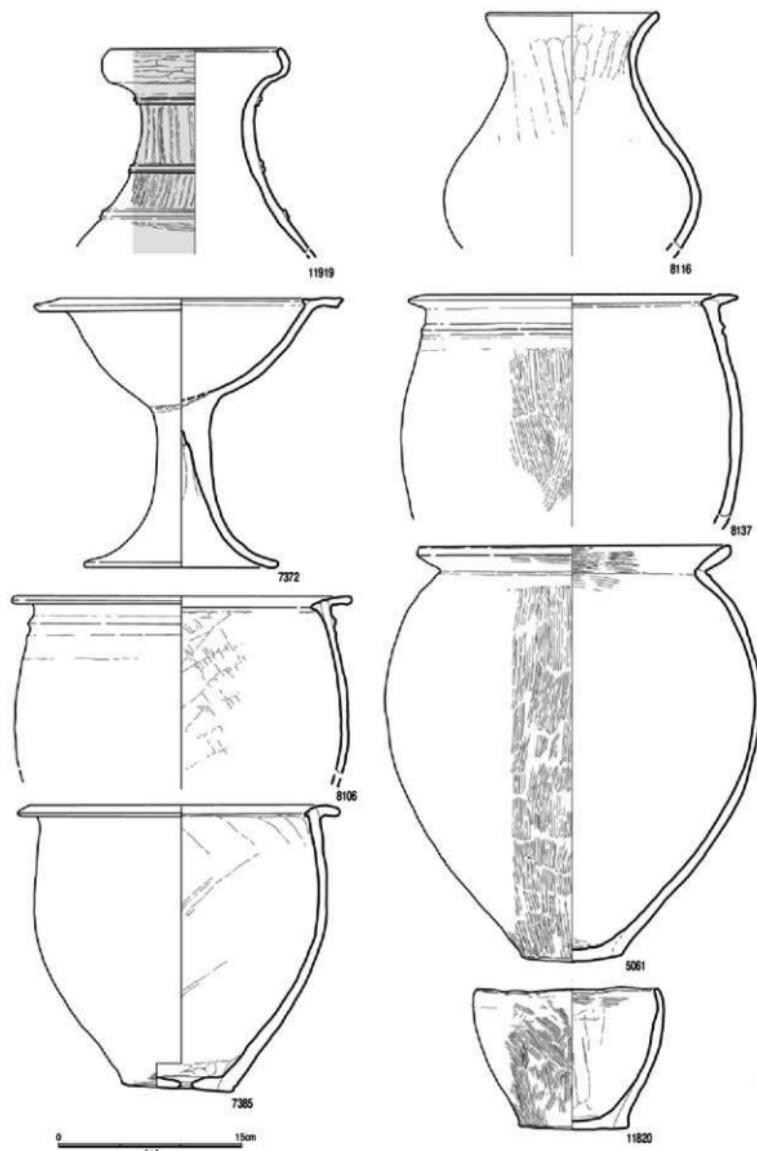


图29 谷1203 42层出土土器 (1:4)

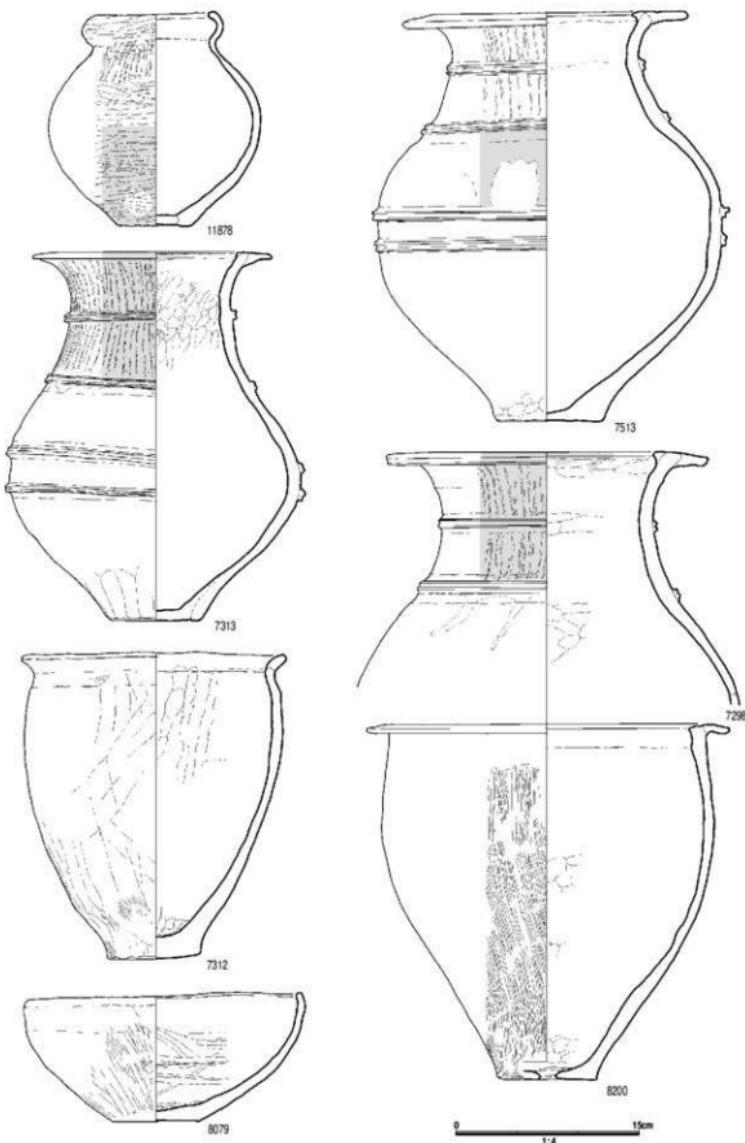


图30 谷1203 51层出土土器 (1:4)

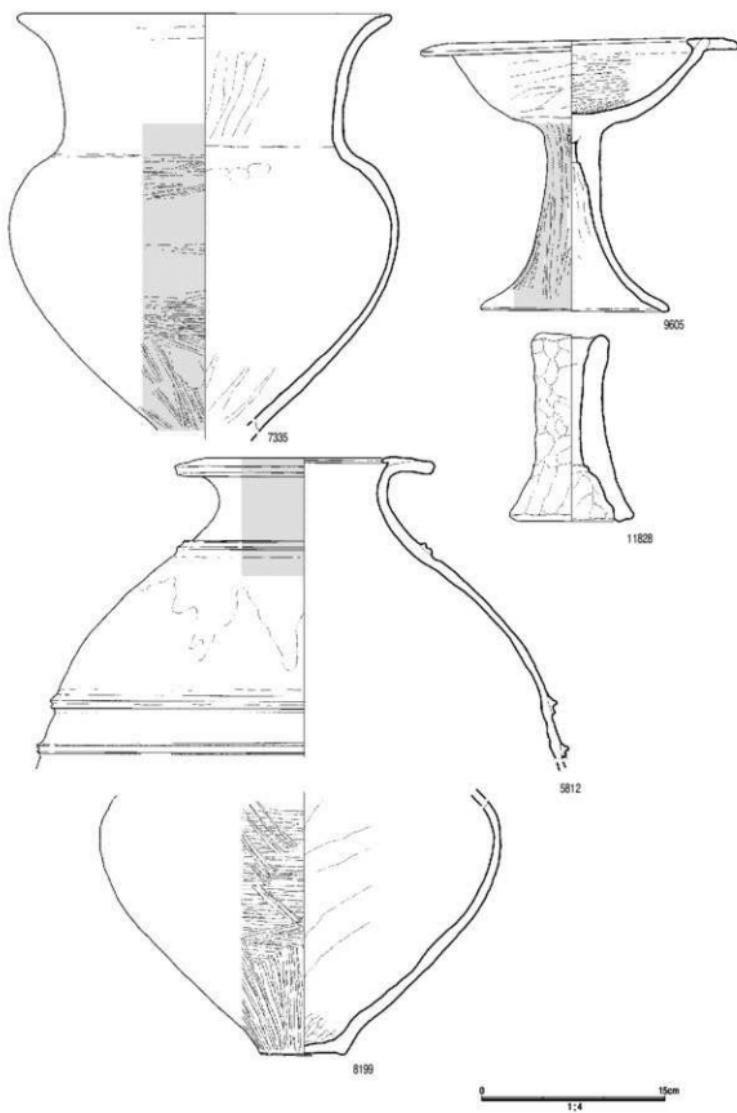
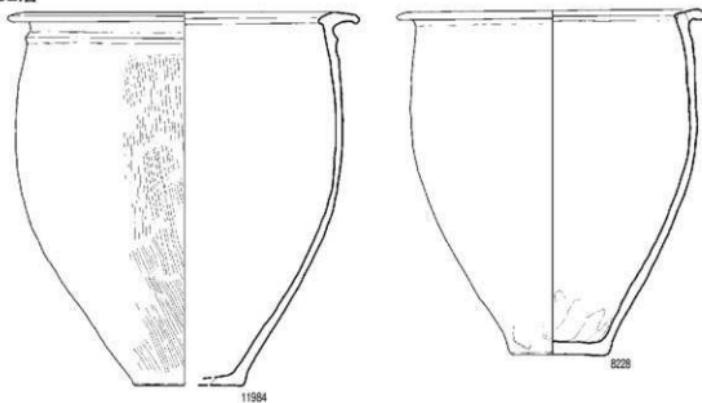
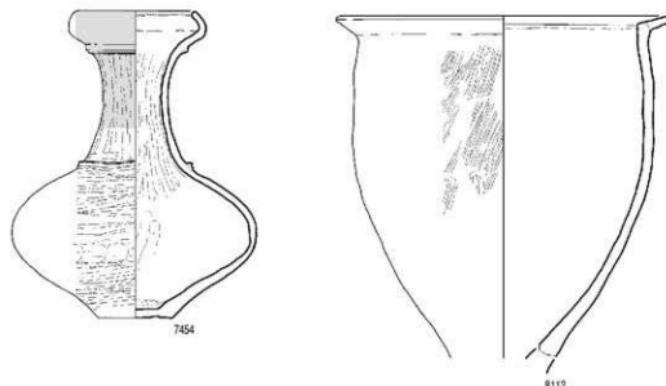


図31 谷1203 52層出土土器 (1:4)

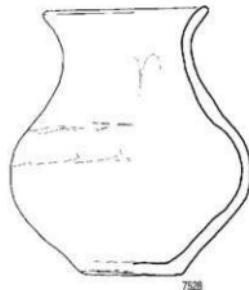
52層



53層



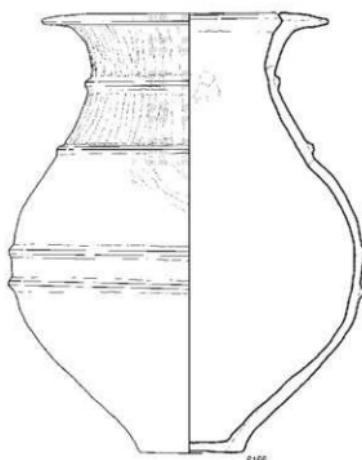
67層



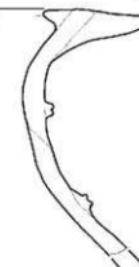
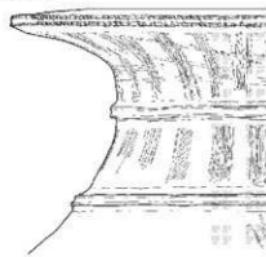
0 1:4 15cm

図32 谷1203 52層・53層・67層出土土器 (1:4)

M 1561



M 1567



M 1570



0 1cm

図33 满1561・满1567・M1570出土土器 (1:4)

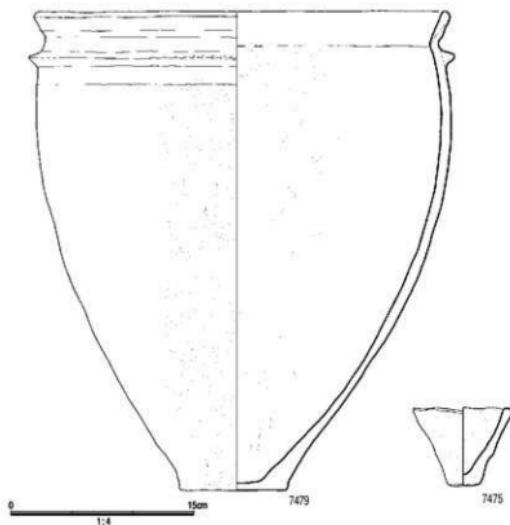
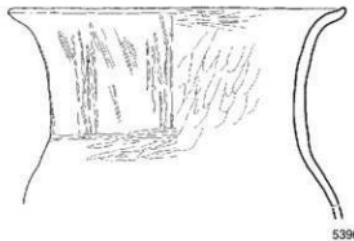
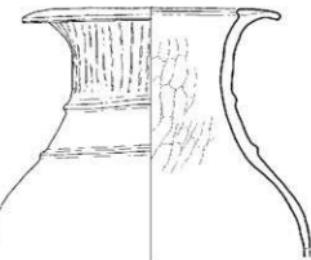


図34 井戸2029出土土器 (1:4)

土器埋置 1716



土器埋置 1717



土器埋置 1718

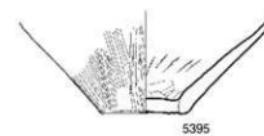


図35 土器埋置1716～1718 (1:4)

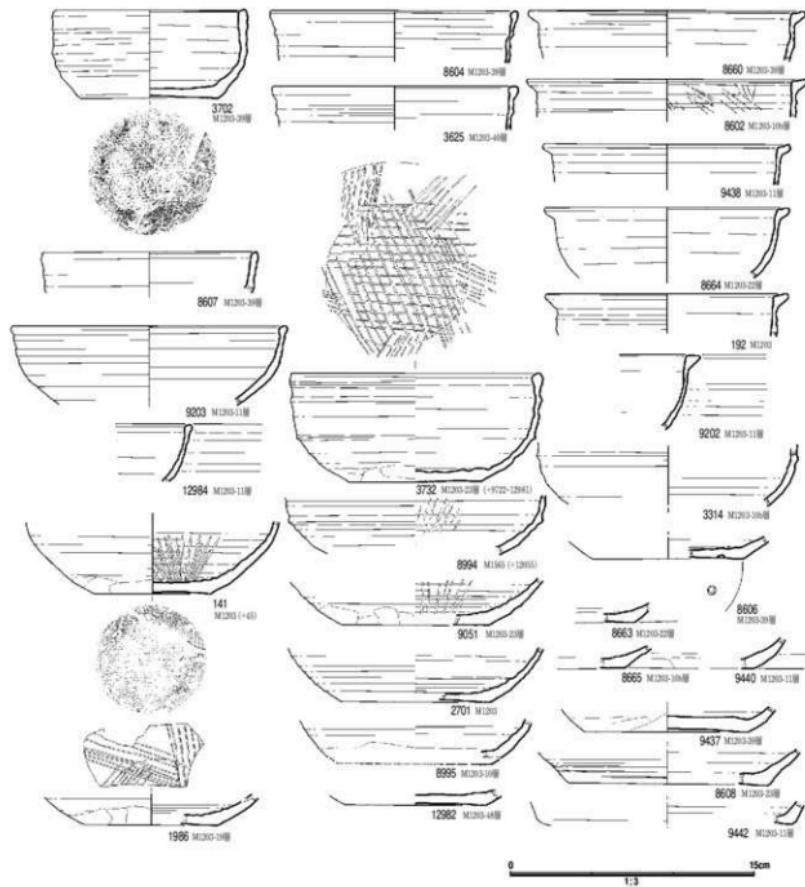


図36 樂浪系土器 (1:3)

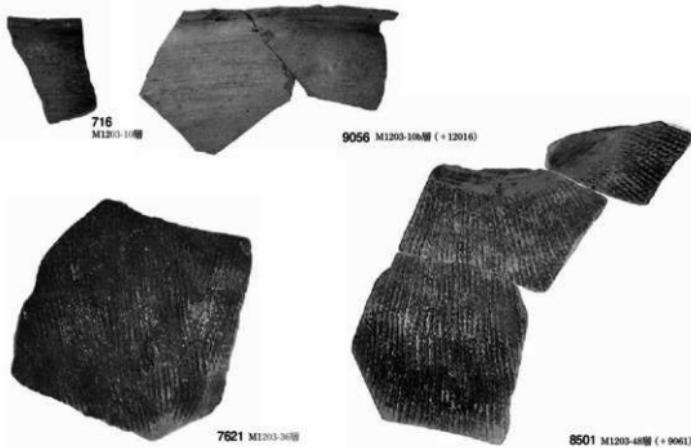
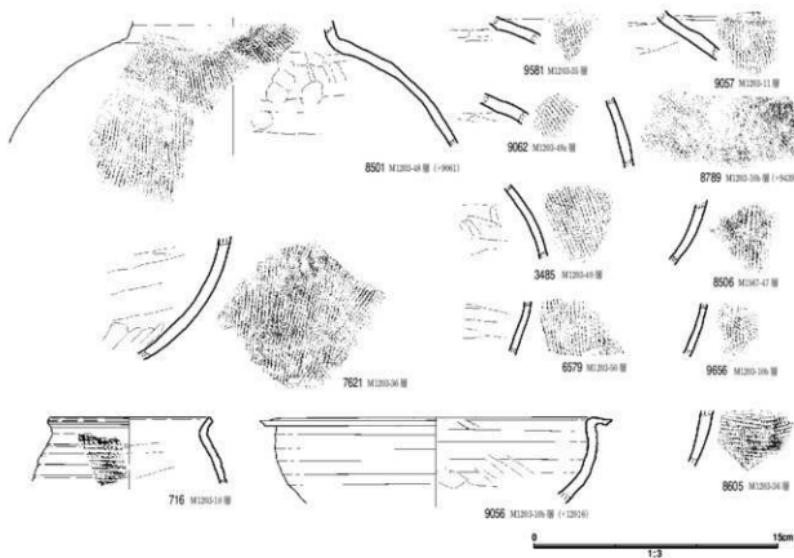


图37 瓦质土器·陶质土器 (1:3)

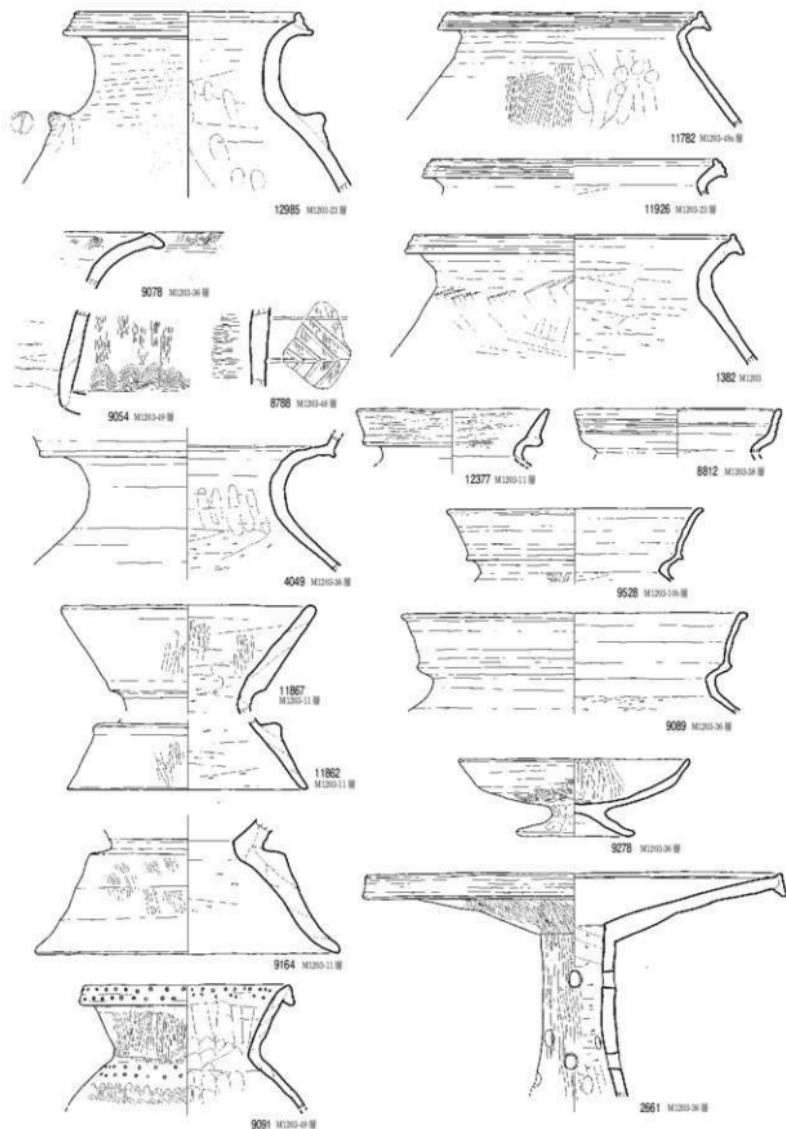


図38 異系統土器・土師器(1) (1:3)

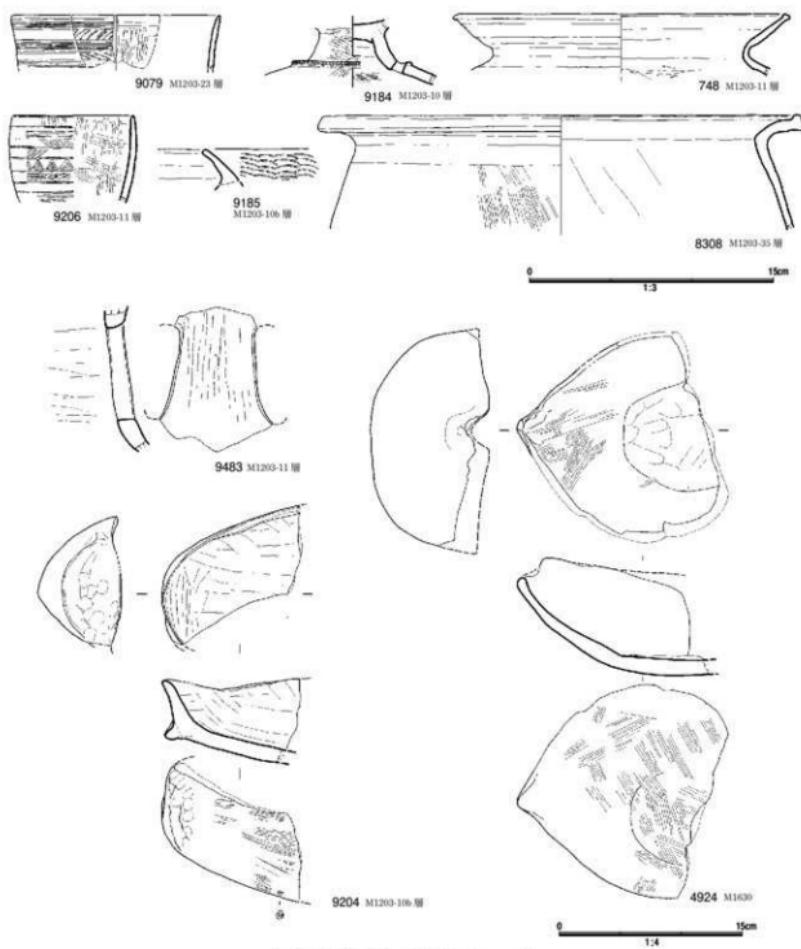


图39 舟系统土器·土饰器(2) (1:3, 1:4)

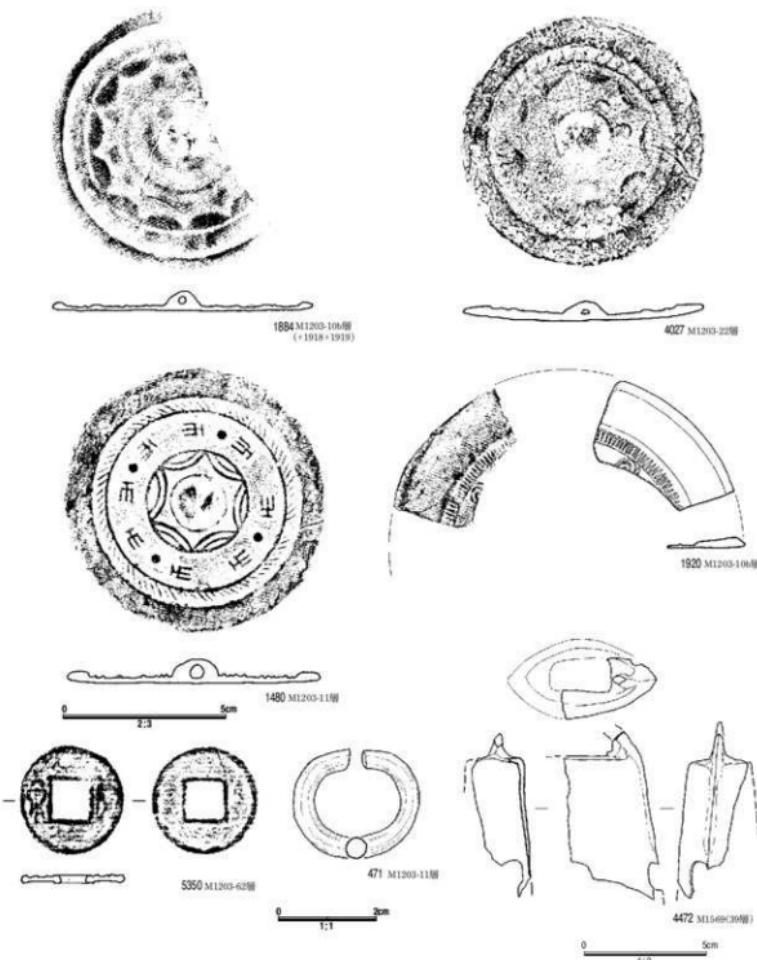


図40 金属器(1) (1:1, 2:3, 1:2)

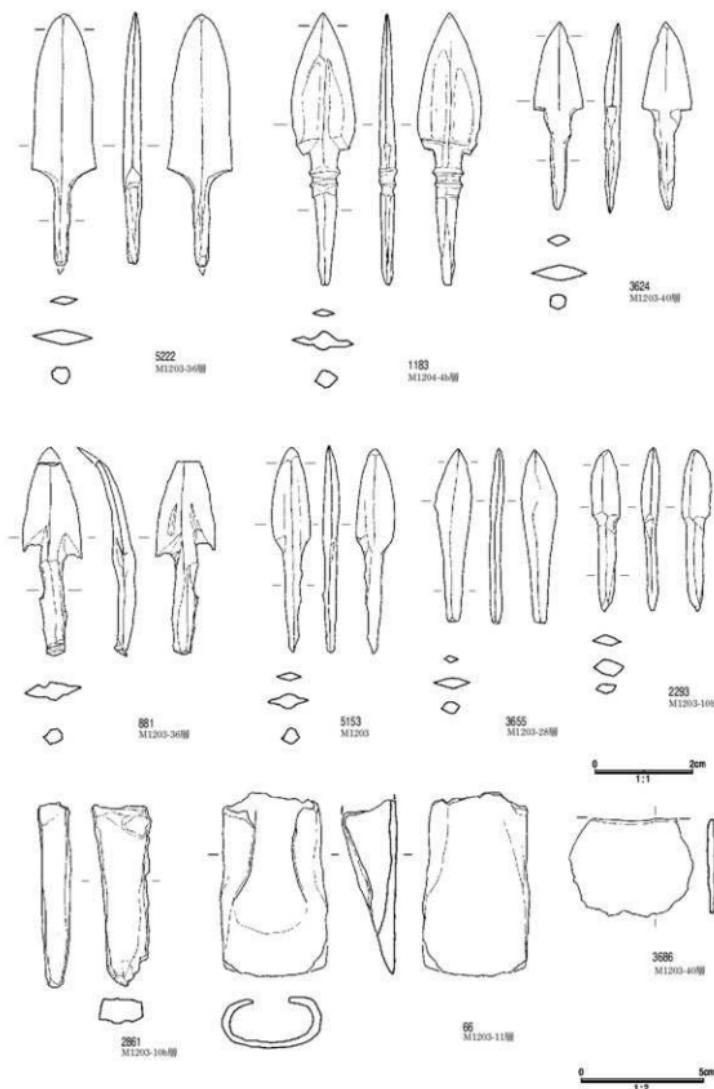


图41 金属器(2) (1:1, 1:2)

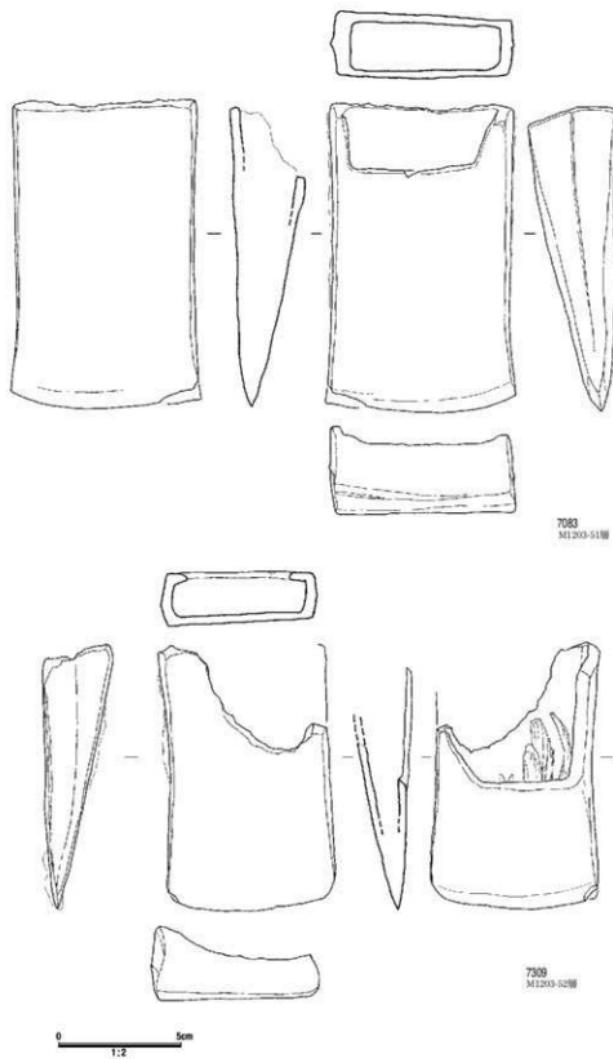


圖42 金屬器(3) (1:2)

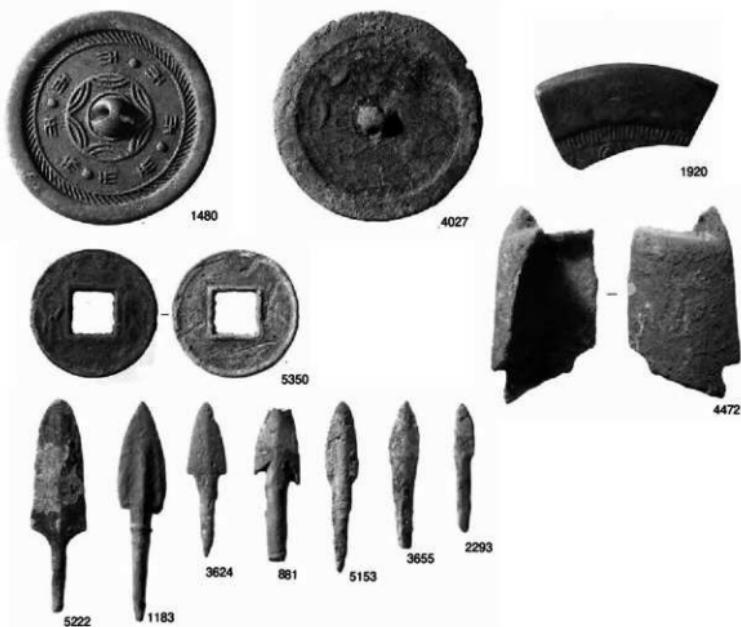
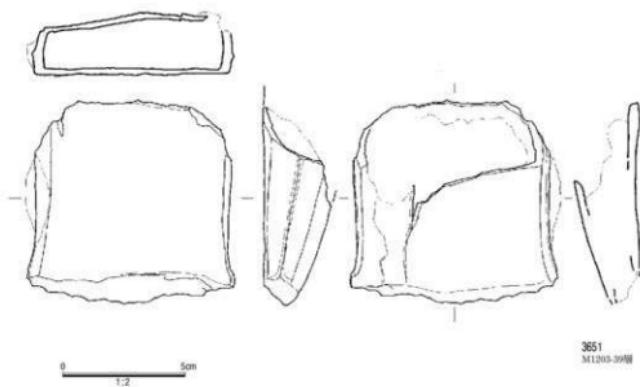


图43 金属器(4) (1:2)

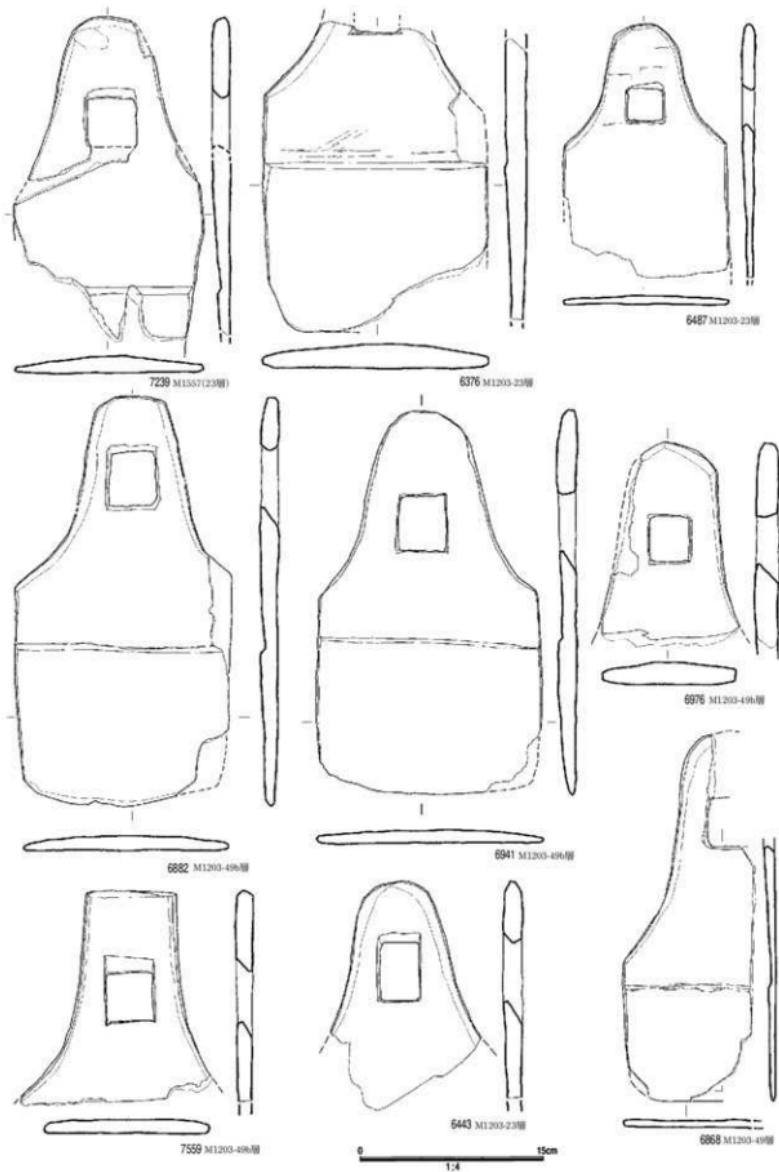


图44 钟(1) (1:4)

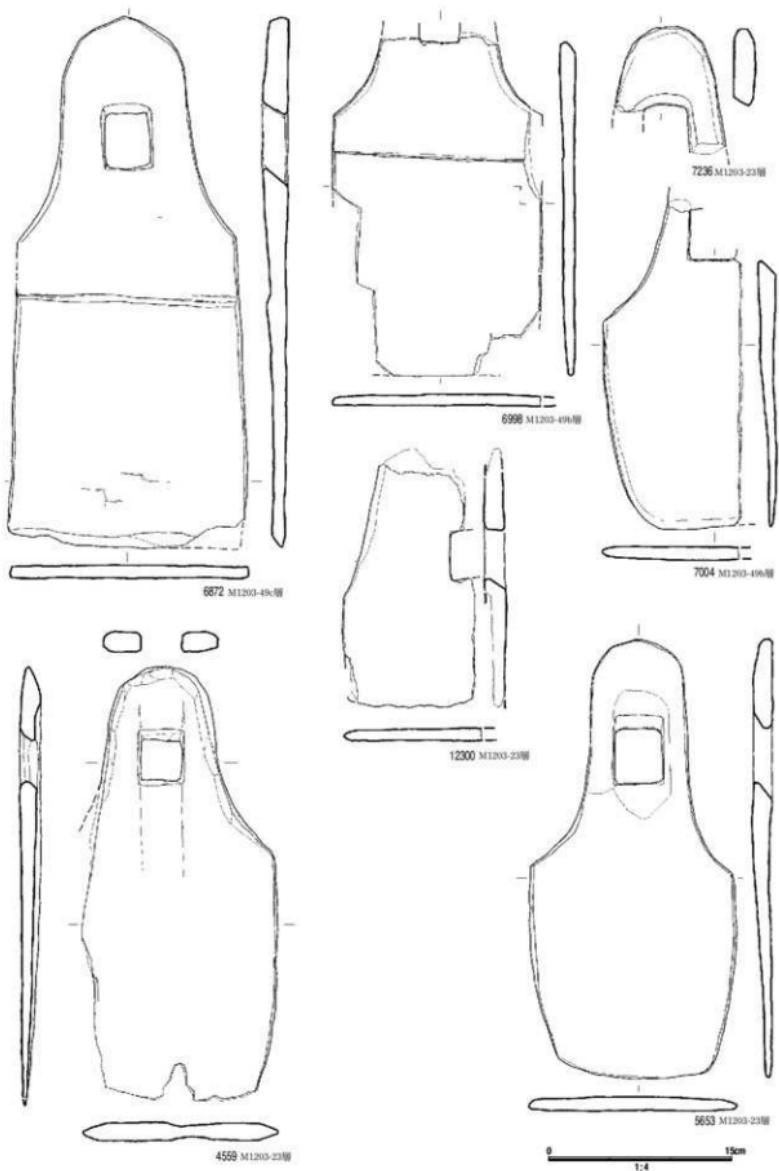


図45 鈸(2) (1:4)

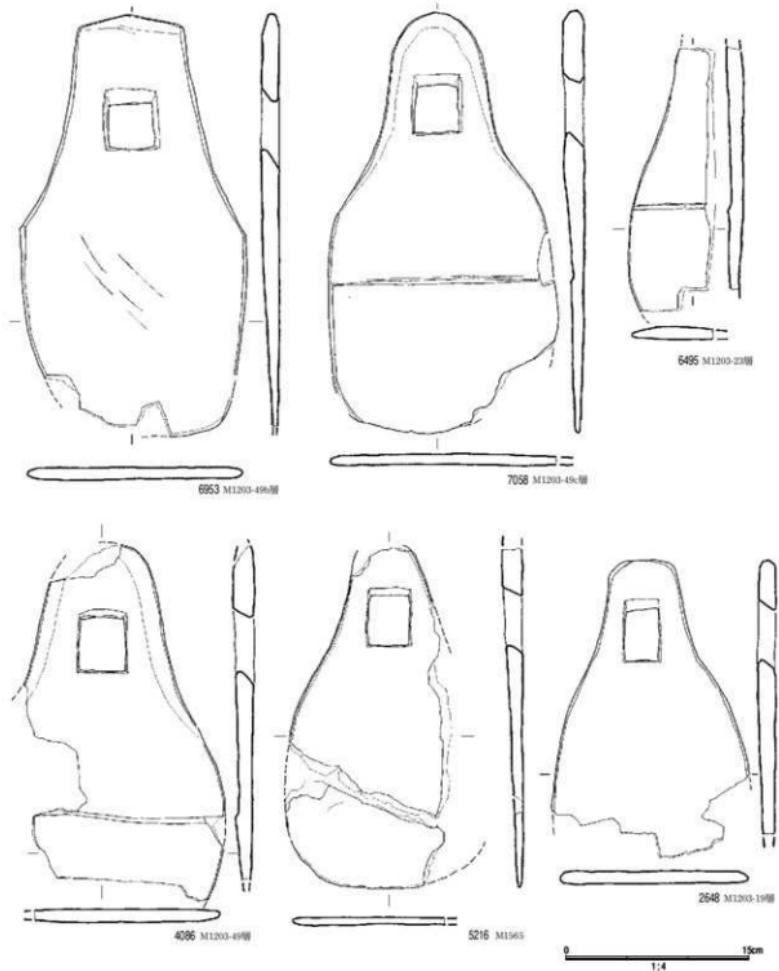


図46 銀(3) (1:4)

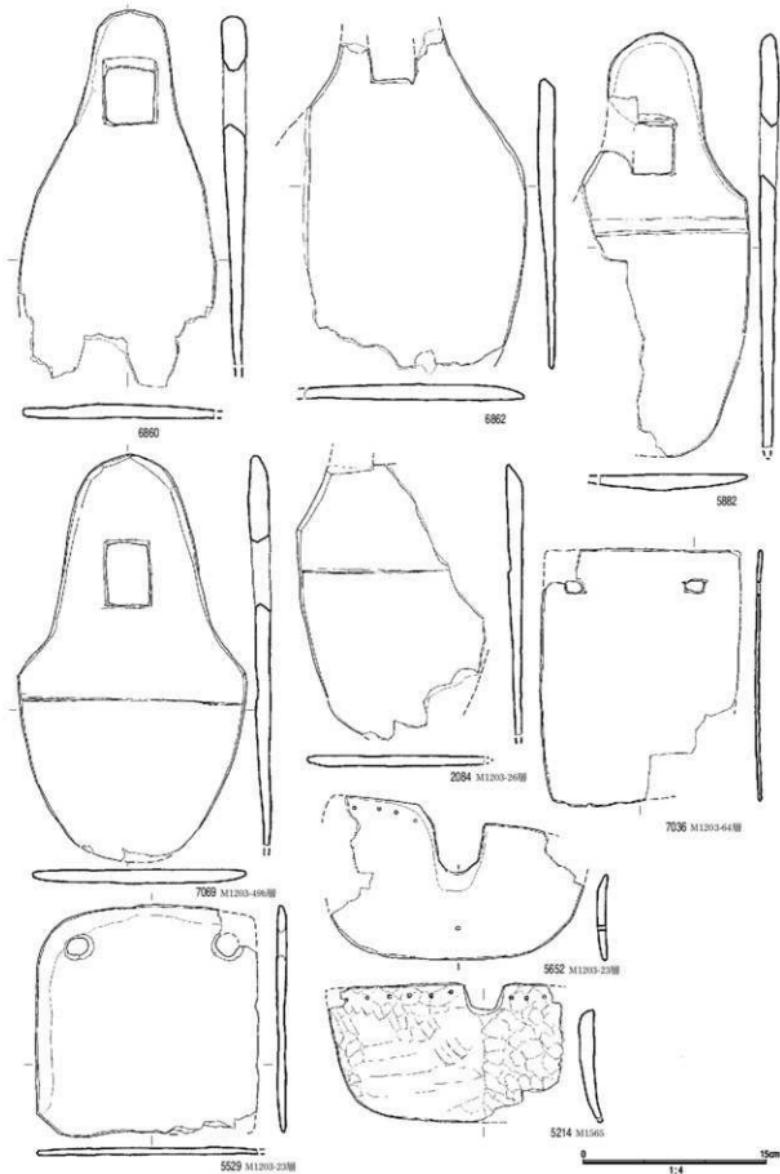


图47 铜(4) (1:4)

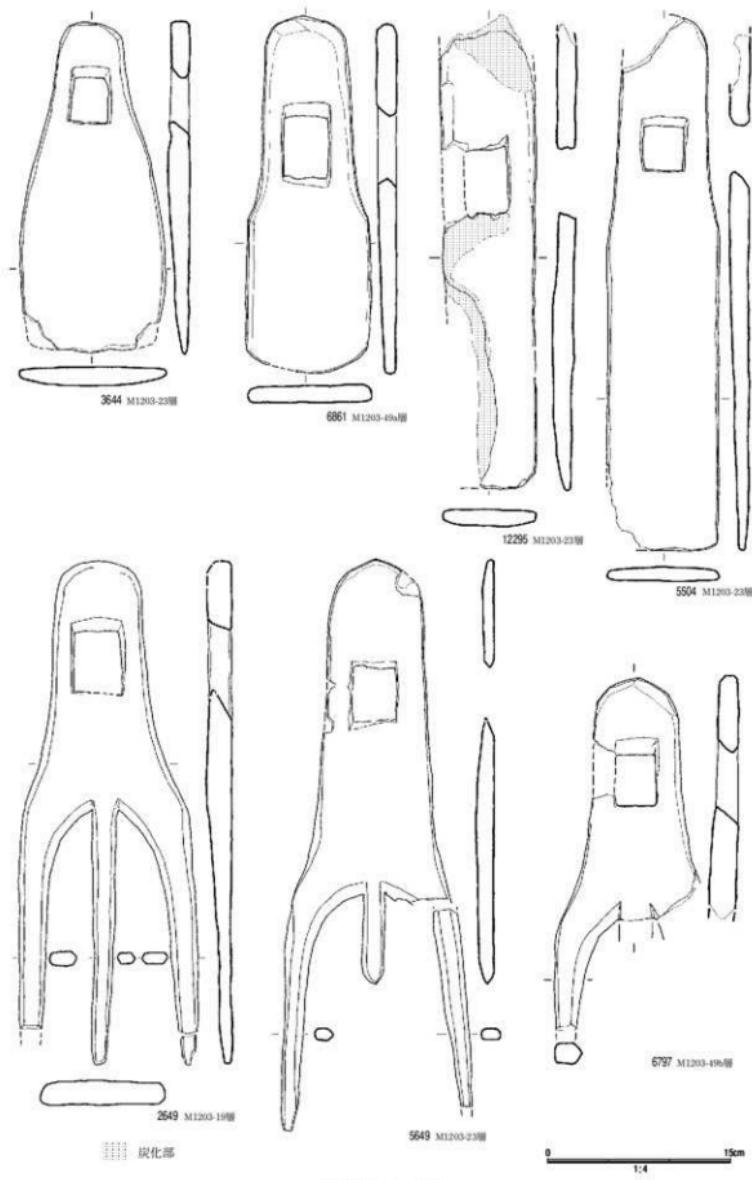


图48 钟(5) (1:4)

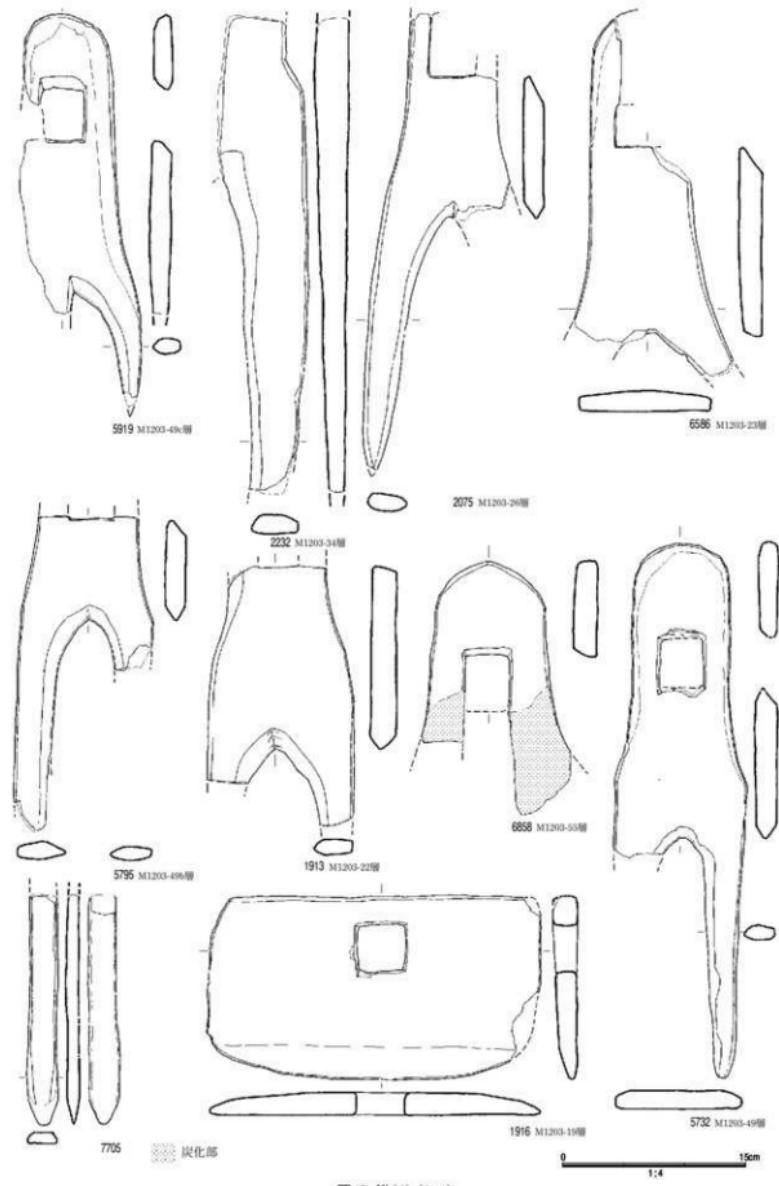


图49 钟(6) (1:4)

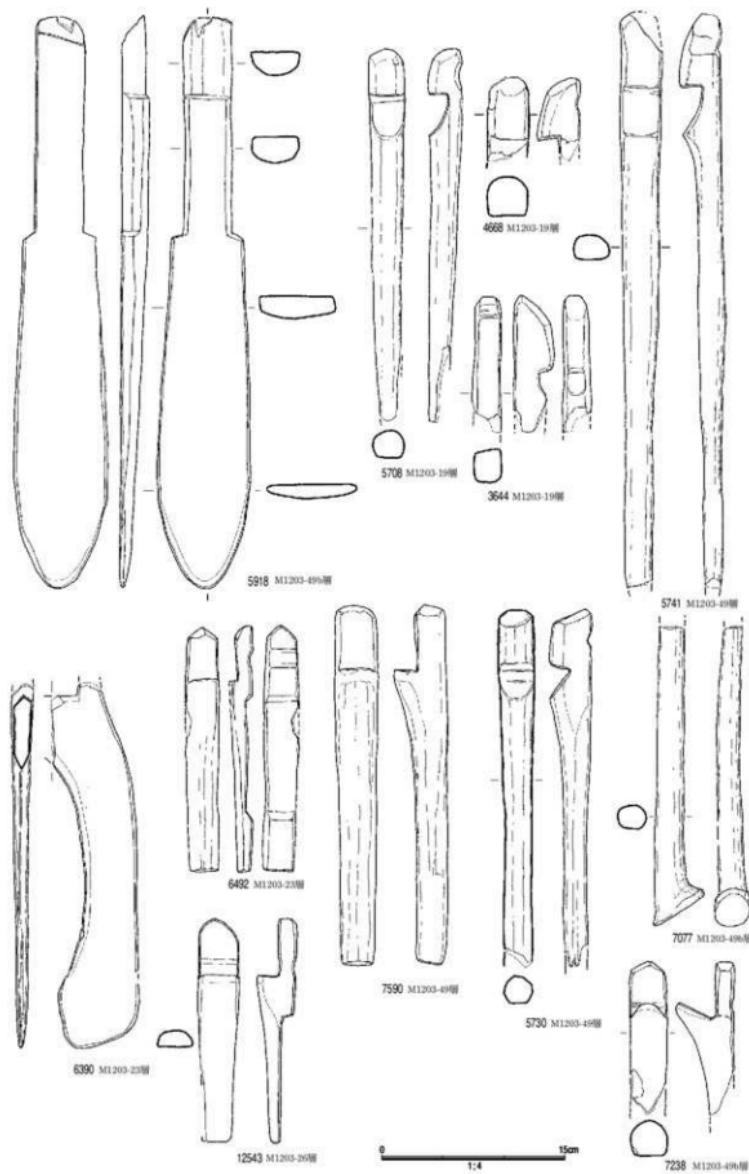


図50 錫(7)・錫柄 (1:4)

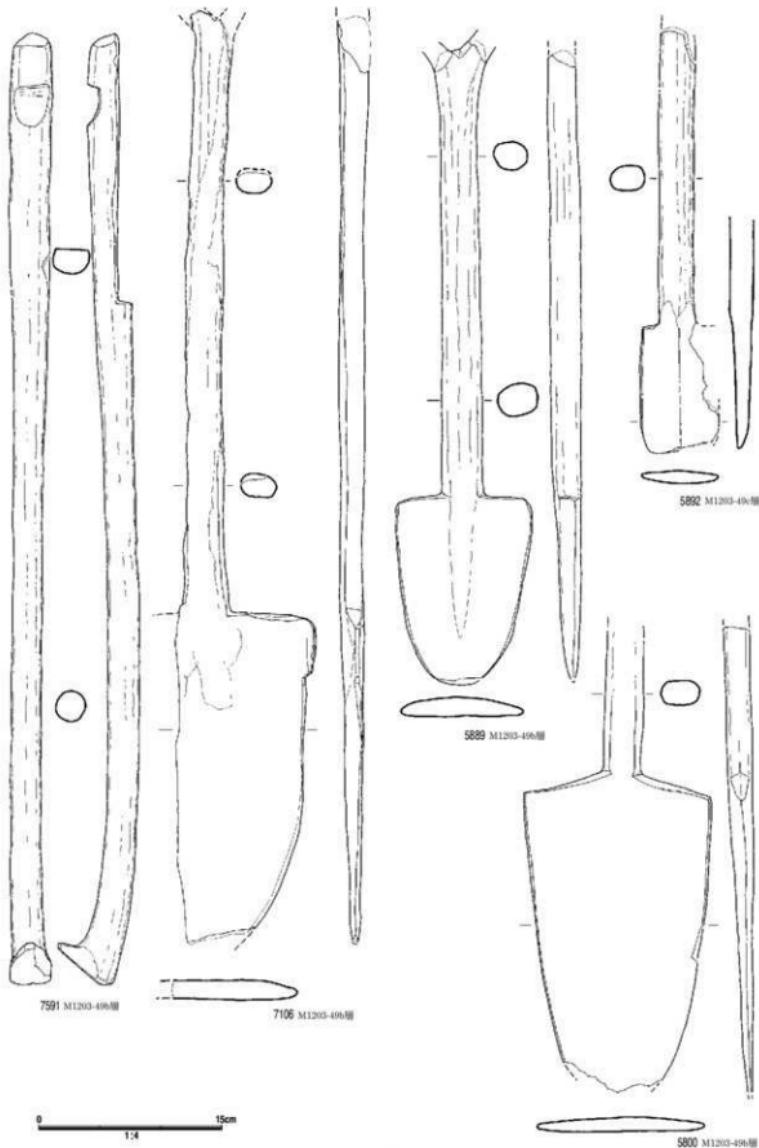


図51 箭 (1) (1:4)

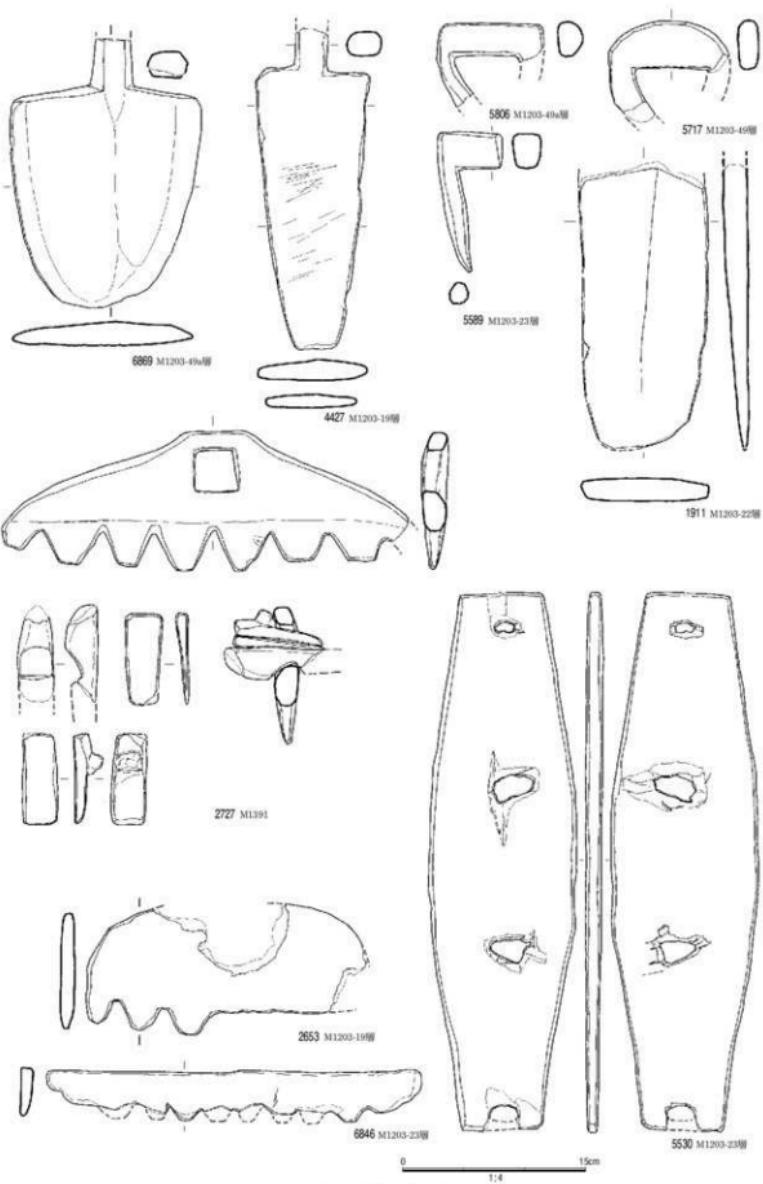


図52 簋 (2) (1:4)

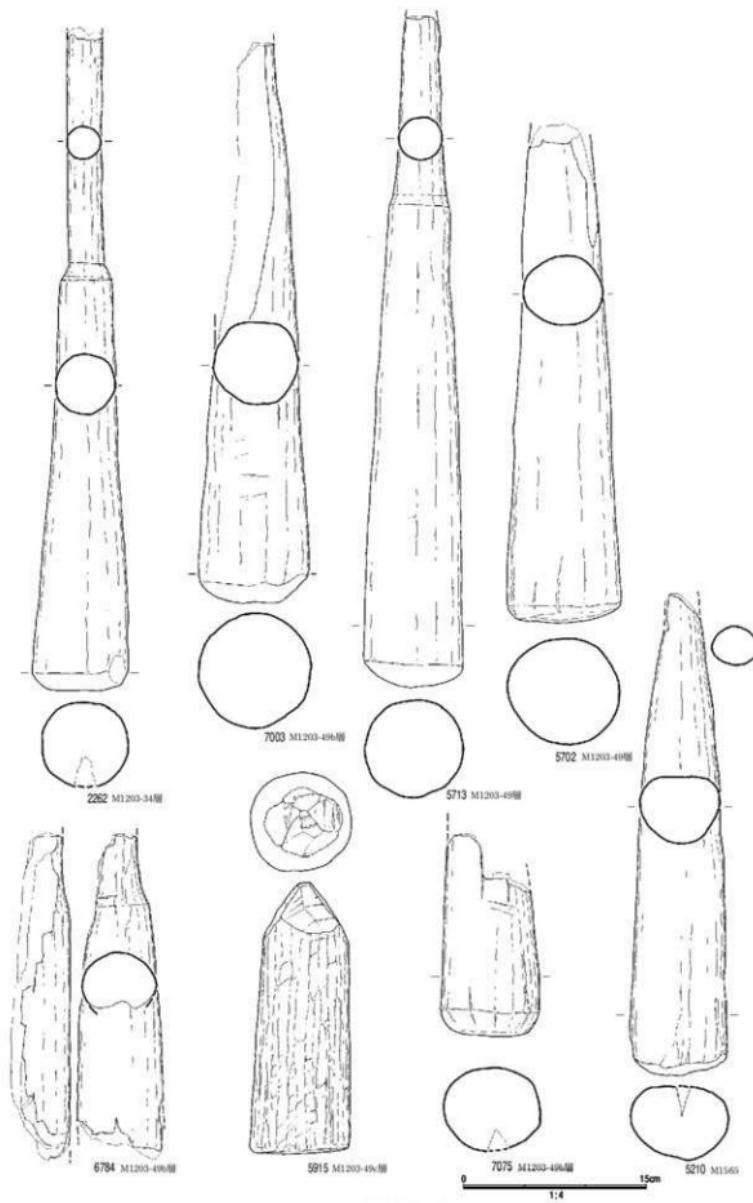


図53 件(1)(1:4)

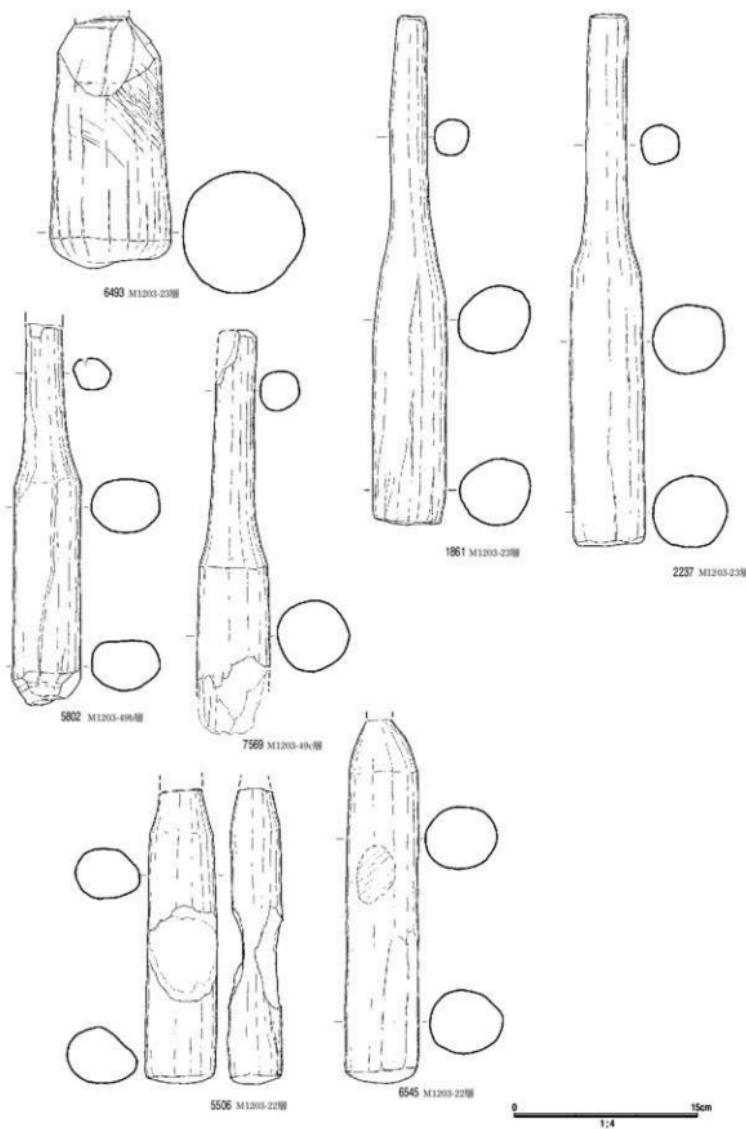
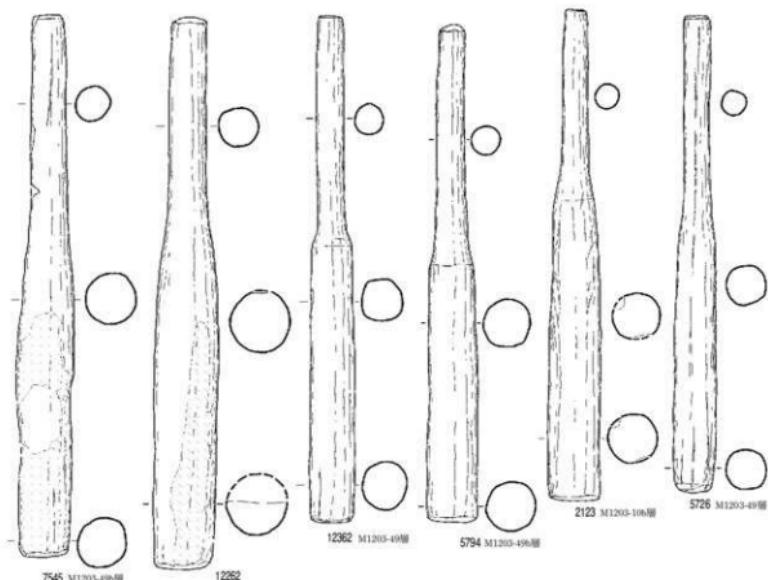


図54 件(2)(1:4)



0 1:4 15cm

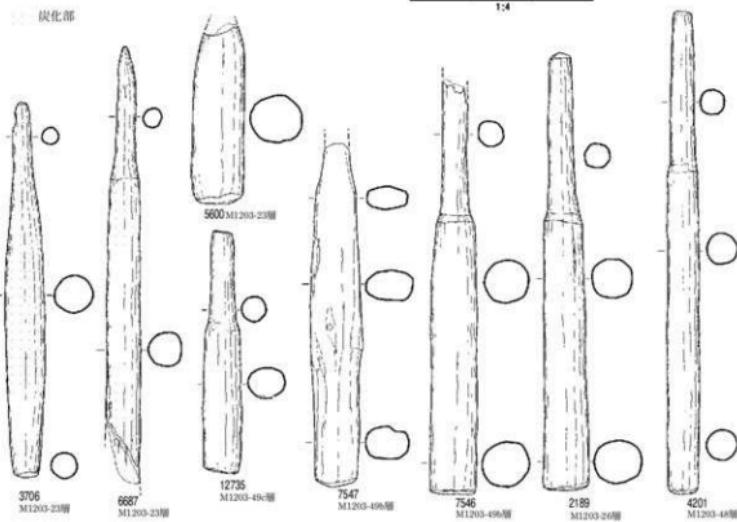


図55 牙 (3) (1:4)

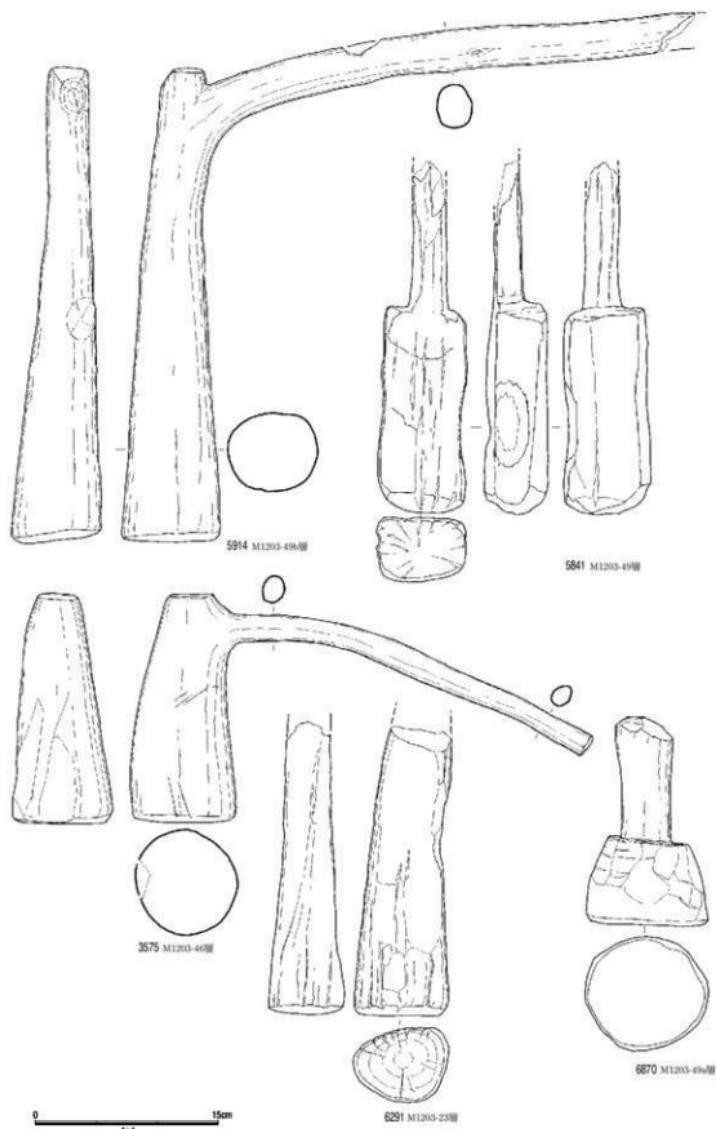


図56 件(4)(1:4)

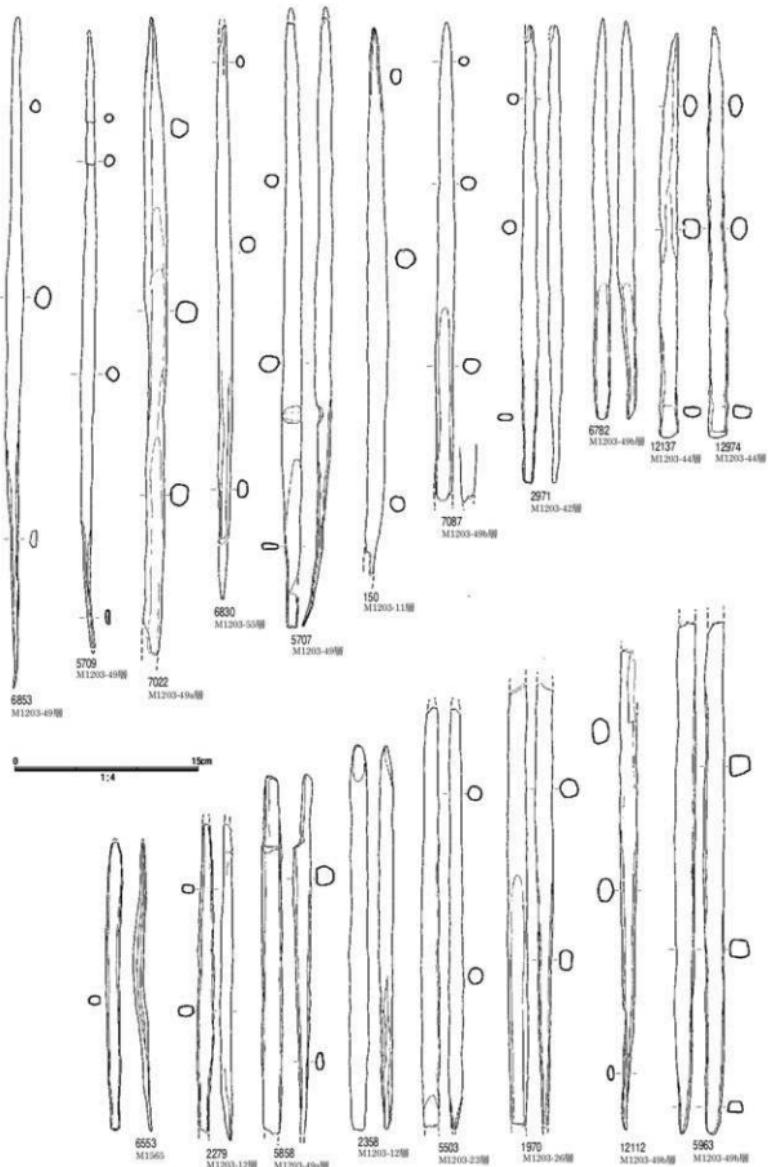


図57 指(ヤナ) (1) (1:4)

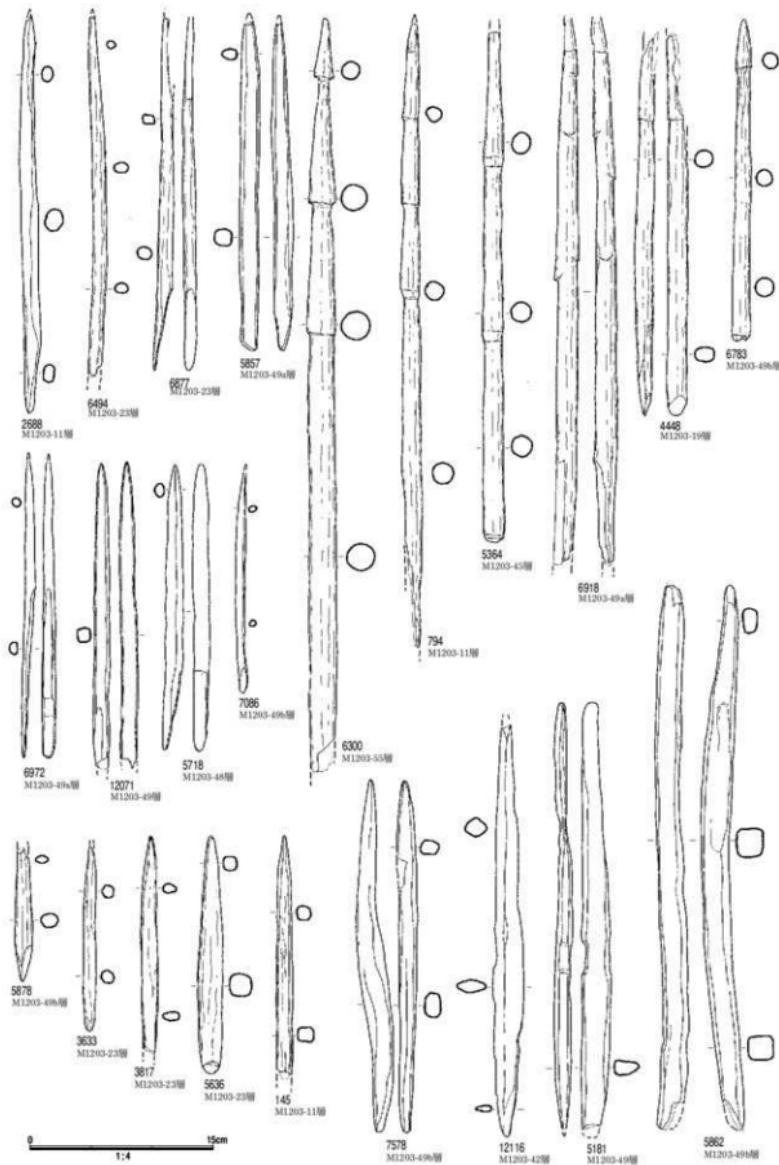


図58 花(やう)(2) (1:4)

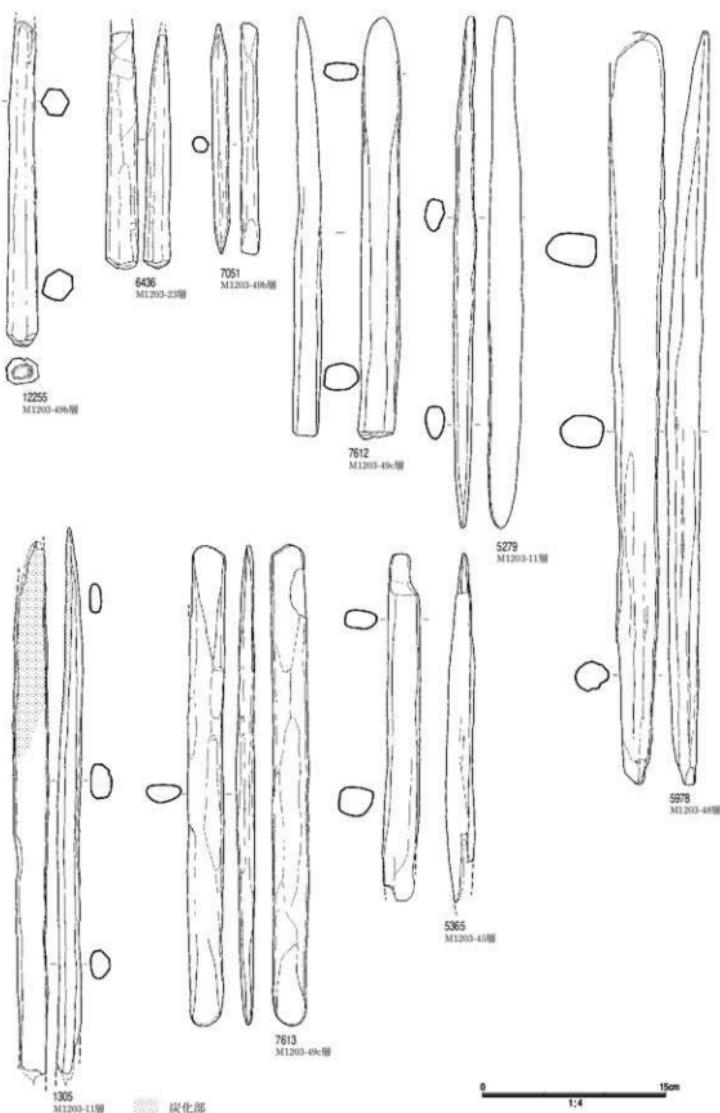


図59 尖頭器 (1:4)

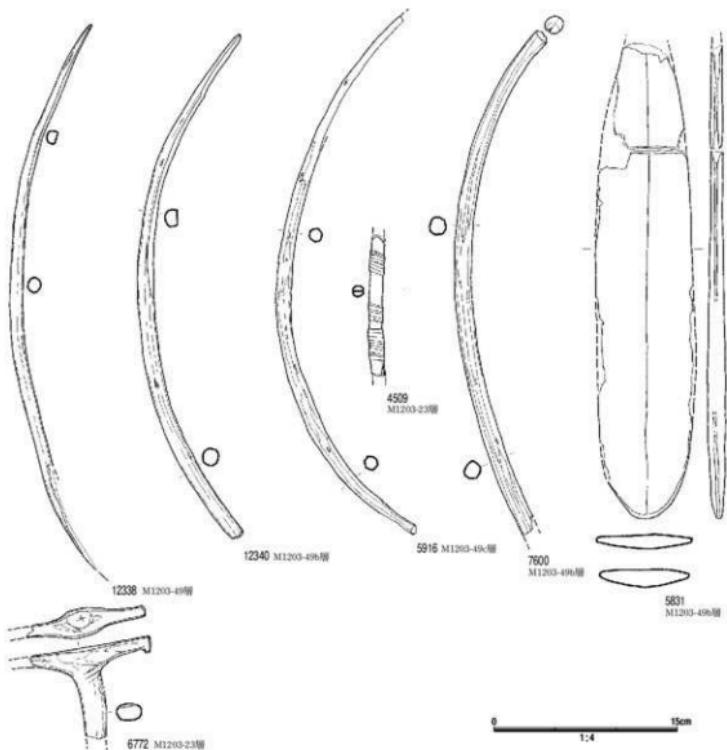


図60 網枠・櫛 (1:4)

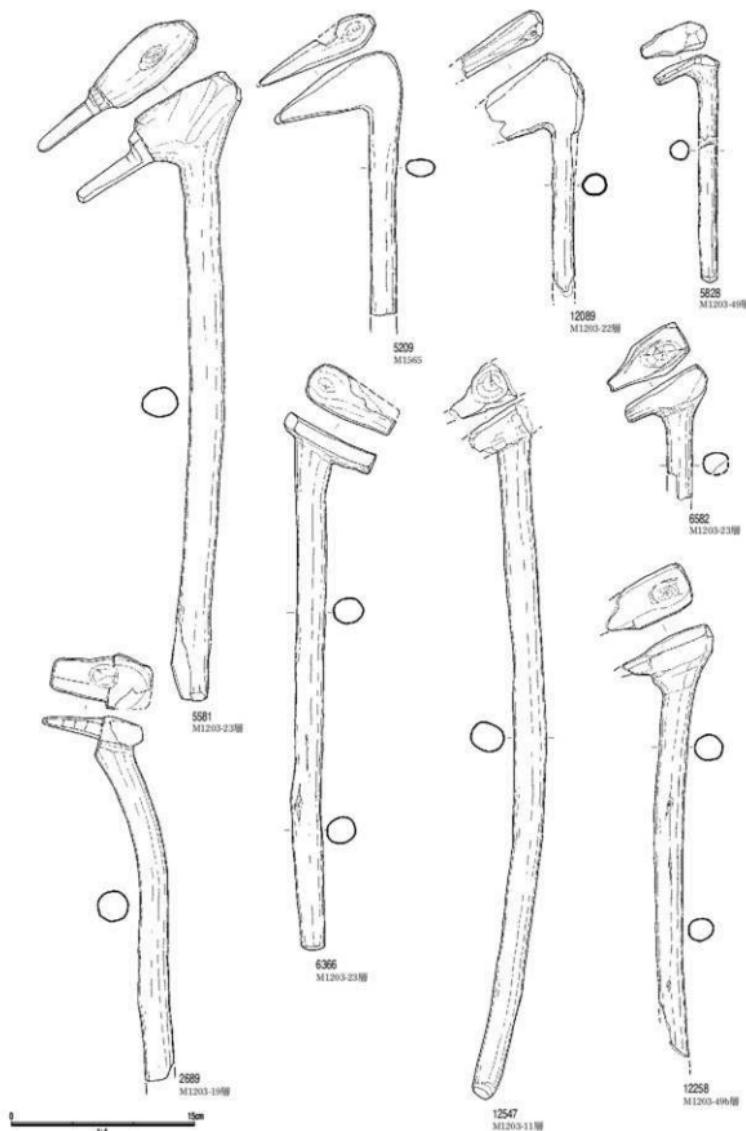


图61 斧柄(1) (1:4)

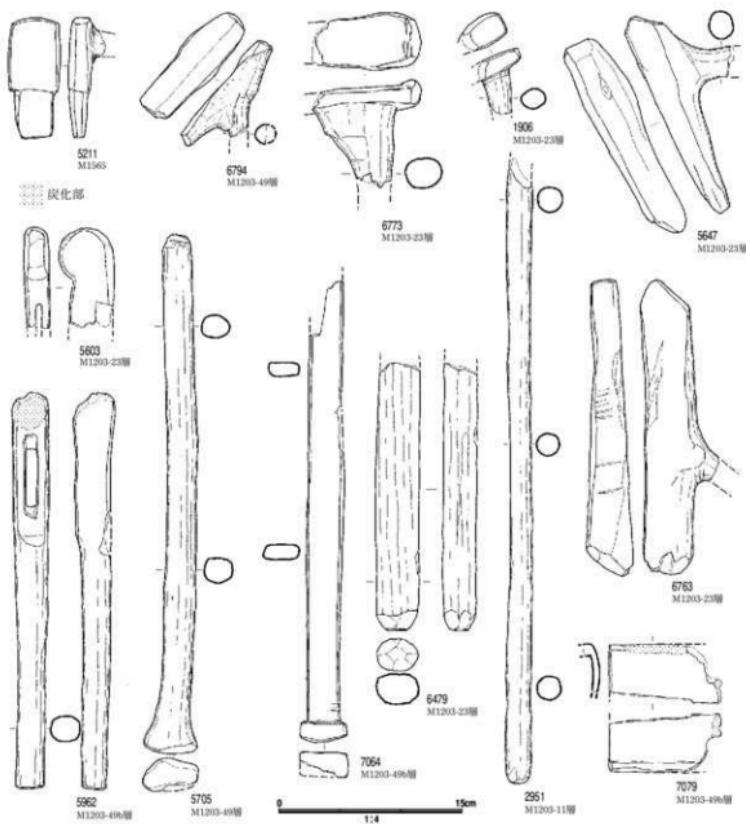


图62 斧柄(2)·鎌柄·柄 (1:4)

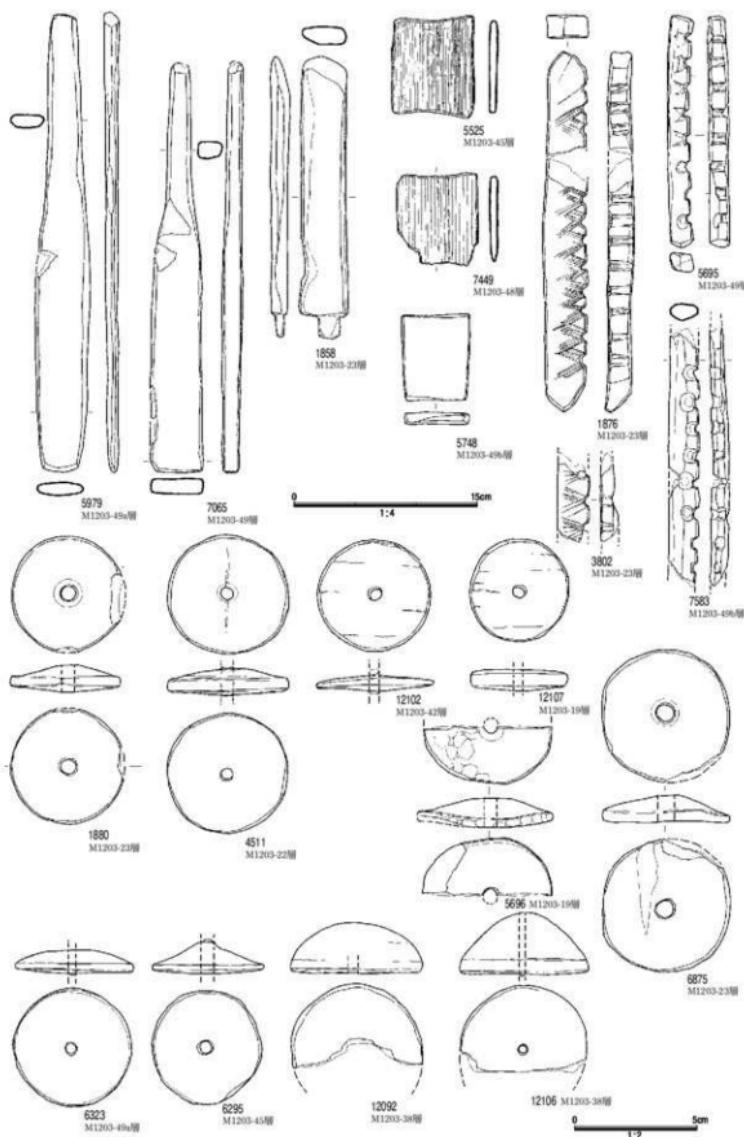


圖63 工具・火鎧臼・紡錘車(1) (1:2,1:4)

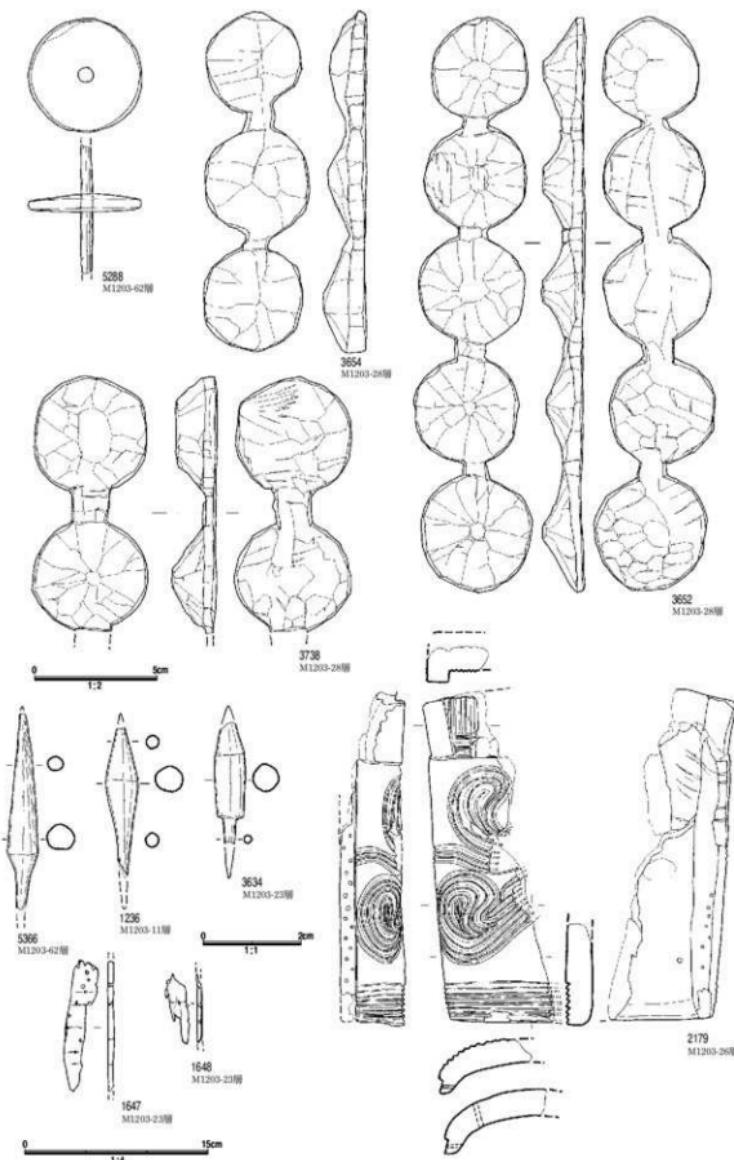


図64 紡錘車(2)・木針・短甲 (1:2-1:4)

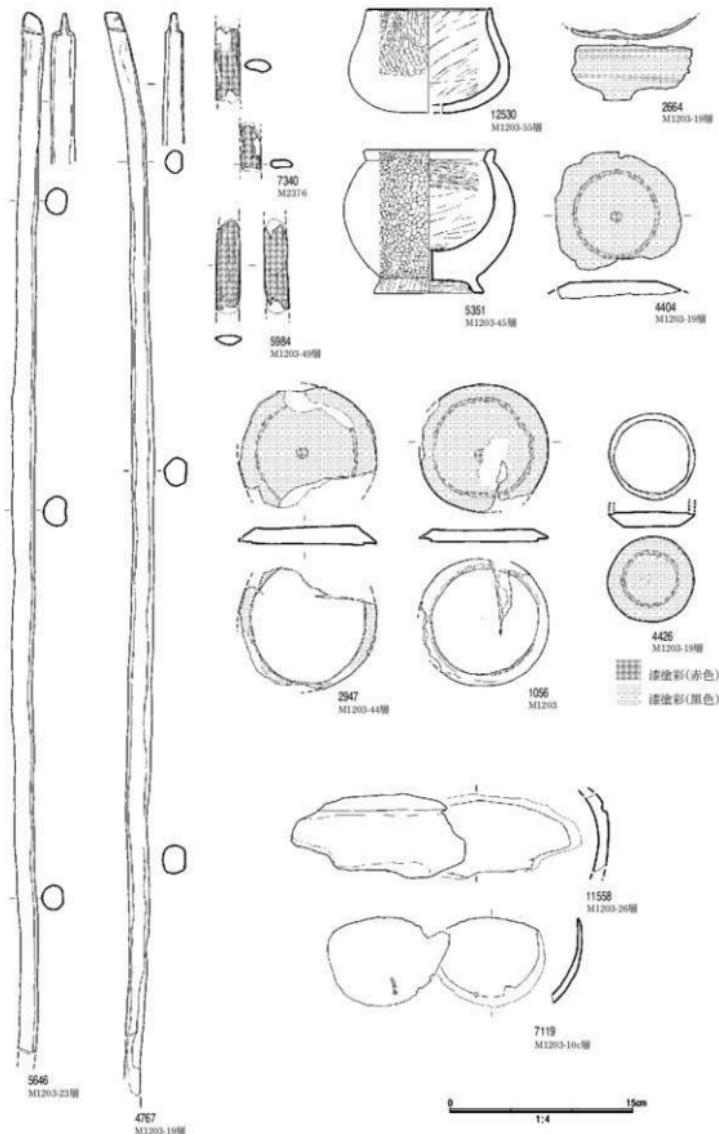


図65 弓・容器 (1) (1:4)

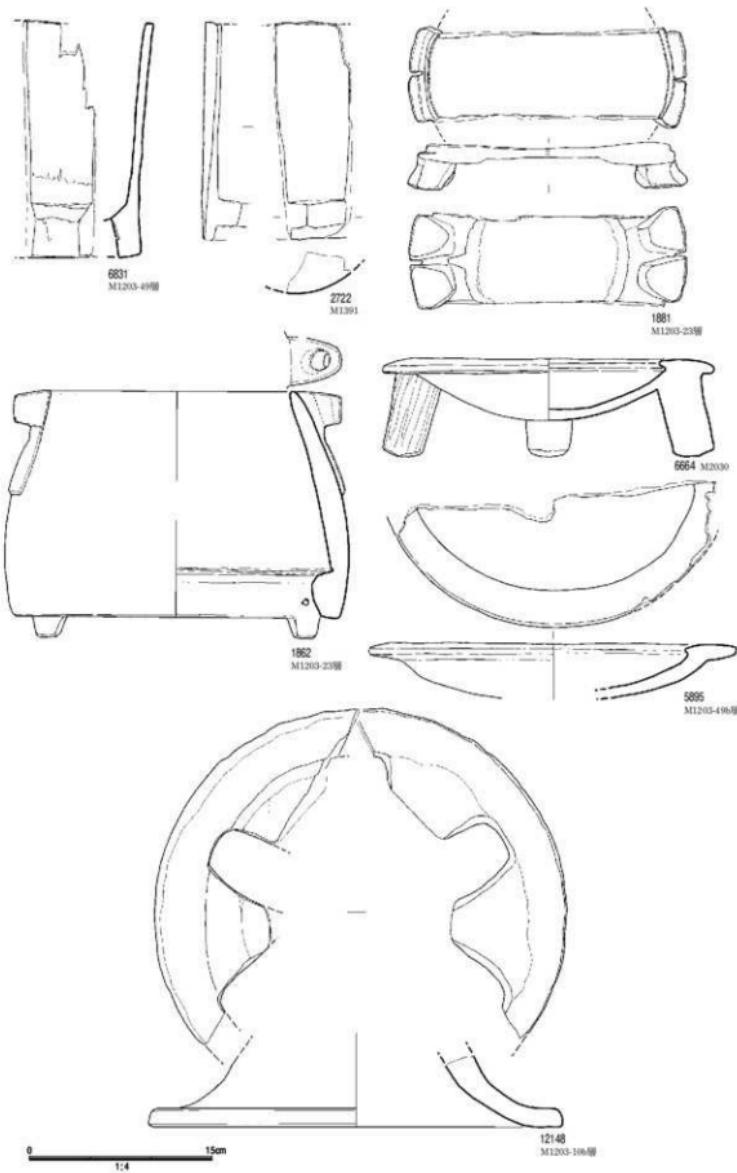


図66 容器(2)(1:4)

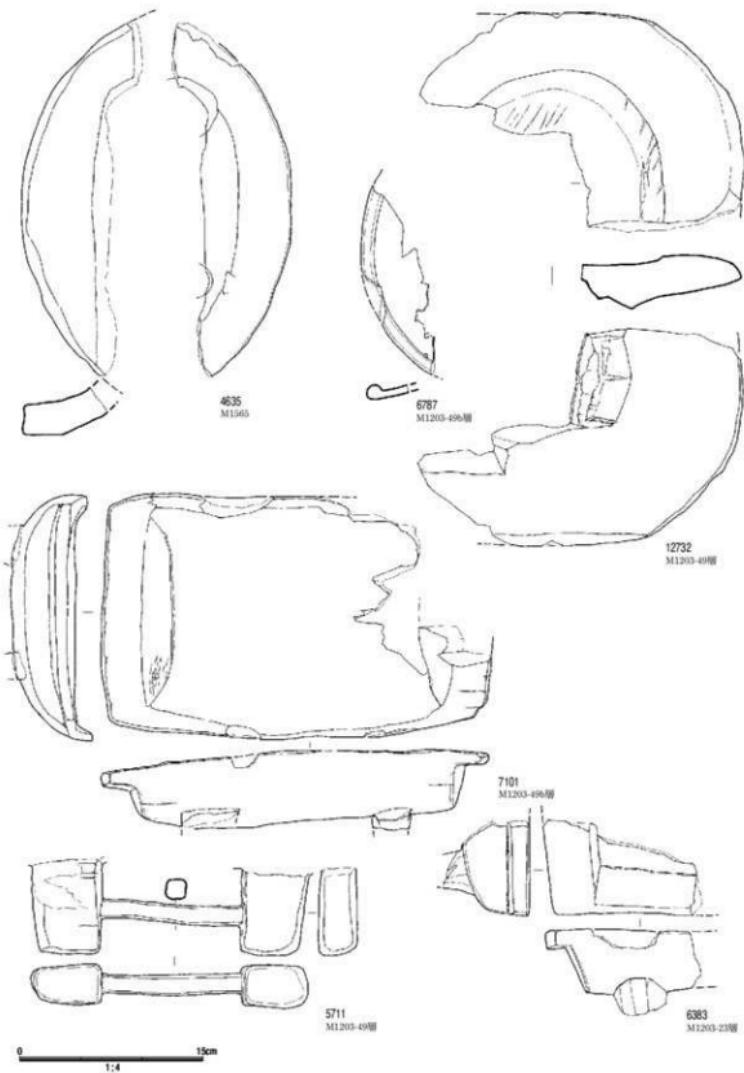


图67 容器(3) (1:4)

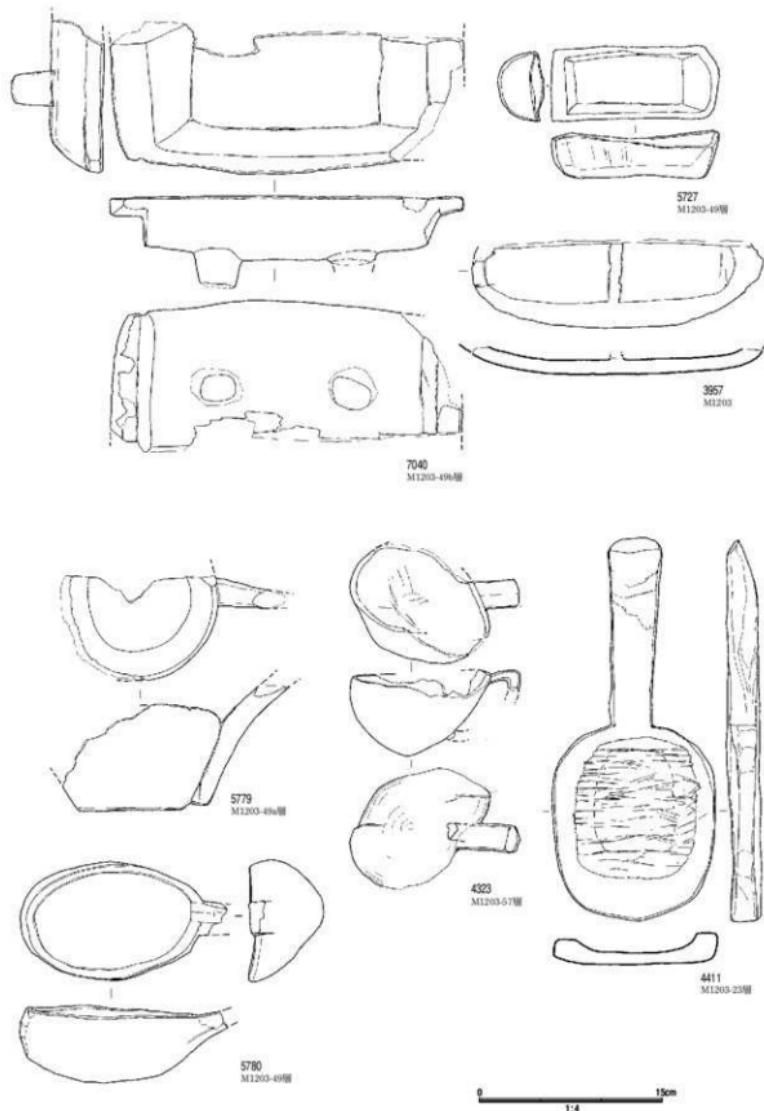


図68 容器(4)・杓子(1:4)

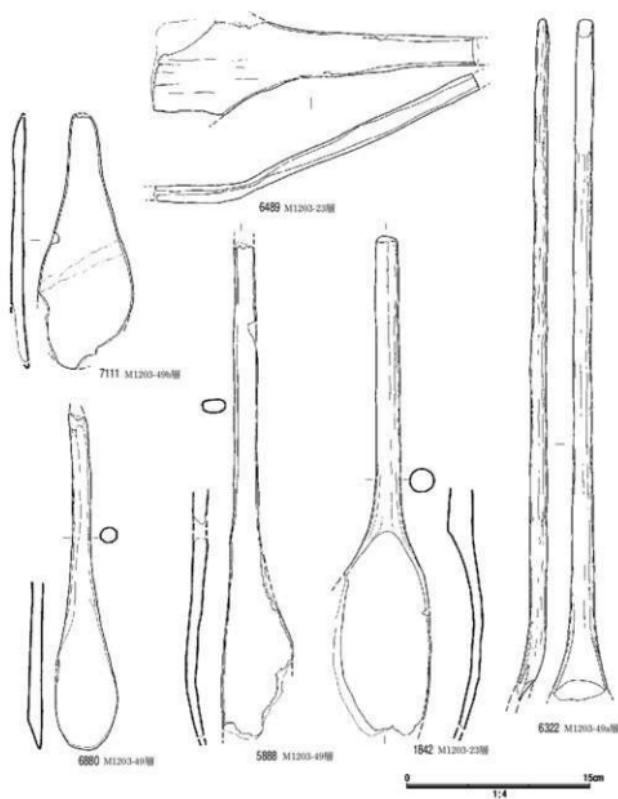


图69 纓文字 (1:4)

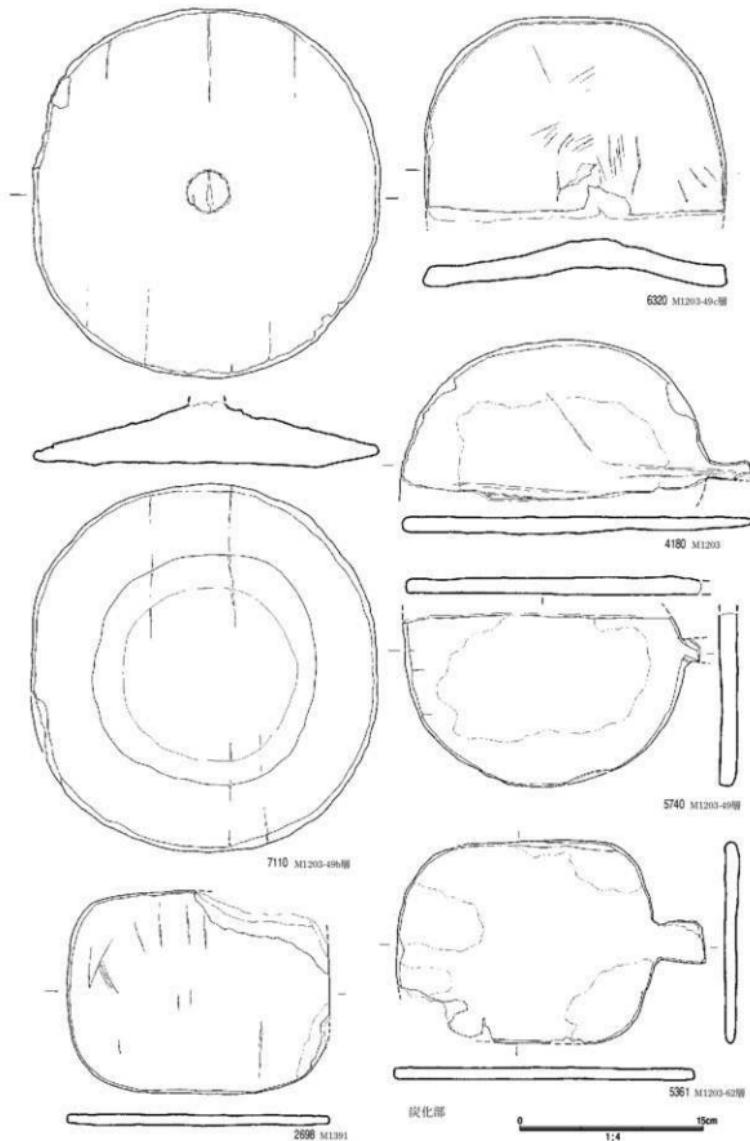


図70 蓋(1) (1:4)

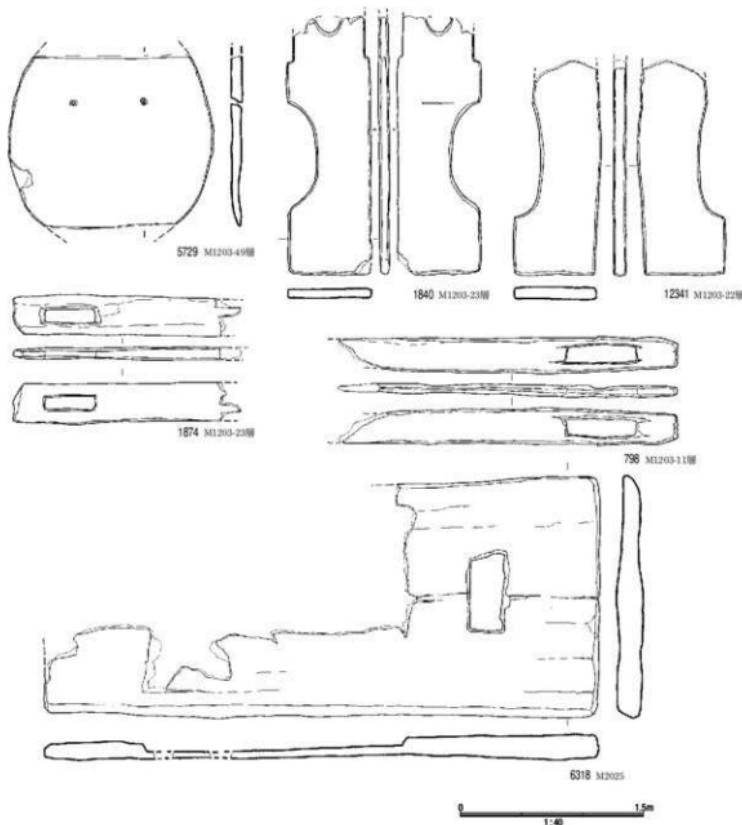


图71 盖(2)·机 (1:4)

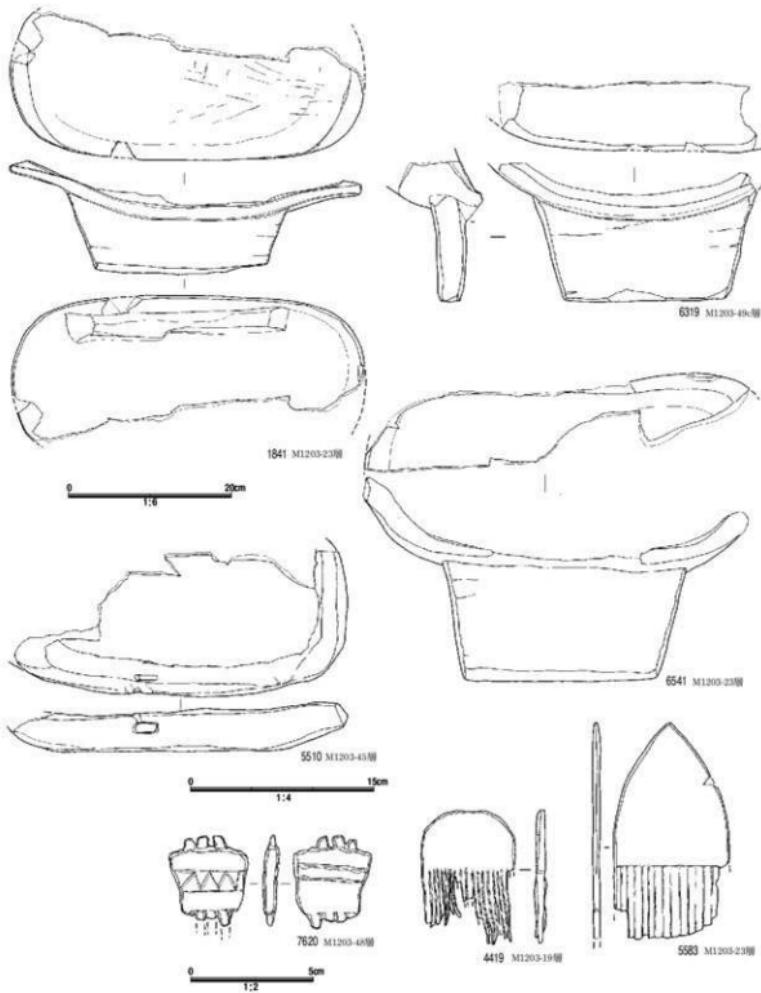


图72 椅子·服飾具 (1:4)

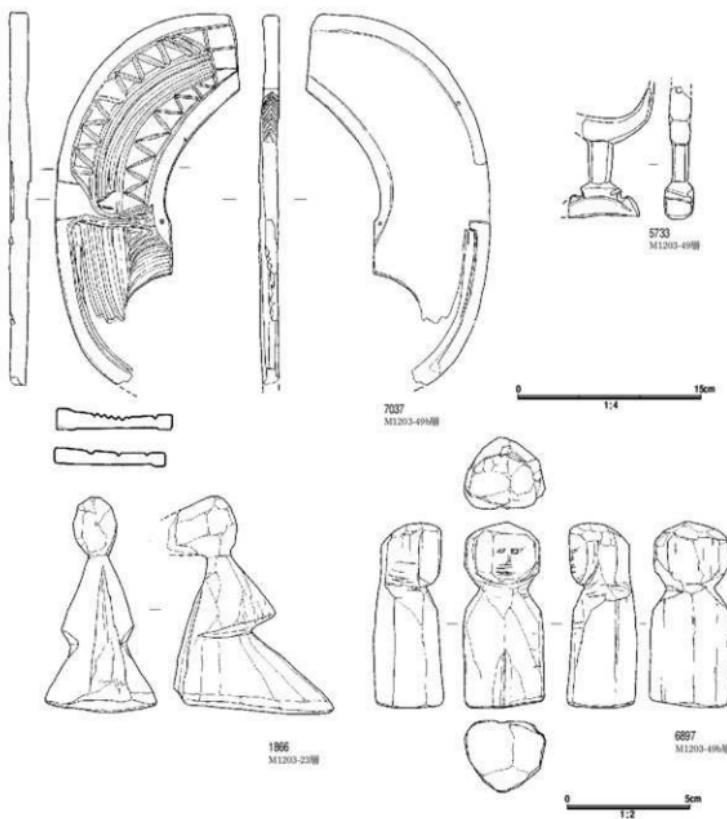


図73 装飾部材・形代 (1:4)

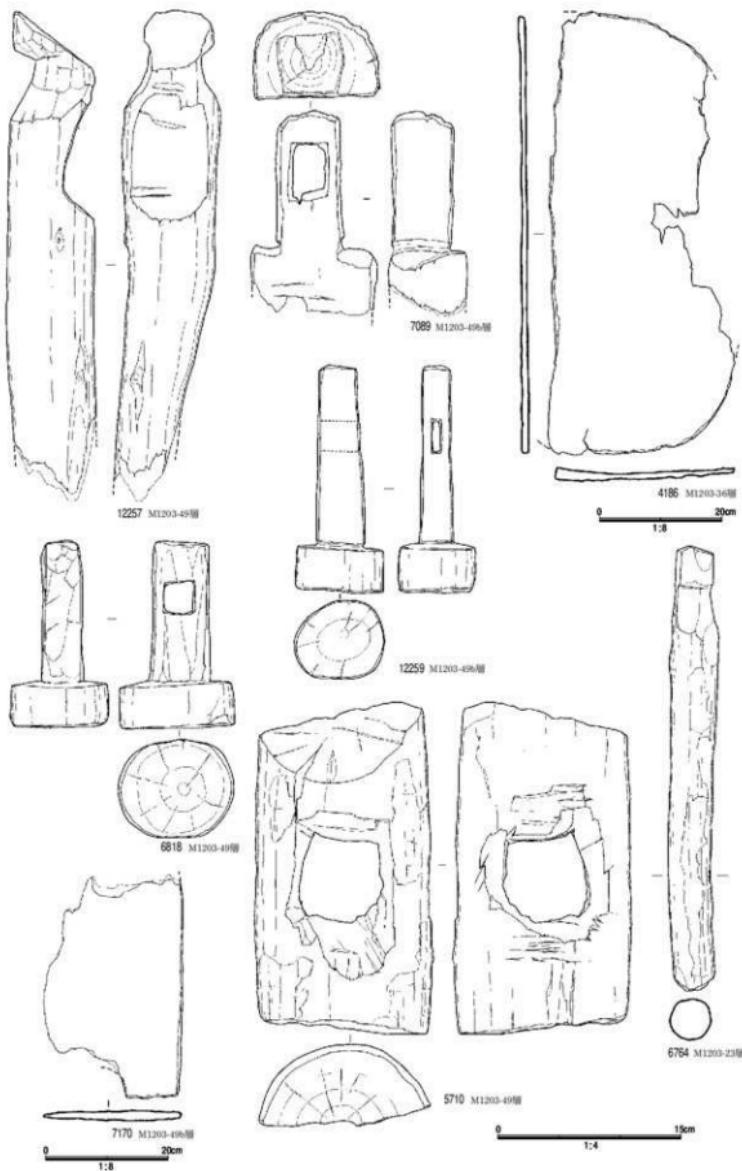


図74 部材・板材 (1:4)

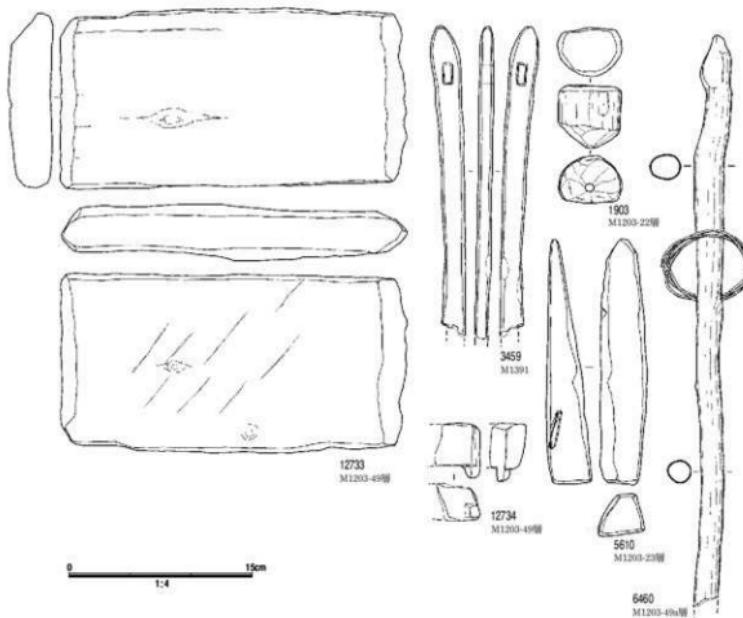


図75 部材・未分類(1:4)

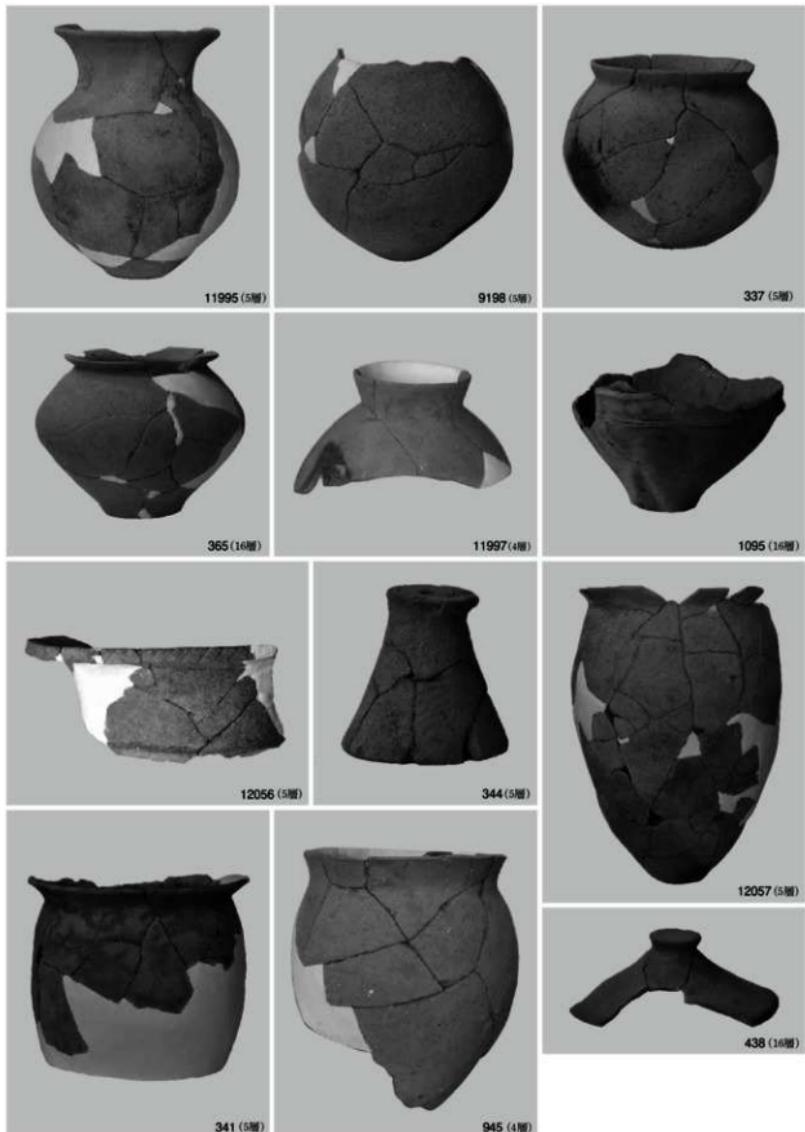


図76 谷1202出土土器

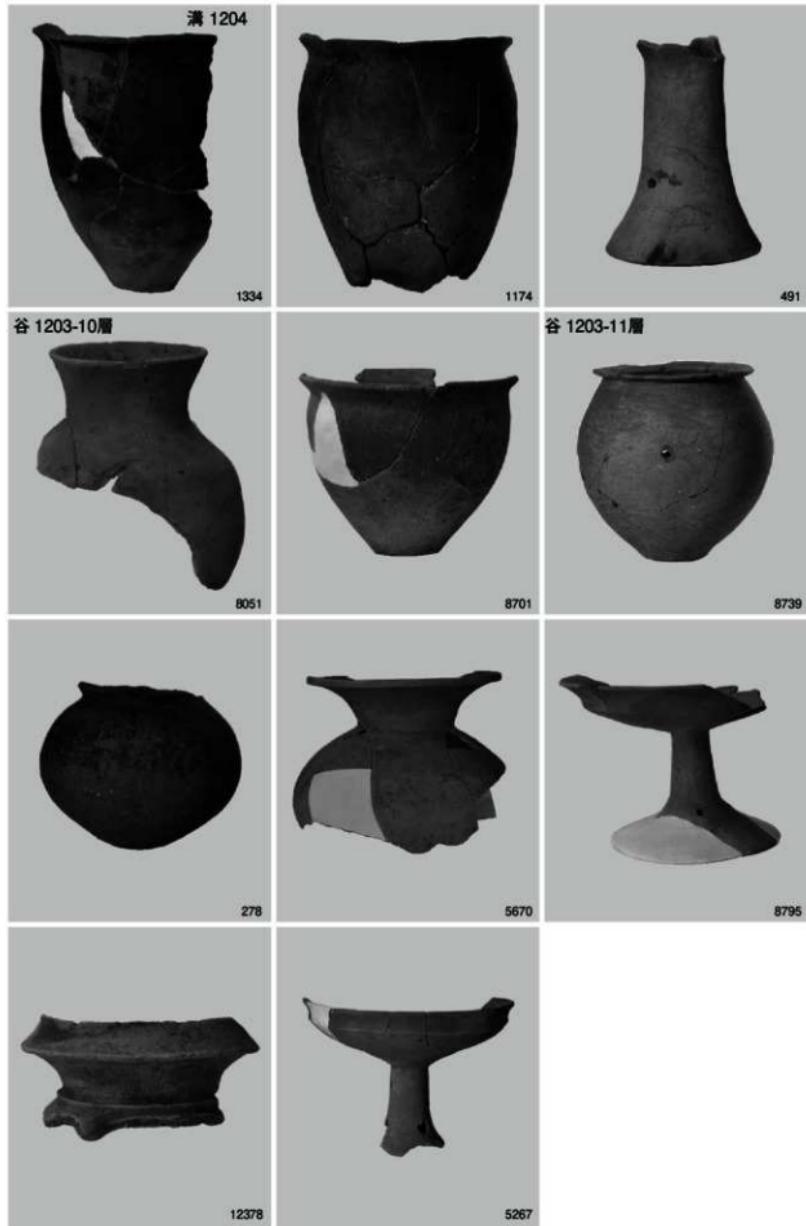


图77 谷1202, 谷1203-10层·11层出土器

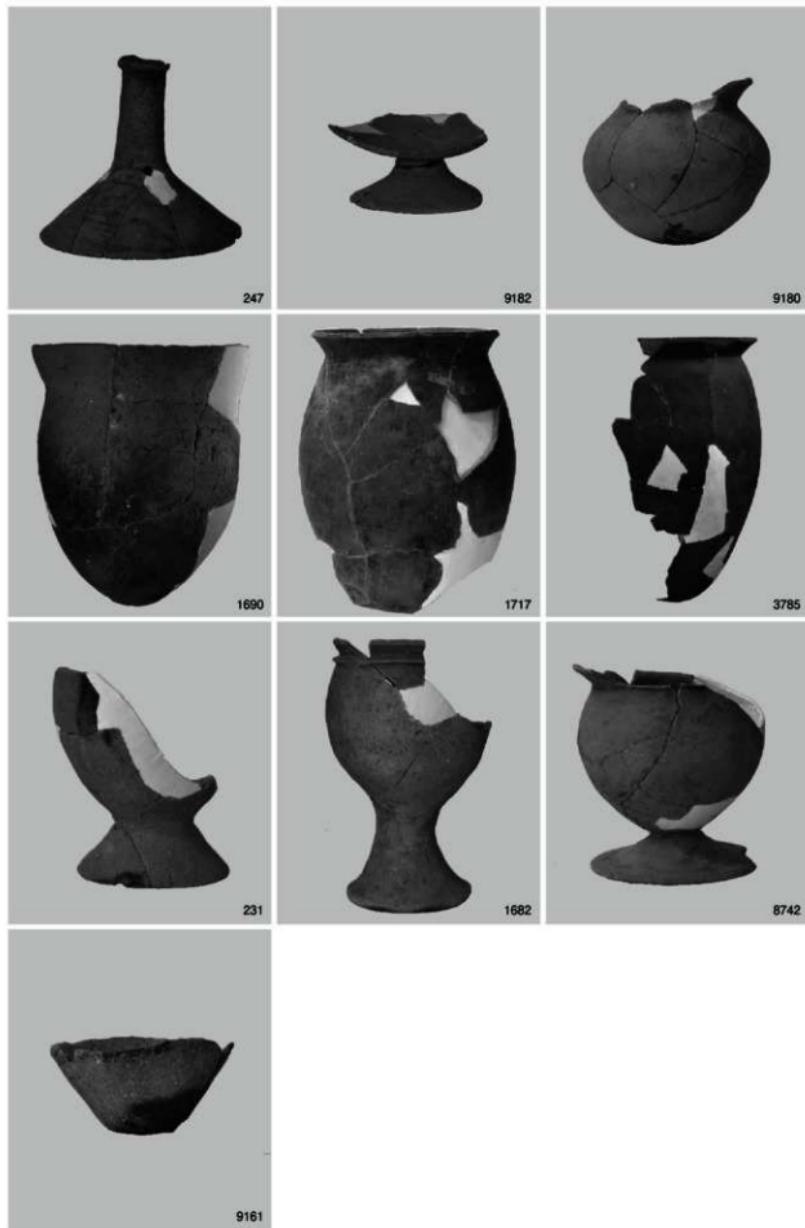


圖78 谷1203-11層出土土器



图79 谷1203 11層・21層・22層・19層・44層・27層出土土器

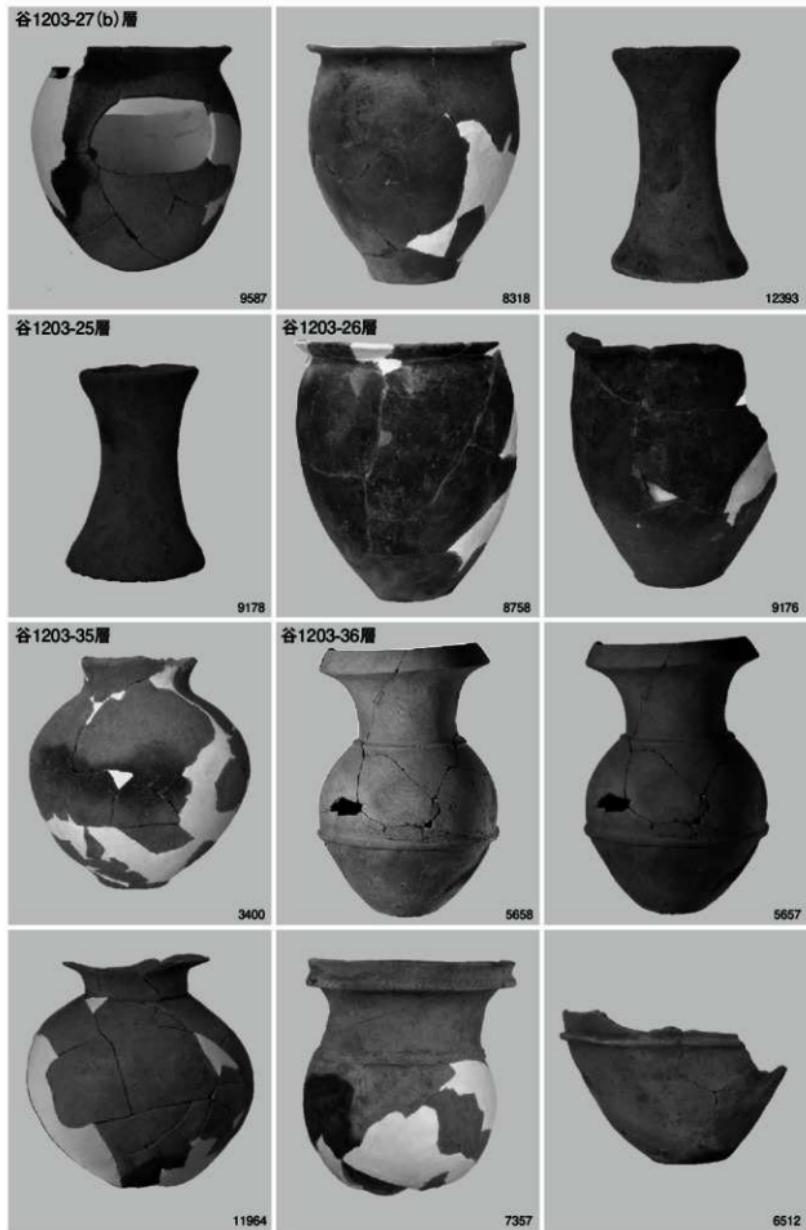


图80 谷1203 27(b)层·25层·26层·35层·36层出土土器

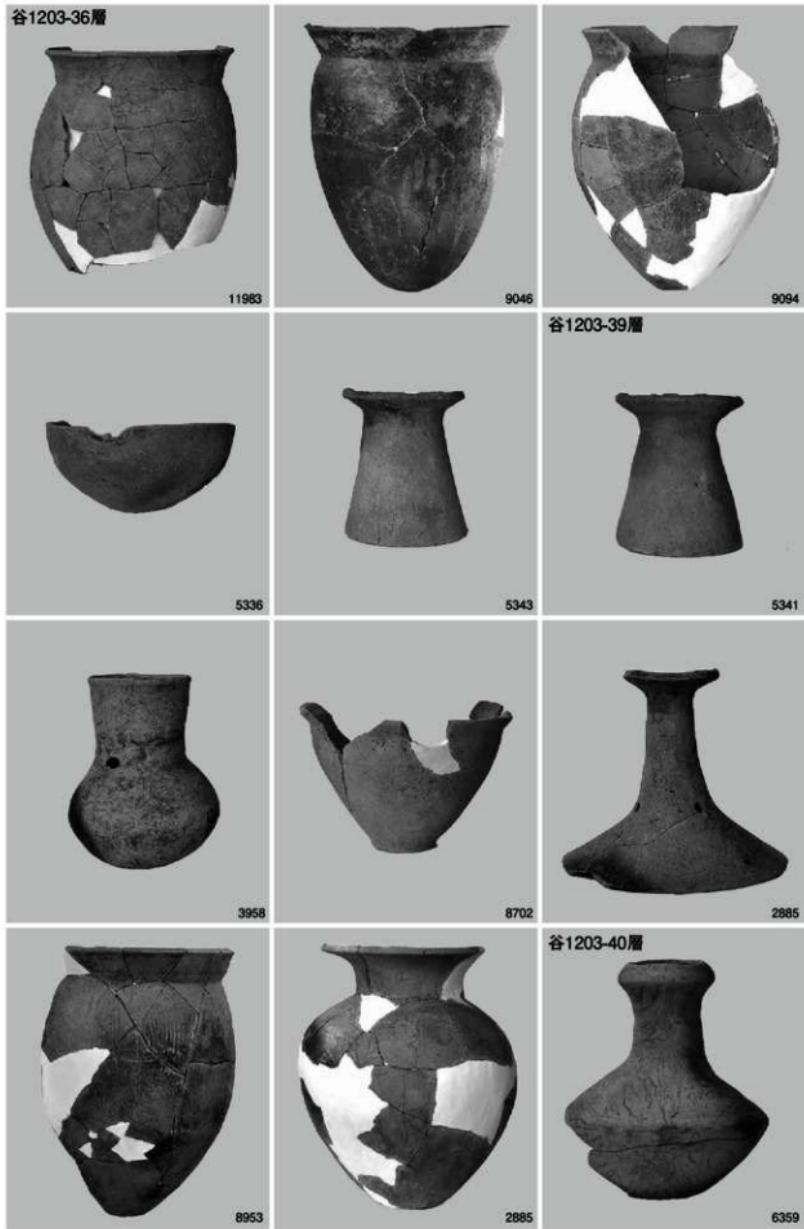


圖81 谷1203 39層・40層出土土器



圖82 谷1203-40層・50層出土土器

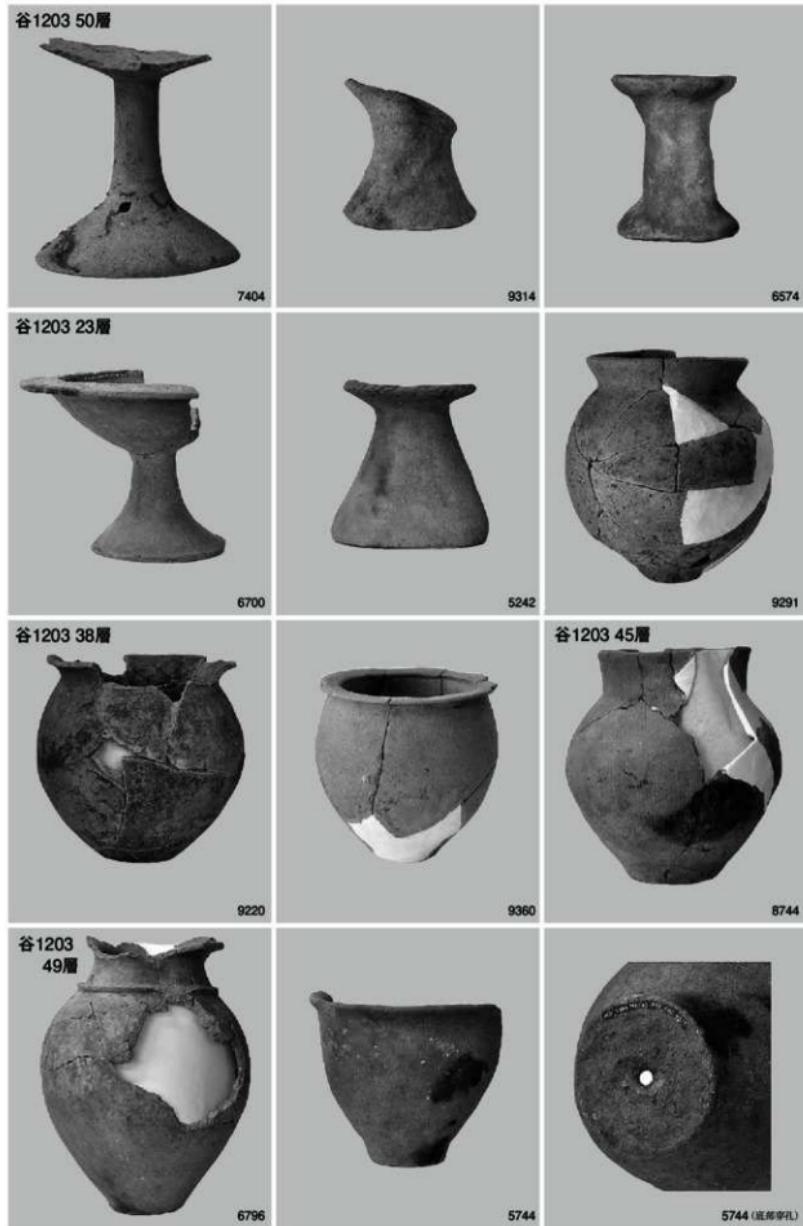


图83 谷1203 50層・23層・38層・45層・49層出土土器



図84 谷1203 49層・57層・42層出土土器

谷1203 42層



9138



5064



8752

谷1203 51層



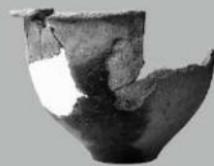
11969



9665



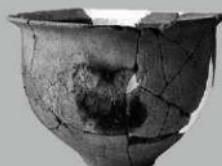
8830



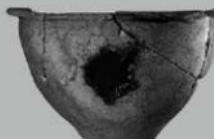
8076



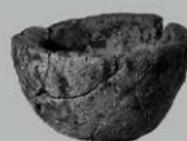
8076 (底面穿孔)



8227



11786



8225



9618

图85 谷1203 42層・51層出土土器

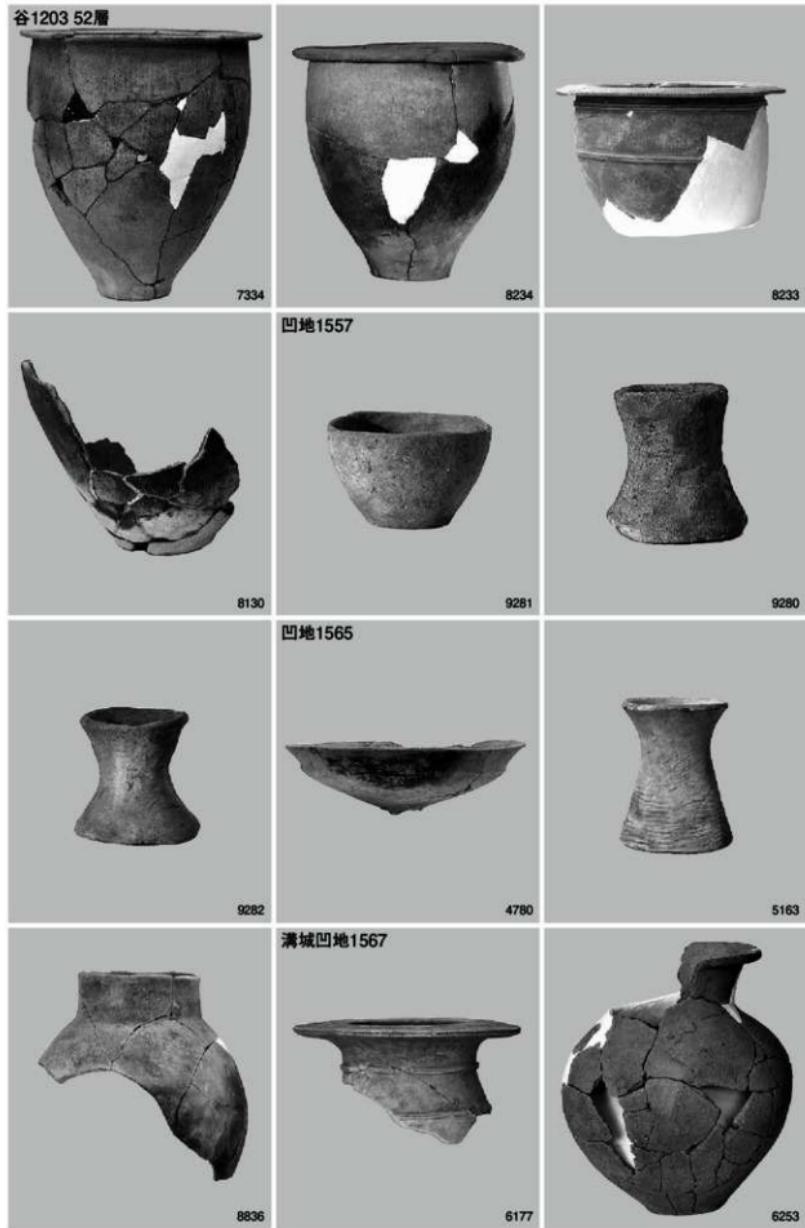


图86 谷1203 52层·凹地1557·凹地1565·溝城凹地1567出土土器



图87 溝状凹地1569出土土器



图88 梁渚系土器

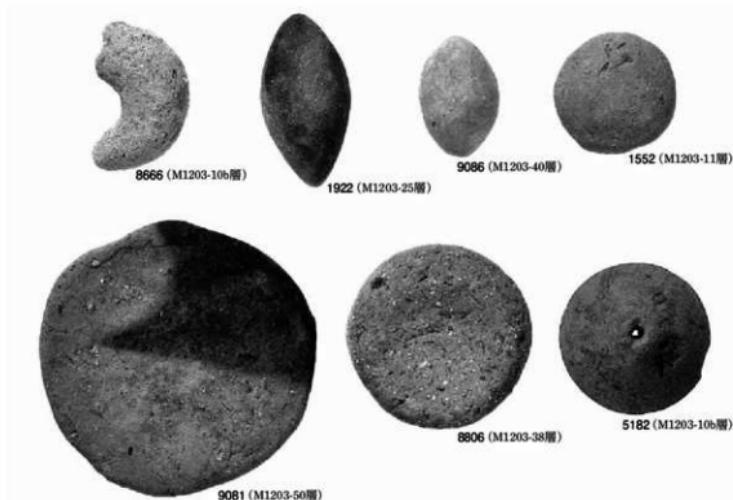


図89 土製品

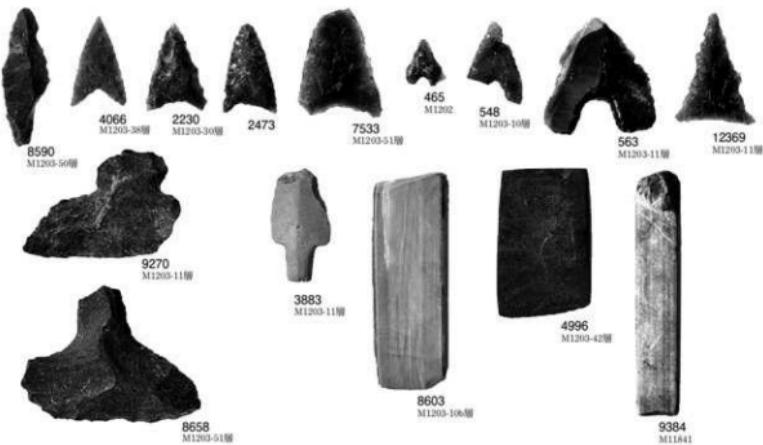


図90 石器(1)

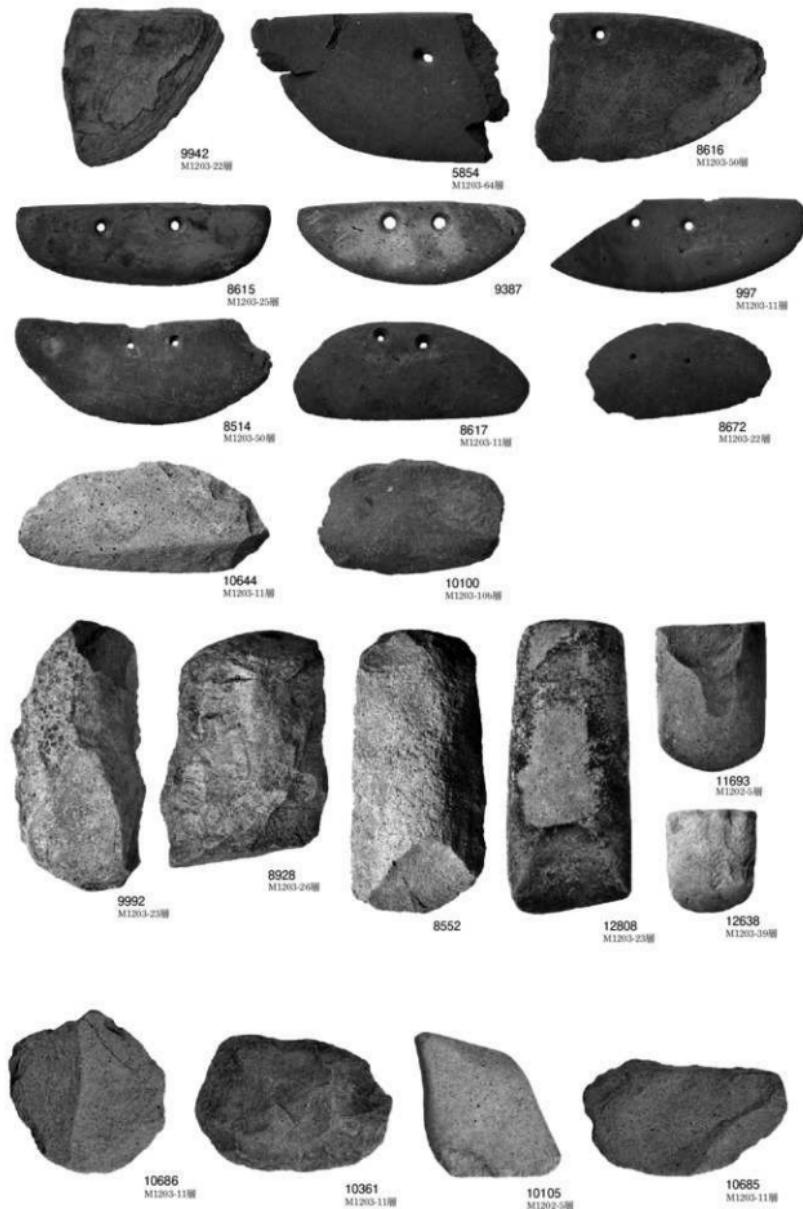


図91 石器(2)

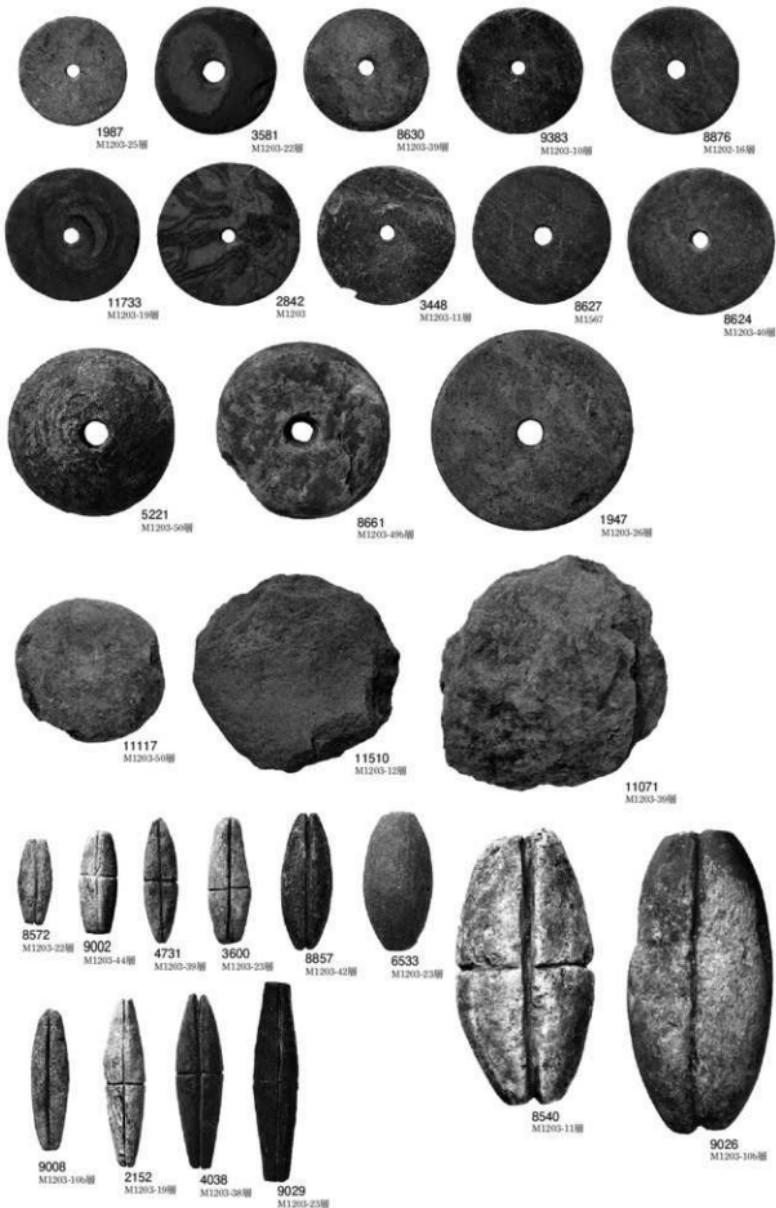


图92 石器(3)

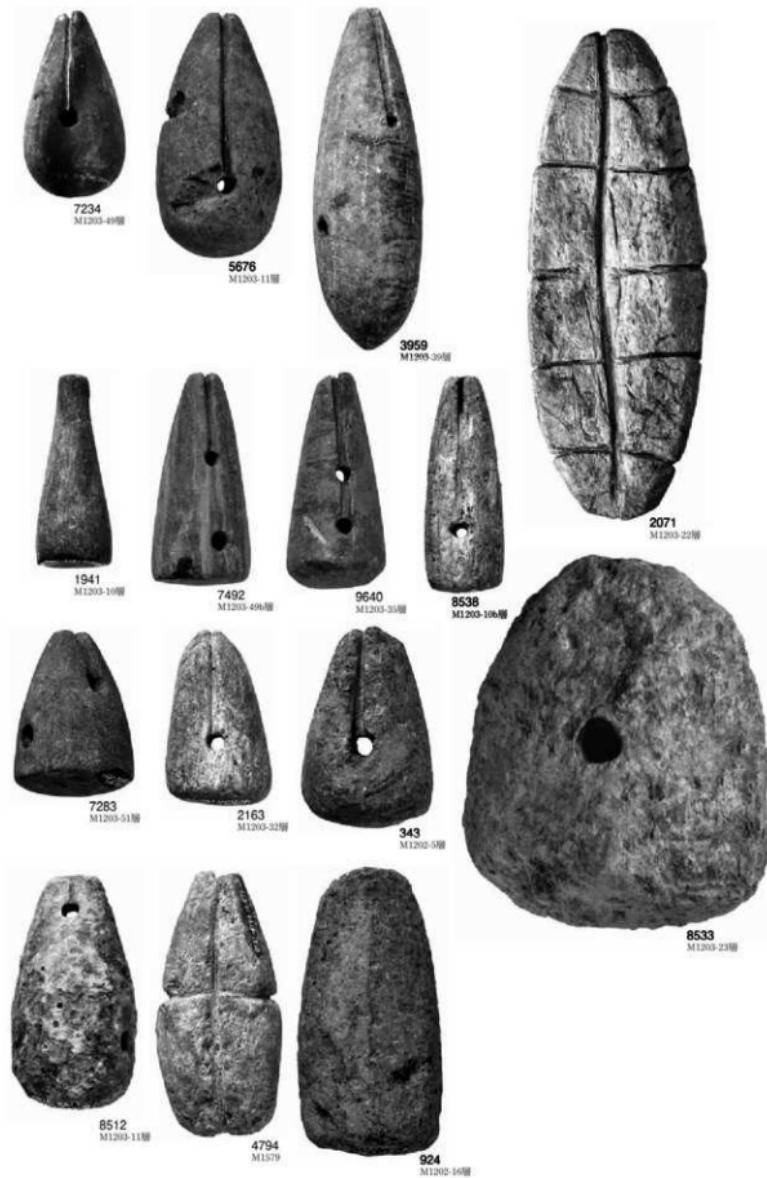


图93 石器(4)

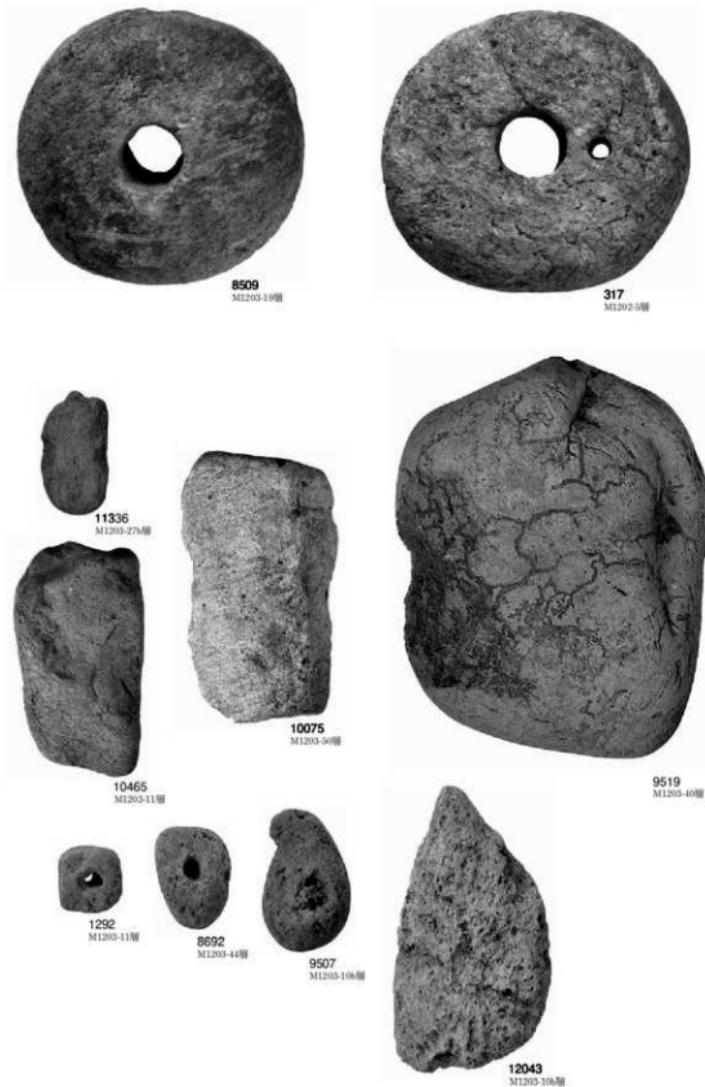


図94 石器(5)

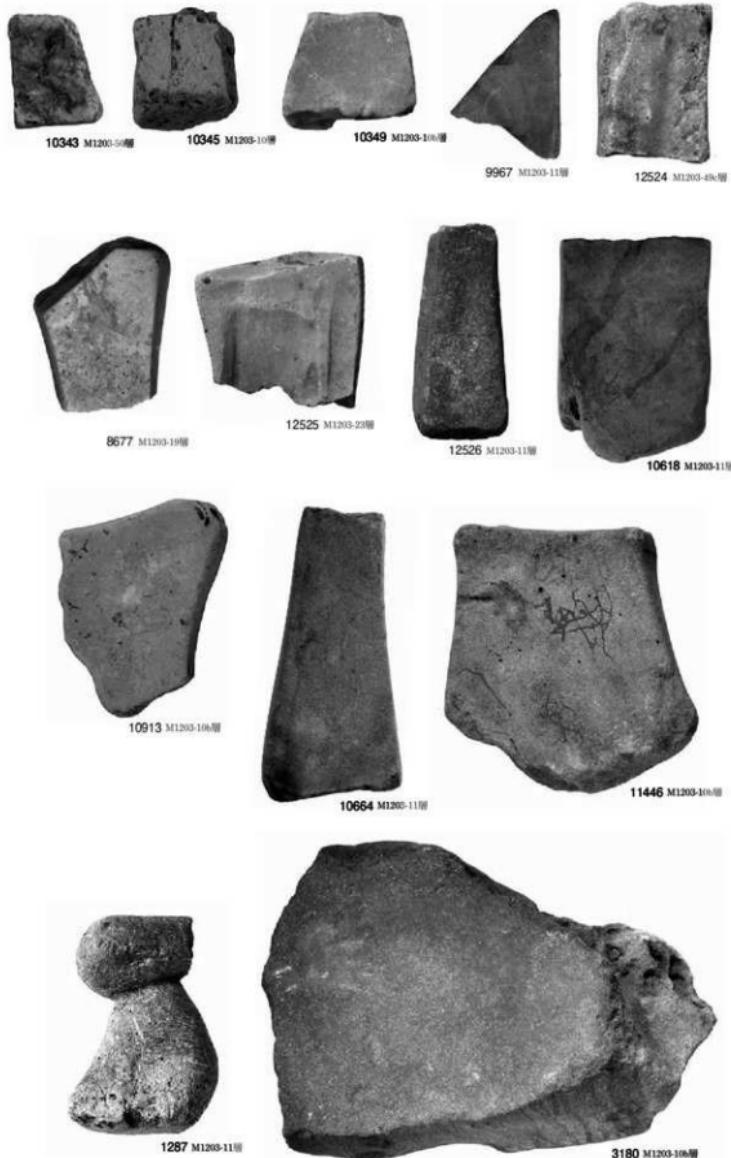


圖95 石器(6)

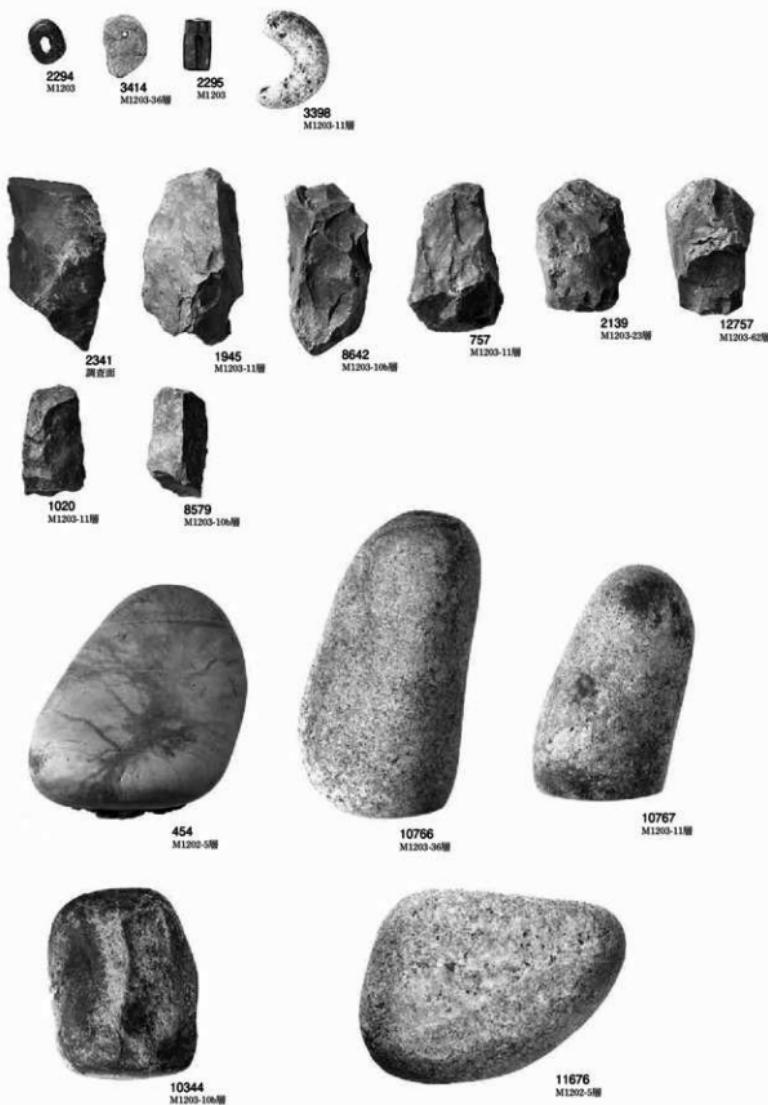


图96 石器(7)

頁	図	遺物番号	遺物	出土位置	頁	図	遺物番号	遺物	出土位置
33	11	932	弥生土器 瓢 (袋状 口縁壺)	流路1202-4層 G47-6344	40	19	8319	弥生土器 瓢	谷1203-44層 G46-9752
33	11	934	弥生土器 器台	流路1202-4層 G47-6344	40	19	8327	弥生土器 瓢	谷1203-40層 G46-9713
33	11	936	弥生土器 舐 (底部 穿孔跡)	流路1202-4層 G47-6344	40	19	8759	弥生土器 高环	谷1203-22層 G46-9644
33	11	938	弥生土器 小形甕	流路1202-4層 G47-6344	40	19	9080	弥生土器 高环	谷1203-10層 G46-9622
33	11	940	弥生土器 甕	流路1202-4層 G47-6354	40	19	9522	弥生土器 舐	谷1203-22層 G46-9822
33	11	941	弥生土器 小形甕	流路1202-4層 G47-6344	40	19	11805	弥生土器 滑合	谷1203-44層 G46-9643
33	11	11997	弥生土器 瓢	流路1202-4層 G47-62	41	20	1864	弥生土器 瓢	谷1203-23層 G46-9833
33	11	12062	弥生土器 瓢	流路1202-4層 G47-6322	41	20	1942	弥生土器 瓢	谷1203-27b層 G46-8023
34	12	339	弥生土器 大形甕	流路1202-5層 G47-6343	41	20	9297	弥生土器 小形手捏 土器 (燒)	谷1203-23層 G46-8052
34	12	346	弥生土器 瓢	流路1202-5層 G47-6333	41	20	9305	弥生土器 瓢	谷1203-23層 G46-9542
34	12	424	弥生土器 大形甕	流路1202-5層 G47-6321	41	20	9306	弥生土器 滑合	谷1203-23層 G46-9752
34	12	452	弥生土器 瓢	流路1202-5層 G47-6333	41	20	9535	弥生土器 瓢 (小形 甕)	谷1203-23層 G46-9631
35	13	315	弥生土器 大形甕	流路1202-5層 G47-6344	41	20	9585	弥生土器 小形甕	谷1203-23層 G46-9535
35	13	334	弥生土器 甕	流路1202-5層 G47-6344	41	20	9604	弥生土器 舐	谷1203-23層 G46-9844
35	13	954	弥生土器 高环	流路1202-15層 G47- 6321	41	20	9606	弥生土器 滑合	谷1203-28層 G46-8052
35	13	955	弥生土器 器台	流路1202-15層 G47- 6321	42	21	1943	弥生土器 手捏ね土 器 (圓)	谷1203-27b層 G46-8023
36	14	1066	弥生土器 瓶台	溝1204-4b層 G46-6240	42	21	5635	弥生土器 手捏ね土 器 (把手柄)	谷1203-23層 G46-9631
36	14	1086	弥生土器 瓶台	溝1204-3層 G47-7210	42	21	12990	弥生土器 大形甕	谷1203-19層 G46-8023
36	14	1163	弥生土器 瓶	溝1204-4層 G47-6253	42	22	5753	弥生土器 舐	谷1203-49a層 G46-9534
36	14	1284	弥生土器 瓶台	溝1204-4層 G47-7213	42	22	7059	弥生土器 瓢	谷1203-49c層 G46-9422
36	14	1332	弥生土器 瓶	溝1204-4b層 G47-6223	42	22	8239	弥生土器 瓢	谷1203-48層 G46-8543
36	14	12014	弥生土器 器台	溝1204-4層 G47-62	42	22	9128	弥生土器 小形手捏 土器 (4本)	谷1203-49b層 G46-8533
36	14	12027	弥生土器 甕 (小形 甕)	溝1204-4層 G47-62	42	22	11845	弥生土器 高环	谷1203-45層 G46-9745
36	14	12031	弥生土器 舐 (小形 甕)	溝1204-4層 G47-62	42	22	11885	弥生土器 舐	谷1203-49b層 G46-7355
36	14	12038	弥生土器 甕	溝1204-3層 G47-7210	43	23	5904	弥生土器 瓶	谷1203-50層 G46-7354
36	15	12986	弥生土器 甕 (複合 甕)	柱穴1720	43	23	6190	弥生土器 高环	谷1203-50層 G46-8423
36	15	12987	弥生土器 甕 (袋状 口縁甕)	柱穴1772	43	23	6567	弥生土器 高环	谷1203-50層 G46-7353
36	15	12988	弥生土器 甕 (袋状 口縁甕)	柱穴1772	43	23	7405	弥生土器 瓢 (複合 甕)	谷1203-50層 G46-8531
36	15	12989	弥生土器 小形手捏 土器	柱穴1768	43	23	8078	弥生土器 瓶	谷1203-51層 G46-8544
37	16	685	弥生土器 甕 (無頭 甕)	溝1203-11層 G46-9241	43	23	8149	弥生土器 瓶	谷1203-23層 G46-9642
37	16	1447	弥生土器 甕 (無頭 甕)	溝1203-11層 G46-8043	43	23	11885	弥生土器 瓶	谷1203-50層 G46-7355
37	16	1723	弥生土器 甕	溝1203-11層 G46-8032	44	24	6289	弥生土器 舐	谷1203-50層 G46-8412
37	16	1725	弥生土器 瓶頭壺	溝1203-11層 G46-8032	44	24	7491	弥生土器 滑跡	谷1203-50層 G46-7351
37	16	2183	弥生土器 甕	溝1203-11層 G46-8033	44	24	8827	弥生土器 瓶 (底付 甕)	谷1203-25層 G46-9811
37	16	2255	弥生土器 甕	溝1203-11層 G46-9634	44	24	8833	弥生土器 瓶	谷1203-25層 G46-9811
37	16	6415	弥生土器 甕	溝1203-11層 G46-9721	44	24	8993	弥生土器 瓶	流路1202-5層 G47-6344
37	16	1706	弥生土器 甕	溝1203-11層 G46-8045	44	24	9486	須恵器 瓶	谷1203-35層 G46-8413
37	16	1801	弥生土器 甕	溝1203-11層 G46-8034	44	24	9563	弥生土器 舐	谷1203-50層 G46-7353
37	16	3184	弥生土器 甕	溝1203-11層 G46-9631	44	24	9567	弥生土器 支脚	谷1203-35層 G46-8544
37	16	3185	弥生土器 甕	溝1203-11層 G46-9631	44	24	9603	弥生土器 器台	谷1203-35層 G46-8412
37	16	3186	弥生土器 甕	溝1203-11層 G46-9634	44	24	12058	弥生土器 瓶	谷1203-35層 G46-8543
37	16	3187	弥生土器 甕	溝1203-11層 G46-9634	44	24	12059	弥生土器 瓶	谷1203-35層 G46-8543
37	16	3188	弥生土器 甕	溝1203-11層 G46-9634	44	24	12060	弥生土器 舐 (丸底)	谷1203-35層 G46-8543
37	16	3189	弥生土器 甕	溝1203-11層 G46-9634	45	25	4283	弥生土器 高环	谷1203-48層 G46-9722
37	16	3190	弥生土器 甕	溝1203-11層 G46-9634	45	25	5658	弥生土器 瓶	谷1203-36層 G46-7353
37	16	3191	弥生土器 甕	溝1203-11層 G46-9634	45	25	5681	弥生土器 瓶 (無頭 甕)	谷1203-36層 G46-7354
37	16	3192	弥生土器 甕	溝1203-11層 G46-9631	45	25	5689	弥生土器 瓶	谷1203-36層 G46-7353
37	16	3193	弥生土器 甕	溝1203-11層 G46-9631	45	25	8797	弥生土器 支脚	谷1203-36層 G46-7341
37	16	3194	弥生土器 甕	溝1203-11層 G46-0812	45	25	11961	弥生土器 高环	谷1203-36層 G46-8314
37	16	3195	弥生土器 支脚 (香 甕支脚)	溝1203-11層 G46-9151	45	25	11964	弥生土器 瓶 (口縁 甕)	谷1203-36層 G46-8421
39	18	296	弥生土器 舐 (平底 甕)	溝1203-11層 G47-9214	46	26	4584	弥生土器 瓶 (無頭 甕)	土器投棄1569-39層 G46-9614
39	18	1257	弥生土器 支脚 (香 甕支脚)	溝1203-11層 G46-0924	46	26	4681	弥生土器 瓶 (小形 甕)	土器投棄1569-46層 G46-9652
39	18	1466	弥生土器 支脚 (香 甕支脚)	溝1203-11層 G46-8032	46	26	4687	弥生土器 瓶	土器投棄1569-46層 G46-9612
39	18	1695	弥生土器 器台	溝1203-11層 G46-8034	46	26	4688	弥生土器 舐	土器投棄1569-46層 G46-9612
39	18	1749	弥生土器 支脚 (香 甕支脚)	溝1203-11層 G46-9945	46	26	6681	弥生土器 高环	谷1203-39層 G46-9611
39	18	5081	弥生土器 器台	溝1203-11層 G46-9721	46	26	8213	弥生土器 瓶 (小形 甕)	谷1203-39層 G46-9611
39	18	5082	弥生土器 器台	溝1203-11層 G46-9721	46	26	8242	弥生土器 滑合	谷1203-36層 G46-8354
39	18	8743	弥生土器 大形甕	溝1203-11層 G47-9252	46	26	8246	弥生土器 舐	谷1203-39層 G46-8545
39	18	9160	弥生土器 深颈甕	溝1203-11層 G47-0212	46	26	11877	弥生土器 滑合	谷1203-36層 G46-7353
39	18	9557	弥生土器 支脚	溝1203-22層 G46-9842	46	26	12013	弥生土器 舐 (丸底 甕)	谷1203-36層 G46-8422
40	19	4521	弥生土器 高环	回地1565-19層 G46- 9821	46	26	12048	弥生土器 支脚	谷1203-36層 G46-8411
40	19	4564	弥生土器 瓶	回地1565-19層 G46- 9723	47	27	4845	弥生土器 瓶	土器投棄1510-41層 G46-8752
40	19	4819	弥生土器 舐	回地1565-19層 G46- 9732					

表7 掘載遺物一覧(1)

頁	圖	遺物番号	遺物	出土位置	頁	圖	遺物番号	遺物	出土位置
47	27	4847	赤生土器 器台	土器投棄1570-41層 G46-8752	55	36	8665	美浪系土器 鋼	谷1203-10b層 G46-9831
47	27	5167	赤生土器 器台	土器投棄1570 G46-8751	55	36	8994	美浪系土器 鋼	明堆1565 G46-9733
47	27	5169	赤生土器 壺	土器投棄1570 G46-8751	55	36	9051	美浪系土器 鋼	谷1203-10層 G46-0011
47	27	8274	赤生土器 台付壺	谷1203-40層 G46-9715	55	36	9203	美浪系土器 鋼	谷1203-23層 G46-9843
47	27	11985	(窓付)	赤生土器 台付壺	55	36	9203	美浪系土器 鋼	谷1203-11層 G47-9153
47	27	11986	赤生土器 壺	土器投棄1570-40層 G46-7441	55	36	9433	美浪系土器 鋼	谷1203-34層 G46-0923
48	28	3367	赤生土器 壺	谷1203-27層 G46-8024	55	36	9434	美浪系土器 鋼	谷1203-11層 G46-9824
48	28	7386	赤生土器 壺 (袋狀口縫)	谷1203-42層 G46-8644	55	36	9440	美浪系土器 鋼	谷1203-11層 G46-8542
48	28	9358	赤生土器 台付壺 (窓付)	谷1203-27層 G46-8024	55	36	9442	美浪系土器 大型鋤	谷1203-11層 G46-9051
48	28	9576	赤生土器 支脚	谷1203-27a層 G46-8014	55	36	12982	美浪系土器 鋼	谷1203-48層 G46-8551
48	28	11820	赤生土器 壺	谷1203-42層 G46-8645	55	36	12984	美浪系土器 鋼	谷1203-11層 G47-9214
48	28	12380	赤生土器 壺	谷1203-27a層 G46-8013	55	37	7116	三韓系瓦質土器 鋼	谷1203-10層 G46-9924
49	29	5061	赤生土器 壺	谷1203-42層 G46-8645	55	37	3485	三韓系瓦質土器 壺	谷1203-40層 G46-7355
49	29	7372	赤生土器 磨坏	谷1203-42層 G46-8751	55	37	6579	三韓系瓦質土器 壺	谷1203-50層 G46-7354
49	29	7385	赤生土器 磨坏	谷1203-42層 G46-8644	55	37	7261	三韓系土器 壺	谷1203-36層 G46-7352
49	29	8106	赤生土器 壺	谷1203-42層 G46-8751	55	37	8501	三韓系瓦質土器 壺	谷1203-48層 G46-8313
49	29	8116	赤生土器 壺	谷1203-42層 G46-8644	56	37	8500	三韓系瓦質土器 壺	溝狀凹槽1567-47層 G46-8323
49	29	8137	赤生土器 壺	谷1203-42層 G46-8751	56	37	8665	三韓系瓦質土器 壺	谷1203-36層 G46-8411
49	29	8138	赤生土器 壺	谷1203-42層 G46-8645	56	37	8789	三韓系瓦質土器 壺	谷1203-10b層 G46-9534
49	29	11919	赤生土器 壺 (袋狀口縫)	谷1203-42層 G46-8644	56	37	9056	陶質土器 鋼	谷1203-10b層 G46-9851
50	30	7298	赤生土器 壺	谷1203-51層 G46-8322	56	37	9057	三韓系瓦質土器 壺	谷1203-11層 G46-9743
50	30	7312	赤生土器 壺	谷1203-51層 G46-7331	56	37	9062	三韓系瓦質土器 壺	谷1203-49a層 G46-9312
50	30	7313	赤生土器 壺	谷1203-51層 G46-7331	56	37	9581	三韓系瓦質土器 壺	谷1203-35層 G46-8412
50	30	7513	赤生土器 壺	谷1203-51層 G46-8533	56	37	9586	三韓系瓦質土器 壺	谷1203-10b層 G46-9235
50	30	8079	赤生土器 茅	谷1203-51層 G46-8544	57	38	1382	外米系赤生土器 壺 (山陰小) 壺	谷1203 G46-8023
50	30	8200	赤生土器 壺	谷1203-51層 G46-8414	57	38	2661	外米系赤生土器 (近畿西部系) 器	谷1203-36層 G46-8542
50	30	11878	赤生土器 壺 (小形袋狀口縫)	谷1203-52b層 G46-8413	57	38	4049	外米系赤生土器 (山陰系) 壺	谷1203-36層 G46-8435
29	31	5812	赤生土器 壺	谷1203-52層 G46-8425	57	38	8788	外米系赤生土器 (山陰系) 壺	谷1203-48層 G46-8551
29	31	7335	赤生土器 壺 (広口型)	谷1203-52層 G46-8414	57	38	8812	外米系赤生土器 (山陰系) 小型壺	谷1203-38層 G46-7352
29	31	8199	赤生土器 壺	谷1203-52層 G46-8414	57	38	9054	外米系赤生土器 (西部瀬戸内系) 壺	谷1203-49a層 G46-8433
29	31	9605	赤生土器 磨坏	谷1203-52層 G46-8941	57	38	9078	外米系赤生土器 (西部瀬戸内系) 壺	谷1203-36層 G46-8422
29	31	11828	赤生土器 支脚	谷1203-52b層 G46-8415	57	38	9089	外米系赤土器 壺 (山陰系)	谷1203-36層 G46-8423
30	32	7454	赤生土器 壺 (袋狀口縫頭彎)	谷1203-53層 G46-9533	57	38	9091	外米系赤生土器 (近畿系河内小) 壺	谷1203-49層 G46-7351
30	32	7528	赤生土器 壺	谷1203-67層 G46-9633	57	38	9164	外米系赤生土器 (山陰系) 器	谷1203-11層 G46-9014
30	32	8112	赤生土器 壺	谷1203-53層 G46-9523	57	38	9278	外米系赤生土器 (山陰系) 扁形杯	谷1203-36層 G46-8553
30	32	8228	赤生土器 壺	谷1203-52層 G46-8414	57	38	9528	外米系赤生土器 (山陰系) 壺	谷1203-10b層 G46-9822
30	32	11984	赤生土器 壺	谷1203-52層 G46-8414	57	38	11782	外米系赤生土器 (瀬戸内系) 壺	谷1203-49a層 G46-8445
53	33	4762	赤生土器 壺 (小形袋狀口縫)	講状凹面1561 G46-0713	57	38	11862	外米系赤生土器 (山陰系) 鼓形器	谷1203-11層 G46-9032
53	33	6166	赤生土器 壺	講状凹面1567 G46-8322	57	38	11867	外米系赤生土器 (山陰系) 鼓形器	谷1203-11層 G46-9032
53	33	6179	赤生土器 壺 (壺幅)	講状凹面1567 G46-8334	57	38	11926	外米系赤生土器 (瀬戸内系) 壺	谷1203-23層 G46-9612
53	33	8683	赤生土器 窓付土器	土器投棄1570-41層 G46-8752	57	38	12377	外米系赤生土器 (山陰系) 壺 (小型)	谷1203-11層 G47-9312
24	34	7475	赤生土器 壺	土器投棄1718 G46-8415	57	38	12985	外米系赤生土器 (瀬戸内系) 壺	谷1203-23層 G46-9735
24	34	7479	赤生土器 壺	井戸2029	57	38	12986	外米系赤生土器 (山陰系) 鼓形器	谷1203-11層 G46-9032
54	35	5375	赤生土器 壺	土器埋置1718	57	38	12987	外米系赤生土器 (山陰系) 壺	谷1203-11層 G46-9014
54	35	5395	赤生土器 壺	土器埋置1718 (広口型)	57	38	12988	外米系赤生土器 (山陰系) 鼓形器	谷1203-11層 G46-9032
54	35	5697	石器 利刃 石勺	谷1203-49層 G46-9514	57	38	12989	外米系赤生土器 (瀬戸内系) 壺	谷1203-23層 G46-9612
55	36	141	美浪系土器 鋼	谷1203-11層 G47-8253	57	38	13007	外米系赤生土器 (山陰系) 壺 (小型)	谷1203-11層 G47-9312
55	36	192	美浪系土器 鋼	谷1203-11層 G47-9254	58	39	748	外米系赤生土器 (瀬戸内系) 壺	谷1203-11層 G46-9935
55	36	1986	美浪系土器 鋼	谷1203-19層 G46-8032	58	39	4924	外米系赤生土器 底片口三耳壺	柱穴1630 G46-88
55	36	2701	美浪系土器 鋼	谷1203-10層 G46-8031	58	39	8308	外米系赤生土器 (瀬戸内系) 壺	流路1388-35層 G46-7235
55	36	3314	美浪系土器 鋼	谷1203-10b層 G46-7235	58	39	9079	外米系赤生土器 壺 (高杯)	谷1203-23層 G46-9821
55	36	3625	美浪系土器 柄	谷1203-40層 G46-9714	58	39	9184	外米系赤生土器 壺 (高杯)	谷1203-10層 G46-8041
55	36	3702	美浪系土器 柄	谷1203-39層 G46-8654					
55	36	3732	美浪系土器 柄	谷1203-23層 G46-9721					
55	36	8600	美浪系土器 鋼	谷1203-10b層 G46-9812					
55	36	8604	美浪系土器 鋼	谷1203-39層 G46-9713					
55	36	8606	美浪系土器 鋼	谷1203-39層 G46-9614					
55	36	8607	美浪系土器 鋼	谷1203-39層 G46-8654					
55	36	8608	美浪系土器 大型鋤	谷1203-23層 G46-9821					
55	36	8660	美浪系土器 鋼	谷1203-39層 G46-9713					
55	36	8663	美浪系土器 鋼	谷1203-23層 G46-9831					
55	36	8664	美浪系土器 鋼	谷1203-23層 G46-9821					

表8 掘載遺物一覧(2)

頁	圖	遺物番号	遺物	出土位置	頁	圖	遺物番号	遺物	出土位置
58	39	9185	外來系弥生土器 (豐前系) 壺	谷1203-22層 G46-9942	43	47	5214	鍛柄 (虎跡打/細圓 定)	回地1565 G46-9723
58	39	9204	外來系弥生土器 広片口三耳鉢	谷1203-10層 G46-8035	43	47	5529	鍛柄 (虎跡打/細圓 定)	谷1203-23層 G46-9632
58	39	9206	外來系弥生土器 鉢	谷1203-11層 G46-8055	43	47	5652	木器 鍛柄 (虎跡打/ 鍛固定)	谷1203-23層 G46-9632
58	39	9483	(肥前型) 鏡台	谷1203-11層 G46-9833	43	47	5882	平鍛 (丸刃有肩有 段)	谷1203-49b層 G46-9513
36	40	471	青銅器 耳環	谷1203-11層 G46-9052	43	47	6860	平鍛 (撫肩無段)	谷1203-49a層 G46-8432
36	40	1480	青銅器 小形彷彿鏡	谷1203-11層 G46-8042	43	47	6862	広鉢	谷1203-49a層 G46-8411
36	40	1884	青銅器 小形彷彿鏡	谷1203-10b層 G46-9512	43	47	7036	鍛柄 (虎跡打)	谷1203-64層 G46-7355
36	40	1920	青銅器 銅鏡	谷1203-10b層 G46-9512	43	47	7069	平鍛 (円刃有肩有 段)	谷1203-49b層 G46-7353
36	40	4027	青銅器 小形彷彌鏡	谷1203-22層 G46-9634	44	48	2649	三叉鍛 (有肩)	谷1203-19層 G46-8032
36	40	4472	青銅器 小銅鐸	土器投棄1569 G46-8654	44	48	3644	木器 平鍛	谷1203-19層 G46-9733
36	40	5350	青銅器 貝冠	谷1203-62層 G46-9634	44	48	5504	鍛柄 (有肩)	谷1203-23層 G46-9645
37	41	66	銅器 利器 斧斧 (貨 状鍛造)	谷1203-11層 G47-9145	44	48	5649	二叉鍛 (撫肩)	谷1203-23層 G46-9825
37	41	881	青銅器 銅鏡	谷1203-11層 G46-9815	44	48	6797	三叉鍛 (有肩)	谷1203-49c層 G46-9513
37	41	1183	青銅器 銅鏡	廣1204-4b層 G47-6212	44	48	6861	拱鍛 (有肩)	谷1203-49a層 G46-8411
37	41	2295	青銅器 銅鏡	谷1203-69層 G46-8413	44	48	12295	拱鍛 (無肩)	谷1203-23層 G46-9632
37	41	2861	銅器 鋼状鉄器	谷1203-10b層 G46-9553	45	49	1913	叉鍛 (撫肩)	谷1203-22層 G46-9942
37	41	3624	青銅器 /利器 銅鏡	谷1203-40層 G46-8754	45	49	1916	鍛柄	谷1203-19層 G46-9923
37	41	3655	青銅器 /利器 銅鏡	谷1203-28層 G46-8044	45	49	2075	叉鍛 (撫肩)	谷1203-26層 G46-9924
37	41	3686	銅器 不良板状鉄製 品	谷1203-40層 G46-9615	45	49	2222	叉鍛 (有肩)	谷1203-34層 G46-9632
37	41	5158	青銅器 /利器 銅鏡	谷1203-10b層 G46-9753	45	49	5732	木器 二叉鍛 (有肩)	谷1203-49層 G46-9523
37	41	5222	青銅器 銅鏡	谷1203-36層 G46-8543	45	49	5795	二叉鍛 (撫肩)	谷1203-49b層 G46-9535
38	42	7083	銅器 鎏金造鉄斧	谷1203-51層 G46-7353	45	49	5919	三叉鍛 (撫肩)	谷1203-49c層 G46-8552
38	42	7307	銅器 鎏金 鎏斧 (鑄 造鉄)	谷1203-52b層 G46-7354	45	49	6586	二叉鍛 (撫肩)	谷1203-23層 G46-96
39	43	881	青銅器 銅鏡	谷1203-11層 G46-9815	45	49	6858	叉鍛 (有肩)	谷1203-55層 G46-8432
39	43	1183	青銅器 銅鏡	廣1204-4b層 G47-6212	45	49	7705	木器 二叉鍛	谷1203-19層 G46-9733
39	43	1480	青銅器 小形彷彌鏡	谷1203-11層 G46-8042	46	50	3644	木器 平鍛	谷1203-19層 G46-9733
39	43	4720	青銅器 銅鏡	谷1203-10b層 G46-9512	46	50	4668	木器 鍛柄 (鍛柄)	谷1203-23層 G46-9734
39	43	5224	青銅器 銅鏡	谷1203-46層 G46-8413	46	50	5709	鍛柄 (柄部)	谷1203-49層 G46-9524
39	43	5362	青銅器 /利器 銅鏡	谷1203-40層 G46-8754	46	50	5730	鍛柄 (鍛柄)	谷1203-49層 G46-9525
39	43	5365	青銅器 銅鏡	谷1203-39層 G46-8751	46	50	5741	鍛柄 (鍛柄)	谷1203-49層 G46-8552
39	43	4027	青銅器 小形彷彌鏡	谷1203-22層 G46-9634	46	50	5918	鍛身柄	谷1203-49b層 G46-8542
39	43	4472	青銅器 小銅鐸	土器投棄1569 G46-8654	46	50	6390	二叉鍛 (撫肩)	谷1203-23層 G46-9735
39	43	5153	青銅器 /利器 銅鏡	谷1203-10b層 G46-9753	46	50	6492	鍛柄 (鍛身固定具)	谷1203-23層 G46-9632
39	43	5222	青銅器 銅鏡	谷1203-36層 G46-8543	46	50	7077	鍛柄 (鍛柄)	谷1203-49b層 G46-8434
39	43	5350	青銅器 銅鏡	谷1203-62層 G46-9634	46	50	7238	鍛柄 (鍛身固定具)	谷1203-49b層 G46-7334
40	44	6376	平鍛 (有肩有段)	谷1203-23層 G46-9741	46	50	7590	鍛柄 (鍛身固定具)	谷1203-49b層 G46-8314
40	44	6443	平鍛 (有肩)	谷1203-23層 G46-9744	46	50	12543	木器 鍛柄 (鍛身固 定具)	谷1203-26層 G46-9923
40	44	6487	平鍛 (有肩無段)	谷1203-23層 G46-9642	47	51	5890	一木鉢	谷1203-49b層 G46-9514
40	44	6868	平鍛 (有肩有段)	谷1203-49a層 G46-8434	47	51	5889	一木鉢 (小形鉢)	谷1203-49b層 G46-8553
40	44	6882	平鍛 (有肩有段)	谷1203-49b層 G46-8435	47	51	5892	一木鉢 (小形)	谷1203-49b層 G46-9513
40	44	6941	平鍛 (有肩有段)	谷1203-49b層 G46-8424	47	51	7106	一木鉢	谷1203-49b層 G46-8314
40	44	6976	平鍛	谷1203-49b層 G46-8422	47	51	7591	鍛柄 (鍛柄)	谷1203-49b層 G46-8314
40	44	7239	平鍛 (有肩有段)	回地1557 G46-8941	48	52	1911	鍛	谷1203-22層 G46-9942
40	44	7559	平鍛 (有肩)	谷1203-49b層 G46-7354	48	52	2653	鍛柄	谷1203-19層 G46-8021
41	45	4559	木器 平鍛	回地1565-23層 G46- 9732	48	52	2727	鍛 (柄)	上層1391 G46-8033
41	45	5653	木器 平鍛 (有肩無 段)	谷1203-23層 G46-9632	48	52	4427	一木鉢 (鍛身)	谷1203-19層 G46-9921
41	45	6872	平鍛 (有肩有段)	谷1203-49a層 G46-8434	48	52	5530	田下鉢/部材 (和力 ンジキ形/横板部材)	谷1203-23層 G46-9631
41	45	6998	平鍛 (有肩有段)	谷1203-49b層 G46-8423	48	52	5589	尖頭具 (柄付)	谷1203-23層 G46-9643
41	45	7004	平鍛 (有肩有段)	谷1203-49b層 G46-8434	48	52	5717	鍛 (柄)	谷1203-49層 G46-9524
41	45	7236	平鍛	谷1203-23層 G46-8051	48	52	5809	鍛 (柄部)	谷1203-49a層 G46-8552
41	45	12306	平鍛 (有肩有段)	谷1203-23層 G46-9643	48	52	6846	柄柄	谷1203-23層 G46-9632
42	46	2648	平鍛 (無肩無段)	谷1203-19層 G46-8032	48	52	6869	一木鉢	谷1203-49a層 G46-8434
42	46	4086	平鍛 (有肩有段)	谷1203-49層 G46-8315	49	53	2262	堅杵 (有肩長圓錐 形)	谷1203-34層 G46-9713
42	46	5216	平鍛 (無肩無段)	回地1565 G46-9722	49	53	5610	木器 植具 (撫肩)	回地1565 G46-9723
42	46	6495	平鍛 (無肩有段)	谷1203-23層 G46-9632	49	53	5702	堅杵 (長圓錐形)	谷1203-49層 G46-9524
42	46	6753	弥生土器	谷1203-49c層 G46-9515	49	53	5713	堅杵 (長圓錐形)	谷1203-49層 G46-9514
42	46	7058	平鍛 (撫肩有段)	谷1203-49c層 G46-8422	49	53	5915	堅杵	谷1203-49c層 G46-8551
43	47	2084	平鍛 (有肩有段/円 刃)	谷1203-26層 G46-9955					

表9 掘載遺物一覧 (3)

頁	図	遺物番号	遺物	出土位置	頁	図	遺物番号	遺物	出土位置
49	53	6784	横綱	谷1203-49b層 G46-8542	54	58	5364	尖頭器(指)(中軸部)	谷1203-45層 G46-9643
49	53	7003	堅杵(有肩深溝形)	谷1203-49b層 G46-8434	54	58	5636	尖頭器(太形円基)	谷1203-23層 G46-9631
49	53	7075	堅杵	谷1203-49b層 G46-8434	54	58	5718	木器 尖頭器(指)(基部片面削ぎ)	谷1203-48層 G46-8554
50	54	1861	木器 細(撫層)	谷1203-23層 G46-9823	54	58	5857	木器 尖頭器(指)(未成品)	谷1203-49a層 G46-8553
50	54	2237	粘(撫別)	谷1203-23層 G46-9824	54	58	5862	柄	谷1203-49b層 G46-9535
50	54	5506	堅杵(有肩)	谷1203-23層 G46-9645	54	58	5878	尖頭器(短形基部削ぎ)	谷1203-49b層 G46-8551
50	54	5802	粘	谷1203-49b層 G46-8535	54	58	6300	尖頭器(指)(基部片面削ぎ)	谷1203-55層 G46-8425
50	54	6493	堅杵	谷1203-23層 G46-9632	54	58	6494	尖頭器(指)(中軸部)	谷1203-49b層 G46-9632
50	54	6545	堅杵(有肩)	谷1203-23層 G46-9741	54	58	6783	木器 尖頭器(指)(基部片面削ぎ)	谷1203-49b層 G46-8545
50	54	7569	堅杵(單頭有肩)	谷1203-49c層 G46-7352	54	58	6877	尖頭器(指)(基部片面削ぎ)	谷1203-23層 G46-9642
51	55	2123	木器 堅杵(單頭有肩)	谷1203-10層 G46-9051	54	58	6918	木器 尖頭器(指)(中軸部)	谷1203-49b層 G46-8435
51	55	2189	堅杵(單頭有肩)	谷1203-26層 G46-9913	54	58	6972	尖頭器(指)(基部片面削ぎ)	谷1203-49c層 G46-8423
51	55	3706	木器 細(深溝形)	谷1203-23層 G46-9743	54	58	7086	尖頭器(指)	谷1203-49b層 G46-8422
51	55	4201	木器 堅杵(單頭有肩彎形)	谷1203-48層 G46-9524	54	58	7578	尖頭器(指)	谷1203-49b層 G46-8551
51	55	5600	堅杵(撫層)	谷1203-23層 G46-9645	54	58	12071	尖頭器(指)(未成品)	谷1203-44層 G46-9754
51	55	5726	堅杵(單頭彎肩細)	谷1203-49層 G46-9535	54	58	12116	木器 尖頭器(指)(太形)	谷1203-42層 G46-8751
51	55	5794	堅杵(單頭有肩彎形)	谷1203-49b層 G46-8552	55	59	1305	尖頭器(指物)	谷1203-11層 G46-9014
51	55	6687	堅杵(單頭有肩彎形)	谷1203-23層 G46-9645	55	59	5279	尖頭器(指物)	谷1203-11層 G46-9633
51	55	7545	堅杵(單頭撫層)	谷1203-49b層 G46-8541	55	59	5365	両端を錐状に整形する木製品。(荒状)	谷1203-45層 G46-9643
51	55	7546	堅杵形の木器未成品	谷1203-49b層 G46-8541	55	59	5978	握り棒	谷1203-49a層 G46-9525
51	55	7547	堅杵(未成品)有肩彎形	谷1203-49b層 G46-8541	55	59	6436	尖頭器(指状)	谷1203-23層 G46-9633
51	55	12262	堅杵(單頭撫層)	杭群2086-46 G46	55	59	7051	両端を楔状に整形する木製品。(両端片面削ぎ)	谷1203-49b層 G46-8422
51	55	12362	堅杵(單頭有肩彎形)	谷1203-49c層 G46-9633	55	59	7612	尖頭器(指狀)	谷1203-49c層 G46-8541
51	55	12735	粘(單頭有肩彎形)	谷1203-49c層 G46-8541	55	59	7613	両端を錐状に整形する木製品。(指状)	谷1203-49c層 G46-8541
52	56	3575	横綱	土壤1391-46層 G46-8033	55	59	12255	尖頭器(太形)	杭群2086-49b層(下) G46-7953
52	56	5841	粘(粗)	谷1203-49層 G46-9512	56	60	4599	網柵	谷1203-23層 G46-982
52	56	5914	横綱	谷1203-49b層 G46-8551	56	60	5831	柵	谷1203-49b層 G46-9524
52	56	6291	横綱	谷1203-23層 G46-9742	56	60	5916	網柵	谷1203-49c層 G46-8551
52	56	6870	堅杵(有段單頭圓形)	谷1203-49a層 G46-8434	56	60	6772	網柵/部材	谷1203-23層 G46-9634
53	57	150	木器 尖頭器(指)	谷1203-11層 G47-9221	56	60	7600	網柵	谷1203-49b層 G46-8314
53	57	1970	尖頭器(指)	谷1203-26層 G46-9922	56	60	12338	網柵	谷1203-49層 G46-8411
53	57	2279	尖頭器(指)	谷1203-12層 G47-9112	56	60	12340	網柵	谷1203-49b層 G46-8422
53	57	2358	尖頭器(指)(基部片面削ぎ)	谷1203-12層 G47-9131	57	61	2689	木器 手柄(鉄斧用櫛状刃)	谷1203-19層 G46-8032
53	57	2971	尖頭器(指)(基部片面削ぎ)	谷1203-42層 G46-8655	57	61	5209	木器 手柄(鉄斧用櫛状刃)	同地1565 G46-9723
53	57	5503	尖頭器(指)	谷1203-23層 G46-9645	57	61	5581	木器 手柄(鉄斧用櫛状刃)	谷1203-23層 G46-9633
53	57	5707	尖頭器(指)	谷1203-49層 G46-9524	57	61	5828	柵(小形鉄斧横柵)	谷1203-49b層 G46-9524
53	57	5709	尖頭器(指)(基部片面削ぎ)	谷1203-49層 G46-9524	57	61	6366	柵(鉄斧用横柵)	谷1203-23層 G46-9744
53	57	5858	木器 尖頭器(指)(基部片面削ぎ)	谷1203-49a層 G46-8553	57	61	6582	柵(鉄斧用横柵)	谷1203-23層 G46-9744
53	57	5963	木器 尖頭器(指)(未成品)(基部片面削ぎ)	谷1203-49b層 G46-9513	57	61	12089	柵(鉄斧翼淨脚)	谷1203-22層 G46-9835
53	57	6553	尖頭器(指)(指状)	同地1565 G46-9741	57	61	12258	柵(鉄斧用横柵翼脚)	杭群2086-49b層(下) G46-7953
53	57	6782	尖頭器(指)(指)	谷1203-49b層 G46-8542	57	61	12547	木器 手柄(横柵柄)	谷1203-11層 G46-9514
53	57	6830	尖頭器(指)	谷1203-55層 G46-8423	58	62	1906	木器 手柄(小形鉄製櫛手柄)	谷1203-26層 G46-9922
53	57	6853	尖頭器(指)(長形)	谷1203-49層 G46-9545	58	62	2951	柵(直柵)	谷1203-11層 G46-9645
53	57	7028	尖頭器(指)	谷1203-49a層 G46-8324	58	62	6211	柵(櫛状柄)	同地1565 G46-9733
53	57	7087	尖頭器(指)	谷1203-49b層 G46-8422	58	62	5660	柵(鉄斧用横柵)	谷1203-23層 G46-9645
53	57	12112	木器 尖頭器(指)	谷1203-49b層 G46-8531	58	62	5647	柵(櫛状柄)	谷1203-23層 G46-9632
53	57	12137	木器 尖頭器(指)	谷1203-44層 G46-9743	58	62	5705	柵(櫛状柄)	谷1203-49層 G46-9514
53	57	12974	木器 指谷1203-44層 G46-9743	谷1203-11層 G47-9135					
54	58	145	木器 尖頭器(指)	谷1203-11層 G46-8054					
54	58	794	木器 尖頭器(指)	谷1203-11層 G46-9514					
54	58	2688	尖頭器(指)	谷1203-11層 G46-9514					
54	58	3633	尖頭器(指)	谷1203-23層 G46-9735					
54	58	3817	尖頭器(指)(短形)	谷1203-23層 G46-9734					
54	58	4448	尖頭器(指)	谷1203-19層 G46-9911					
54	58	5181	尖頭器(指)(未成品)	谷1203-14層 G46-9753					

表10 掘載遺物一覧(4)

頁	図	遺物番号	遺物	出土位置	頁	図	遺物番号	遺物	出土位置
58	62	5962	鍵柄	谷1203-49b層 G46-9513	61	65	12530	木製 箕 (鉗物/無頭平底)	谷1203-55層 G46-8423
58	62	6479	柄	谷1203-23層 G46-9734	62	66	1862	木器 植 (鉗物蓋付植/身)	谷1203-23層 G46-9834
58	62	6763	柄 (鍵柄)	谷1203-23層 G46-9631	62	66	1881	木器 植 (鉗物底部/腰付/腰かし入り)	谷1203-23層 G46-9825
58	62	6773	斧柄 (铁斧横斧藤柄)	谷1203-23層 G46-9634	62	66	2722	筒形容器 (白木側り抜き)	土壌1391 G46-8032
58	62	6794	斧柄 (未成品(横斧藤柄))	谷1203-49層 G46-8553	62	66	5895	高坏	谷1203-49b層 G46-9513
58	62	7064	柄	谷1203-49b層 G46-7352	62	66	6664	箆 (四脚付)	箆2030 G46-96
58	62	7079	箆	谷1203-49b層 G46-8434	62	66	6831	筒形容器 (白木側り抜き)	谷1203-49層 G46-8433
59	63	1858	木器 腹部に柄をもつ板状器具 (研磨具)	谷1203-23層 G46-9823	62	66	12148	木器 高坏	谷1203-10b層 G46-9514
59	63	1876	木器 大鍔臼 (未使用)	谷1203-23層 G46-9835	63	67	4635	高坏	回地1565-19層 G46-9732
59	63	1880	木器 紗錠車 (両面削除)	谷1203-23層 G46-9825	63	67	5711	箆 (板状脚付槽部材)	谷1203-49層 G46-9514
59	63	3802	火鍔臼	谷1203-23層 G46-9831	63	67	6383	箆 (円柱形四脚付)	谷1203-23層 G46-9745
59	63	4511	木器 紗錠車 (両面削除)	谷1203-22層 G46-9841	63	67	6287	高坏	谷1203-49層 G46-8553
59	63	5525	刷毛目調整工具 (圓形)	谷1203-45層 G46-9733	63	67	7103	箆 (円柱形四脚付方槽形)	谷1203-49b層 G46-7352
59	63	5695	火鍔臼	谷1203-49層 G46-9514	63	67	12732	箆 (円形開付鉢形)	谷1203-49層 G46-8315
59	63	5696	紗錠車 (片面削除)	谷1203-49層 G46-9514	64	68	3955	箆 (角柄)	谷1203-57層 G46-9921
59	63	5748	刷毛目調整工具	谷1203-49b層 G46-9514	64	68	4323	箆 (子未成品)	谷1203-57層 G46-9734
59	63	5979	鏡状器	谷1203-49a層 G46-9525	64	68	5141	箆 (小前槽)	谷1203-49層 G46-8553
59	63	6295	紗錠車 (片面削除/円錐形)	谷1203-45層 G46-9655	64	68	5122	箆 (小前槽)	谷1203-49層 G46-8553
59	63	6323	紗錠車 (片面削除/半球形)	谷1203-49a層 G46-8433	64	68	5779	臼子 (斜め把手)	谷1203-49a層 G46-8552
59	63	6875	紗錠車 (片面削除)	谷1203-23層 G46-9642	64	68	5780	臼子 (直柄)	谷1203-49b層 G46-8552
59	63	7065	叩き板	谷1203-49b層 G46-7352	64	68	7040	箆 (円柱形四脚付長方形槽)	谷1203-49b層 G46-8421
59	63	7449	刷毛目調整工具 (圓形)	谷1203-48層 G46-8541	65	69	1842	臼子 (長直柄)	谷1203-23層 G46-9832
59	63	7583	火鍔臼	谷1203-49b層 G46-7352	65	69	5888	扇刀状の木製品	谷1203-49c層 G46-9512
59	63	12092	木器 紗錠車 (片面削除/半球形)	谷1203-38層 G46-8432	65	69	6322	臼子 (長柄)	谷1203-49a層 G46-8433
59	63	12102	木器 紗錠車 (両面削除/扇形)	谷1203-42層 G46-9812	65	69	6489	臼文字 (直柄)	谷1203-23層 G46-9624
59	63	12106	木器 紗錠車 (片面削除/半球形)	谷1203-38層 G46-8445	65	69	6880	臼文字	谷1203-49層 G46-8434
59	63	12107	木器 紗錠車 (平面)	谷1203-19層 G46-9833	65	69	7111	臼文字	谷1203-49b層 G46-7352
60	64	1236	木繩 (繩形彫刻)	谷1203-11層 G46-9032	66	70	2698	蓋 (五方形把手平板状)	土壌1391 G46-8031
60	64	1647	店 (丹塗り居)	谷1203-23層 G46-9921	66	70	4180	木器 蓋 (把手付円形板状)	谷1203 G46-98
60	64	1648	木器 扇 (丹塗り扇)	谷1203-23層 G46-9921	66	70	5361	木器 蓋 (柄付長方板状)	谷1203-62層 G46-9633
60	64	2179	木器 短甲 (石前胸鉢部材)	谷1203-26層 G46-9922	66	70	5740	蓋 (把手付円形板状)	谷1203-49層 G46-8552
60	64	3634	木繩	谷1203-23層 G46-9735	66	70	6529	蓋 (未成品(円形笠形))	谷1203-49c層 G46-9513
60	64	3652	木器 紗錠車 (未成品(連付))	谷1203-28層 G46-8044	66	70	7110	蓋 (円形笠形(未成品))	谷1203-49b層 G46-7352
60	64	3654	木器 紗錠車 (未成品(連付))	谷1203-28層 G46-8044	67	71	796	木器 案/部材 (天板留め具)	谷1203-11層 G47-9113
60	64	3738	紗錠車 (未成品(連付))	谷1203-28層 G46-8044	67	71	1840	案/部材 (脚)	谷1203-23層 G46-9833
60	64	5288	石器/道具 防護車	谷1203-62層 G46-9634	67	71	1874	案/部材 (脚固定具)	谷1203-23層 G46-9835
60	64	5366	木器 紗錠車 (縦溝溝形)	谷1203-62層 G46-9633	67	71	5729	蓋 (把手付円形板状)	谷1203-49層 G46-9513
61	65	1056	木器 紗錠容器 (漆塗)	谷1203-11層 G46-9832	68	72	6318	大板 (大板)	回地2025 G46-8424
61	65	2664	筒形容器 (漆塗)	8033	68	72	12341	案 (脚)	谷1203-23層 G46-9833
61	65	2947	筒形容器/蓋 (漆塗)	谷1203-44層 G46-9635	68	72	1841	箆 (板状脚付盤)	谷1203-23層 G46-9832
61	65	4404	筒形容器/蓋 (漆塗)	谷1203-19層 G46-9931	68	72	4419	箆 (堅桶/抜き箆)	谷1203-19層 G46-9911
61	65	4426	筒形容器/底板 (漆塗)	谷1203-19層 G46-9911	68	72	5510	蓋 (子未成品)	谷1203-45層 G46-9733
61	65	4767	弓 (丸木弓)	9723	68	72	5583	箆 (未成品/堅桶)	谷1203-23層 G46-9633
61	65	5351	蓋 (付合)	谷1203-45層 G46-9634	68	72	6319	椅子 (鉗物板伏2脚)	谷1203-49c層 G46-8553
61	65	5646	弓 (丸木弓)	谷1203-23層 G46-9632	68	72	6541	椅子 (鉗物板状4脚)	谷1203-23層 G46-9741
61	65	5985	弓 (丸木弓)	谷1203-49層 G46-8421	68	72	7260	箆 (二本箆)	谷1203-48層 G46-8445
61	65	7340	弓 (丸木弓)	回地2076 G46-8421	68	73	1866	鳥形	谷1203-23層 G46-9834
61	65	11558	木器 蓋	谷1203-26層 G46-9912	69	73	5733	装饰部材	谷1203-49層 G46-8553

表11 掘載遺物一覧 (5)

頁	図	遺物番号	遺物	出土位置	頁	図	遺物番号	遺物	出土位置
70	74	7089	建築部材（栓）	谷1203-49b層 G46-8422	99	80	9176	弥生土器 鋼	谷1203-26層 G46-9921
70	74	7170	木材 板	谷1203-49b層 G46-7341	99	80	9178	弥生土器 器台	谷1203-25層 G46-9824
70	74	12259	建築部材	杭群2086-49b層(下) G46-7953	99	80	9587	弥生土器 窓付甕	谷1203-27層 G46-8024
70	74	12259	建築部材（栓）	杭群2086-49b層(下) G46-7953	99	80	11964	弥生土器 甕（二重口縁甕）	谷1203-36層 G46-8421
71	75	1903	複葉形木製品	谷1203-22層 G46-9932	99	80	12393	弥生土器 器台	谷1203-27a層 G46-8023
71	75	3459	槽穴のある部材	土壤1391 G46-8033	100	81	2884	弥生土器 高坏	流路1388-39層 G46-9625
71	75	5616	留め具（楔形）	谷1203-23層 G46-9742	100	81	2885	弥生土器 甕	流路1388-39層 G46-9625
71	75	6466	組輪の掛った棒材（細形）	谷1203-49a層 G46-9642	100	81	3958	弥生土器 甕（長頸甕）	谷1203-39層 G46-9612
71	75	12733	切断材（厚板両端切跡）	谷1203-49層 G46-8315	100	81	8336	弥生土器 甕	谷1203-36層 G46-7355
71	75	12734	壇	谷1203-49層 G46-8315	100	81	8341	弥生土器 器台	谷1203-36層 G46-8314
95	76	337	弥生土器 甕	流路1202-5層 G47-6343	100	81	8343	弥生土器 器台	谷1203-36層 G46-7354
95	76	341	弥生土器 甕	流路1202-5層 G47-6344	100	81	8359	弥生土器 甕	谷1203-40層 G46-8733
95	76	344	弥生土器 支脚	流路1202-5層 G47-6344	100	81	8702	弥生土器 有孔鉢	谷1203-39層 G46-9715
95	76	365	弥生土器 甕	流路1202-16層 G47-6332	100	81	8953	弥生土器 小形甕	流路1386 G46-9615
95	76	438	弥生土器 甕	流路1202-16層 G47-6332	100	81	9046	弥生土器 鉢	谷1203-36層 G46-7354
95	76	945	弥生土器 甕	流路1202-4層 G47-6355	100	81	9094	弥生土器 甕	谷1203-36層 G46-8422
95	76	1095	弥生土器 甕	流路1202-16層 G47-6342	100	81	11983	弥生土器 甕	谷1203-36層 G46-8542
95	76	9198	弥生土器 甕	流路1202-5層 G47-6333	101	82	4605	弥生土器 甕	土器収蔵1570-40層 G46-9713
95	76	11995	弥生土器 甕	流路1202-5層 G47-6322	101	82	4607	弥生土器 甕	土器収蔵1570-40層 G46-9713
95	76	11997	弥生土器 甕	流路1202-4層 G47-632	101	82	4669	弥生土器 鉢（有孔鉢）	土器収蔵1570-40層 G46-9713
95	76	12056	弥生土器 大形甕	流路1202-5層 G47-6321	101	82	6359	弥生土器 甕	谷1203-40層 G46-8733
95	76	12057	弥生土器 甕	流路1202-5層 G47-6321	101	82	6453	弥生土器 高坏	谷1203-50層 G46-8411
96	77	278	弥生土器 甕	谷1203-11層 G47-9312	101	82	6514	弥生土器 甕	土器収蔵1570-40層 G46-9713
96	77	1174	弥生土器 甕	渠1204-4層 G47-6253	101	82	8274	弥生土器 甕	谷1203-40層 G46-9715
96	77	1334	弥生土器 甕	渠1204-4b層 G47-6223	101	82	8747	弥生土器 甕	谷1203-50層 G46-7341
96	77	5267	弥生土器 高坏	谷1203-11層 G46-9634	101	82	8749	弥生土器 甕	谷1203-50層 G46-8531
96	77	5670	弥生土器 甕	谷1203-11層 G46-8554	101	82	8832	弥生土器 甕	谷1203-40層 G46-9811
96	77	8051	弥生土器 甕	谷1203-10b層 G46-9753	102	83	5242	弥生土器 育台	谷1203-23層 G46-9731
96	77	8701	弥生土器 甕	谷1203-10b層 G46-8035	102	83	5744	弥生土器 鉢（有孔鉢）	谷1203-49層 G46-9513
96	77	8724	石器/利器 楔形石器	谷1203-10b層 G46-9753	102	83	6574	弥生土器 育台	谷1203-50層 G46-7354
96	77	8739	弥生土器 支脚	谷1203-11層 G46-9723	102	83	6700	弥生土器 高坏	谷1203-23層 G46-9644
96	77	8795	弥生土器 高坏	谷1203-11層 G46-8032	102	83	6796	弥生土器 甕	谷1203-49a層 G46-8554
96	77	12378	弥生土器 甕	谷1203-11層 G47-9311	102	83	7494	弥生土器 高坏	谷1203-50層 G46-8531
97	78	231	弥生土器 台付甕	谷1203-11層 G47-0212	102	83	8744	弥生土器 小形甕	谷1203-45層 G46-9631
97	78	247	弥生土器 高坏	谷1203-11層 G47-9241	102	83	9238	弥生土器 小形甕	谷1203-38層 G46-9635
97	78	1682	弥生土器 台付甕	谷1203-11層 G46-8044	102	83	9291	弥生土器 甕	谷1203-38層 G46-9513
97	78	1690	甕	谷1203-11層 G46-8034	102	83	9314	弥生土器 支脚（方形支脚）	谷1203-50層 G46-8425
97	78	1717	弥生土器 甕	谷1203-11層 G46-8033	102	83	9360	弥生土器 甕	谷1203-48層 G46-8554
97	78	3785	弥生土器 甕	谷1203-11層 G46-9631	102	83	9496	弥生土器 甕	谷1203-42層 G46-8655
97	78	8742	弥生土器 台付甕	谷1203-11層 G46-9631	102	83	3145	弥生土器 高坏	谷1203-42層 G46-8645
97	78	8748	弥生土器 甕	谷1203-11層 G46-9631	102	83	7123	弥生土器 甕	谷1203-42層 G46-8535
97	78	8755	弥生土器 甕	谷1203-11層 G46-9631	102	83	8747	弥生土器 甕	谷1203-42層 G46-8614
97	78	8756	弥生土器 甕	谷1203-11層 G46-9631	102	83	8748	弥生土器 甕	谷1203-42層 G46-8752
97	78	8757	弥生土器 甕	谷1203-11層 G46-9631	102	83	8749	弥生土器 甕	谷1203-42層 G46-8741
97	78	9161	弥生土器 小形甕	谷1203-11層 G47-8553	103	84	8240	弥生土器	谷1203-49b層 G46-7351
97	78	9180	弥生土器 小形甕	谷1203-11層 G46-9923	103	84	8243	弥生土器 台付甕	谷1203-49b層 G46-8312
97	78	9182	弥生土器 台付甕	谷1203-11層 G47-9252	103	84	8321	弥生土器 甕	谷1203-57層 G46-9923
97	78	9183	弥生土器 支脚	谷1203-21層 G46-9924	103	84	8684	弥生土器 器台	谷1203-49a層 G46-8542
97	78	9186	弥生土器 支脚	谷1203-11層 G46-8042	103	84	9309	弥生土器 器台	谷1203-56層 G46-8783
97	78	9187	弥生土器 支脚	谷1203-27層 G46-8024	104	84	12388	弥生土器 器台	谷1203-49b層 G46-8314
97	78	9189	弥生土器 甕（長頸甕）	谷1203-27層 G46-8024	104	85	5064	弥生土器 器台	谷1203-42層 G46-8645
97	78	9190	弥生土器 甕（長頸甕）	谷1203-22層 G46-9645	104	85	8076	弥生土器 鉢（有孔鉢）	谷1203-51層 G46-8544
97	78	9192	弥生土器 甕（複合口縁甕）	谷1203-22層 G46-9644	104	85	8225	弥生土器 小形手捏土器	谷1203-51層 G46-8543
97	78	9193	弥生土器 甕（複合口縁甕）	谷1203-19層 G46-8033	104	85	8227	弥生土器 甕	谷1203-51層 G46-8532
97	78	9195	弥生土器 器台	谷1203-11層 G46-8032	104	85	8752	弥生土器 支脚	谷1203-42層 G46-8753
97	78	9196	弥生土器 器台	谷1203-22層 G46-9822	104	85	8830	弥生土器 甕	谷1203-51層 G46-8555
97	78	9197	弥生土器 支脚	谷1203-11層 G46-8032	104	85	9138	弥生土器 甕	谷1203-42層 G46-8645
97	78	9198	弥生土器 支脚	谷1203-27層 G46-8024	104	85	9618	弥生土器 器台	谷1203-51層 G46-8533
97	78	9239	弥生土器 甕（長頸甕）	谷1203-22層 G46-9645	104	85	9665	弥生土器 甕（広口）	谷1203-51層 G46-7344
98	79	4052	弥生土器 甕	谷1203-14層 G46-9643	104	85	11786	弥生土器 鉢	谷1203-51層 G46-7345
98	79	8837	弥生土器 甕	谷1203-22層 G46-9644	104	85	11969	弥生土器 甕（広口）	谷1203-51層 G46-8414
98	79	8857	弥生土器 甕（複合口縁甕）	谷1203-19層 G46-8033	105	86	4780	弥生土器 高坏	堆溝1565-19層 G46-9723
98	79	8858	弥生土器 甕	谷1203-26層 G46-9922					

表12 掘載遺物一覧(6)

頁	圖	遺物番号	遺物	出土位置	頁	圖	遺物番号	遺物	出土位置
105	86	5163	赤生土器 器台	圓地1565-19層 G46-9712	108	91	10105	石器/鍛器 敲打刀器	流路1202-5層 G47-6345
105	86	6177	赤生土器 瓢	溝狀圓地1567 G46-8334	108	91	10361	石器/鍛器 敲打刀器	谷1203-11層 G47-8153
105	86	6253	赤生土器	溝狀圓地1567 G46-9415	108	91	10644	石器/利器 石包丁(未成品)	谷1203-11層 G46-9825
105	86	7334	赤生土器 瓢	谷1203-52層 G46-8414	108	91	10685	石器/鍛器 敲打刀器	谷1203-11層 G47-9152
105	86	8130	赤生土器 瓢	谷1203-52層 G46-8533	108	91	10686	石器/鍛器 敲打刀器	谷1203-11層 G47-9152
105	86	8233	赤生土器 瓢	谷1203-52層 G46-8424	108	91	11693	石器/利器 磨製石斧	流路1202-5層 G47-6354
105	86	8234	赤生土器	谷1203-52層 G46-8424	108	91	12638	石器/利器 磨製石斧(大形圓直斧)	谷1203-39層 G46-8555
105	86	8836	赤生土器 瓢	圓地1565-19層 G46-9733	108	91	12808	石器/利器 磨石斧(大形圓直斧)	谷1203-23/7層 G46-9741
105	86	9280	赤生土器 小形手握土器	圓地1557 G46	109	92	1947	石器/器具 紋飾車	谷1203-26層 G46-9913
105	86	9281	赤生土器 小形手握土器	圓地1557 G46	109	92	1987	石器/器具 紋飾車	谷1203-25層 G46-8941
105	86	9282	赤生土器 器台	圓地1557 G46	109	92	2071	石器/器具 石錐(整形鋒刺)	谷1203-22層 G46-9844
106	87	4578	赤生土器 器台	土器投棄1569-39層 G46-9614	109	92	2152	石器/器具 石錐(整形石錐-彷彿形叉差)	谷1203-19層 G46-8033
106	87	4580	赤生土器 瓢	土器投棄1569-39層 G46-9614	109	92	2842	石器/器具 紋飾車	谷1203-6層 G46-9655
106	87	4583	赤生土器 高坪	土器投棄1569-39層 G46-9613	109	92	3448	石器/器具 紋飾車	谷1203-11層 G46-8024
106	87	4615	赤生土器 大形壺	土器投棄1569-39層 G46-9613	109	92	3581	石器/器具 紋飾車	谷1203-22層 G46-8821
106	87	6103	赤生土器 足	柱穴1804 G46-75	109	92	3600	石器/器具 石錐(整形石錐-彷彿形叉差)	谷1203-23層 G46-9735
106	87	8686	赤生土器 瓢	土器投棄1569-39層 G46-9613	109	92	4038	石器/器具 石錐(整形石錐-彷彌形交差)	谷1203-38層 G46-8325
106	87	8881	赤生土器 壺	谷1203-10層 G46-8751	109	92	4731	石器/器具 石錐(整形石錐-彷彌形交差)	土器投棄1569-39層 G46-9611
106	87	8908	赤生土器 壺	谷1203-40層 G46-9711	109	92	5221	石器/器具 紋飾車	谷1203-50層 G46-8533
107	89	1552	石製品 土圓刃	谷1203-37層 G46-9732	109	92	6533	石器/器具 石錐(整形石錐-彷彌形縱溝)	谷1203-23層 G46-9634
107	89	1922	土製品 投淨	谷1203-25層 G46-9912	109	92	8540	石器/器具 石錐(整形石錐-彷彌形交差)	谷1203-11層 G46-9843
107	89	8666	土製品 土製勾玉	谷1203-10層 G46-9544	109	92	8572	石器/器具 石錐(整形石錐-彷彌形縱溝)	谷1203-22層 G46-9822
107	89	9008	土製品 土製巴掌	谷1203-40層 G46-8751	109	92	8624	石器/器具 紋飾車	谷1203-40層 G46-9615
107	89	9008	土製品 土製投淨	谷1203-40層 G46-9711	109	92	8627	石器/器具 紋飾車	溝狀圓地1567 G46-8335
107	90	465	石器/利器 石鑿(小形凹面)	流路1202 G47-6333	109	92	8630	石器/器具 紋飾車	谷1203-39層 G46-8545
107	90	548	石器/利器 石鑿(深凹面)	谷1203-10層 G46-8013	109	92	8661	石器/器具 石錐	谷1203-49層 G46-8315
107	90	563	石器/利器 石鑿(刻片鑿)(短身深凹面)	谷1203-11層 G46-9015	109	92	8857	石器/器具 石錐(整形石錐-彷彌形縱溝)	谷1203-42層 G46-8644
107	90	2230	石器/利器 石鑿(浅凹面)	谷1203-30層 G46-9042	109	92	8857	石器/器具 紋飾車	流路1202-16層 G47-6341
107	90	2473	石器/利器 石鑿(長身淺凹面)	石6145	109	92	9002	石器/器具 石錐(整形石錐-彷彌形交差)	谷1203-44層 G46-9643
107	90	3883	石器/利器 石鑿/舊製石鑿(有茎)	谷1203-11層 G46-9632	109	92	9008	石器/器具 石錐(整形石錐-彷彌形縱溝)	谷1203-10層 G46-9755
107	90	4066	石器/利器 石鑿(凹基)	谷1203-38層 G46-9455	109	92	9026	石器/器具 石錐(整形石錐-彷彌形縱溝)	谷1203-10層 G46-9753
107	90	4996	石器/利器 石斧/磨製石斧(偏平片刃石斧)	谷1203-42層 G46-9751	109	92	9029	石器/器具 石錐(整形石錐-彷彌形縱溝)	谷1203-23層 G46-9735
107	90	7533	石器/利器 石瓶(浅凹基)	谷1203-51層 G46-7451	109	92	9038	石器/器具 紋飾車	谷1203-10層 G46-8945
107	90	8590	石器/利器 納貝形石器(二側刃加工)	谷1203-50層 G46-8544	109	92	91071	石器/器具 紋飾車	柱穴1841
107	90	8603	石器/利器 石斧/磨製石斧(偏平片刃石斧)	谷1203-10層 G46-9754	109	92	91117	石器/器具 紋飾車	谷1203-50層 G46-7354
107	90	8658	石器/利器 石鑿	谷1203-51層 G46-7451	109	92	9150	石器/器具 紋飾車	谷1203-12層 G47-8155
107	90	9270	石器/利器 石斧	谷1203-11層 G46-8035	109	92	91733	石器/器具 紋飾車	谷1203-19層 G46-9915
107	90	9384	石器/利器 狹狀片刃石斧	穴穴1841	109	92	9343	石器/器具 紋飾車	流路1202-5層 G47-6344
107	90	12369	石器/利器 石鑿(長身淺凹基扁頭齒狀)	谷1203-11層 G46-9033	109	92	9342	石器/器具 石錐(整形石錐-彷彌形縱溝)	谷1203-16層 G47-6343
108	91	997	石器/利器 石包丁	圓地1563-11層 G46-9813	109	92	9383	石器/器具 紋飾車	谷1203-10層 G46-8945
108	91	5854	石器/利器 石包丁	谷1203-6層 G46-7533	109	92	942	石器/器具 紋飾車	未完成品
108	91	8514	石器/利器 石包丁	谷1203-50層 G46-8532	109	92	946	石器/器具 紋飾車	谷1203-39層 G46-9713
108	91	8552	石器/利器 磨製石斧(未成品)	谷1203-11層 G46-8043	109	92	947	石器/器具 紋飾車	未完成品
108	91	8615	石器/利器 石包丁	溝狀圓地1567 G46-9415	109	92	9500	石器/器具 石錐(整形石錐-彷彌形縱溝)	谷1203-10層 G46-9755
108	91	8616	石器/利器 石包丁	谷1203-50層 G46-7341	109	92	9526	石器/器具 石錐(整形石錐-彷彌形縱溝)	谷1203-10層 G46-9753
108	91	8617	石器/利器 石包丁	谷1203-11層 G46-9525	109	92	9538	石器/器具 紋飾車	未完成品
108	91	8672	石器/利器 石包丁	谷1203-22層 G46-9831	109	92	9540	石器/器具 紋飾車	谷1203-10層 G46-8945
108	91	8928	石器/利器 石斧	谷1203-26層 G46-9921	109	92	9571	石器/器具 紋飾車	柱穴1841
108	91	9387	石器/利器 石包丁	0	109	92	9602	石器/器具 紋飾車	未完成品
108	91	9942	石器/利器 石包丁(半月形)	谷1203-22層 G46-9845	109	92	9603	石器/器具 紋飾車	谷1203-10層 G46-8945
108	91	9992	石器/利器 磨製石斧(大形圓直斧)	谷1203-23層 G46-8041	109	92	9611	石器/器具 紋飾車	未完成品
108	91	10100	石器/利器 石包丁(未成品)	谷1203-10層 G46-7353	109	92	9661	石器/器具 紋飾車	谷1203-49層 G46-8315

表13 掘載遺物一覽(7)

頁	圖	遺物番号	遺物	出土位置	頁	圖	遺物番号	遺物	出土位置
110	93	3959	石器/器具 石鍤/盤形石鍤 (深漁形長形)	谷1203-39層 G46-8652	113	96	3414	玉類/石製 勾玉 (束成)	谷1203-36層 G46-8353
110	93	4794	石器/器具 石鍤/盤形石鍤 (圓漁形)交光透	廣1579 G46-88	113	96	8579	攻玉殘件 石片	谷1203-10b層 G46-9822
110	93	5676	石器/器具 石鍤/盤形石鍤 (鐘形細形)	谷1203-11層 G46-8554	113	96	8642	攻玉殘件 石核 (角柱形)	廣1203-10b層 G46-9031
110	93	7234	石器/器具 石鍤/盤形石鍤 (鐘形)	谷1203-49層 G46-9633	113	96	10344	石器/器具 磨石	谷1203-10b層 G46-9911
110	93	7283	石器/器具 石鍤/盤形石鍤 (鐘形太形)	谷1203-51層 G46-8532	113	96	10766	石器/器具 石件	谷1203-36層 G46-8424
110	93	7492	石器/器具 石鍤/盤形石鍤 (鐘形細形)	谷1203-49b層 G46-7351	113	96	10767	石器/器具 石件	谷1203-11層 G46-9733
110	93	8512	石器/器具 石鍤/盤形石鍤 (鐘形細形)	谷1203-11層 G46-9534	113	96	11626	石器/器具 石鑿	廣路1202-5層 G47-6344
110	93	8533	石器/器具 石鍤/盤形石鍤 (円形半球形)	谷1203-23層 G46-9742	113	96	12757	攻玉殘件 石核	谷1203-62層 G46-9633
110	93	8534	石器/器具 石鍤/盤形石鍤 (鐘形細形)	谷1203-10b層 G46-9514					
110	93	9640	石器/器具 石鍤/盤形石鍤 (鐘形細形)	谷1203-35層 G46-7332					
11	94	317	石器/器具 石鍤/盤形石鍤 (圓形)	流路1202-5層 G47-6344					
11	94	1292	石器/器具 磨石子	谷1203-11層 G46-8031					
11	94	8509	石器/器具 磨石子 (圓形厚形)	谷1203-19層 G46-9911					
11	94	8692	石器/器具 磨石子 (未成品)	谷1203-44層 G46-9643					
11	94	9507	石器/器具 浮子	谷1203-10b層 G46-9753					
11	94	9519	石器/器具 石鍤/鐵石鍤 (橫形太形)	谷1203-40層 G46-8425					
11	94	10075	石器/器具 石鍤/鐵石鍤 (橫形)	谷1203-50層 G46-8425					
11	94	10465	石器/器具 石鍤/鐵石鍤 (鐵石鍤, 橫形)	谷1203-11層 G46-8055					
11	94	11336	石器/器具 石鍤/鐵石鍤 (鐵石鍤, 橫形)	谷1203-27b層 G46-8023					
11	94	12043	石器/器具 浮子	谷1203-10b層 G46-9811					
112	95	1287	石器/器具/未分類 魚形	谷1203-11層 G46-8032					
112	95	3180	石器/器具 石盤	谷1203-10b層 G46-9754					
112	95	8677	石器/器具 砥石 (平形長形)	谷1203-19層 G46-9743					
112	95	9967	石器/器具 戰刀刃跡	谷1203-11層 G46-9842					
112	95	10343	石器/器具 砥石 (平形)	谷1203-50層 G46-8544					
112	95	10345	石器/器具 砥石	谷1203-10層 G46-0811					
112	95	10349	石器/器具 砥石 (有鑽孔石力)	谷1203-10b層 G46-8225					
112	95	10618	石器/器具 砥石	谷1203-11層 G46-9941					
112	95	10641	石器/器具 砥石	谷1203-11層 G46-9724					
112	95	10913	石器/器具 砥石	谷1203-10b層 G46-9841					
112	95	11446	石器/器具 砥石	谷1203-10b層 G46-9633					
112	95	12524	石器/器具 砥石 (有鑽孔石)	谷1203-49c層 G46-8411					
112	95	12525	石器/器具 砥石 (有鑽孔石)	谷1203-23層 G46-9725					
112	95	12526	石器/器具 砥石 (有鑽孔石)	谷1203-11層 G46-9033					
113	96	454	石器/器具 石杵	流路1202-5層 G47-6332					
113	96	757	攻玉殘件 石核 (角柱形)	谷1203-11層 G46-9955					
113	96	1020	攻玉殘件 石核 (角柱形)	谷1203-11層 G46-9924					
113	96	1946	攻玉殘件 石核 (角柱形)	谷1203-11層 G46-9851					
113	96	2139	攻玉殘件 石核 (角柱形)	谷1203-23層 G46-9833					
113	96	2294	玉類/玉 ガラス玉	谷1203-11層 G46-8414					
113	96	2295	玉類/玉 石質玉	谷1203-11層 G46-8413					
113	96	2341	玉類/玉 石質玉	G46-6014					
113	96	3398	玉類/石製 勾玉	谷1203-11層 G46-9534					

表14 掘載遺物一覧(8)

頁	圖	遺物番号	遺物	出土位置	遺物記述
55	36	141	楽浪系土器	鉢 谷1203-11層 647-823	<前土・後成> 素土：泥質。器表：黒色(黒化処理) 「成形・調整」外面：回転ナデ、底部静止系切→側縁をケズり、ナデ 内面：回転ナデ (文様等) 内面に放射状暗文。外底面に種子圧痕あり。〈年代〉弥生/後期～終末期 〈遺存状態〉底周囲はぼ100% (計測) 底径6.9cm
55	36	192	楽浪系土器	鉢 谷1203-11層 (平底鉢) 647-9254	<前土・後成> 素土：泥質。器表：黒色(黒化処理) 「成形・調整」外面：回転ナデ、底部静止系切→側縁をケズり、ナデ 内面：回転ナデ 〈年代〉弥生/後期～終末期 〈遺存状態〉〈遺存〉口縁部(復原)14.7cm
55	36	1986	楽浪系土器	鉢 谷1203-19層 646-8032	<前土・後成> 素土：泥質。器表：黒色(黒化処理) 「成形・調整」外面：回転ナデ、底部静止系切→ケズリ。内面：回転ナデ (文様等) 内面に放射状暗文。〈年代〉弥生/後期～終末期 〈遺存状態〉〈遺存〉底部周り1/4 (計測) 底部径8.0cm
55	36	2701	楽浪系土器	鉢 谷1203-10層 646-8031	<前土・後成> 素土：泥質。器表：灰白色(風化) 「成形・調整」外面：回転ナデ、底部静止系切→ケズリ (切原) 底部周囲1/4 (計測) 底部高9.2cm
55	36	3314	楽浪系土器	鉢 谷1203-10層 646-7235	<前土・後成> 素土：泥質。器表：灰白色(風化)。内面に黒化処理の痕跡。 「成形・調整」外面：回転ナデ 内面：回転ナデ 〈年代〉弥生/後期～終末期 〈遺存状態〉細片 (切原周9.1/10)
55	36	3625	楽浪系土器	碗 谷1203-40層 646-9714	<前土・後成> 素土：泥質。器表：黒色(黒化処理) 「成形・調整」外面：回転ナデ、底部静止系切→側縁ケズリ (切原) 底部周囲1/4 (計測) 底部高9.2cm
55	36	3702	楽浪系土器	鉢 谷1203-39層 646-8654	<前土・後成> 素土：泥質。器表：灰白色(風化) 「成形・調整」外面：回転ナデ、底部は静止系切→側縁ケズリ (文様等) 底部外面にX字状ヘラ印記 (後成前割) 〈年代〉弥生/後期～終末期 〈遺存状態〉断片形 (計測) 口縁部径11.6cm 底部径8.0cm 高5.8cm
55	36	3732	楽浪系土器	鉢 谷1203-23層 646-9721	<前土・後成> 素土：泥質。器表：黒色(黒化処理) 「成形・調整」外面：回転ナデ、底部は静止系切→側縁ケズリ、ミサキ 内面：回転ナデ (文様等) 内底面に沈澱に近い粉格子状の暗文。側面に放射状の平行暗溝文 (特記) 同一側体 : R1291-16077 (3625) <年代> 弥生/後期～終末期 〈遺存状態〉上部の大半を欠く (口縁周り1/8、脚部以下は断片形) (計測) 口縁部径(復原)15.0cm 底部径8.2cm 高6.6cm
55	36	8662	楽浪系土器	鉢 谷1203-10層 646-9812	<前土・後成> 素土：泥質。器表：黒色(黒化処理) 「成形・調整」外面：回転ナデ、底部は静止系切→側縁ケズリ (文様等) 内面に暗文 〈年代〉弥生/後期～終末期 〈遺存状態〉口縁周り1/10 (計測) 口縁部径(復原)17.0cm
55	36	8664	楽浪系土器	鉢 谷1203-39層 646-9713	<前土・後成> 素土：泥質。器表：灰白色(風化) 「成形・調整」外面：回転ナデ 内面：回転ナデ 〈年代〉弥生/後期～終末期 〈遺存状態〉細片 (口縁周り1/10) (計測) 口縫部径(復原)15.1cm
55	36	8666	楽浪系土器	鉢 谷1203-39層 646-9614	<前土・後成> 素土：泥質。器表：灰白色(風化) 「成形・調整」外面：回転ナデ 内面：回転ナデ (文様等) 底面に円刻溝突あり 〈年代〉弥生/後期～終末期 〈遺存状態〉底部周囲1/5 (計測) 底部高9.2cm
55	36	8667	楽浪系土器	鉢 谷1203-39層 646-8654	<前土・後成> 素土：泥質。器表：灰白色(風化) 「成形・調整」外面：回転ナデ 内面：回転ナデ 〈年代〉弥生/後期～終末期 〈遺存状態〉口縁周り1/8 (計測) 口縫部径(復原)15.0cm
55	36	8668	楽浪系土器 大型	鉢 谷1203-23層 646-9821	<前土・後成> 素土：泥質。器表：灰白色～黒色(外面風化・黒化処理) 「成形・調整」外面：回転ナデ、底部静止系切→ケズリ 内面：回転ナデ 〈年代〉弥生/後期～終末期 〈遺存状態〉 (切原) 底部周囲1/8 (計測) 12.0cm
55	36	8669	楽浪系土器	鉢 谷1203-39層 646-9713	<前土・後成> 素土：泥質。器表：灰白色(風化) 「成形・調整」外面：回転ナデ 内面：回転ナデ 〈年代〉弥生/後期～終末期 〈遺存状態〉口縫部径(復原)16.7cm
55	36	8673	楽浪系土器	鉢 谷1203-22層 646-9831	<前土・後成> 素土：泥質。器表：黒色(黒化処理) 「成形・調整」外面：不明。内面：回転ナデ 〈年代〉弥生/後期～終末期 〈遺存状態〉 小片
55	36	8674	楽浪系土器	鉢 谷1203-22層 646-9821	<前土・後成> 素土：泥質。器表：黒色(黒化処理) (舊風味) 「成形・調整」外面：回転ナデ 内面：回転ナデ 〈年代〉弥生/後期～終末期 〈遺存状態〉口縫部径(復原)14.9cm
55	36	8665	楽浪系土器	鉢 谷1203-10層 646-9831	<前土・後成> 素土：泥質。器表：黒色(黒化処理) 「成形・調整」外面：回転ナデ 一底側縁ケズリ、内面：回転ナデ 〈年代〉弥生/後期～終末期 〈遺存状態〉細片
55	36	8994	楽浪系土器	鉢 回156 646-9733	<前土・後成> 素土：泥質。器表：黒色(黒化処理) 「成形・調整」外面：回転ナデ 内面：回転ナデ (文様等) 内面に暗文あり (年代) 年代) 弥生/後期～終末期 〈遺存状態〉脚部周囲1/4
55	36	8995	楽浪系土器	鉢 谷1203-10層 646-8011	<前土・後成> 素土：泥質。器表：灰白色(風化) 「成形・調整」外面：回転ナデ 〈年代〉弥生/後期～終末期 〈遺存状態〉 図示部1/6
55	36	9051	楽浪系土器	鉢 谷1203-23層 646-9843	<前土・後成> 素土：泥質。器表：黒色(黒化処理) 「成形・調整」外面：回転ナデ、底部静止系切→ケズリ 内面：回転ナデ (文様等) 内面に放射状暗文。〈年代〉弥生/後期～終末期 〈遺存状態〉底部周囲1/5 (計測) 底部径9.0cm
55	36	9202	楽浪系土器	鉢 谷1203-11層 647-9135	<前土・後成> 素土：泥質。器表：灰白色(風化) 「成形・調整」外面：回転ナデ 内面：回転ナデ 〈年代〉弥生/後期～終末期 〈遺存状態〉 細片
55	36	9203	楽浪系土器	鉢 谷1203-11層 647-9133	<前土・後成> 素土：泥質。器表：黒色(黒化処理、風化気味) 「成形・調整」外面：回転ナデ 内面：回転ナデ 〈年代〉弥生/後期～終末期 〈遺存状態〉口縁周り1/10 (計測) 口縫部径(復原)16.5cm
55	36	9437	楽浪系土器	鉢 谷1203-34層 646-9923	<前土・後成> 素土：泥質。器表：灰白色(風化) 「成形・調整」外面：ケズリ。底面不明 内面：回転ナデ (文様等) 内面に暗文あり (年代) 年代) 弥生/後期～終末期 〈遺存状態〉底部周囲1/4 (計測) 底部径10.0cm
55	36	9438	楽浪系土器	鉢 谷1203-11層 646-9824	<前土・後成> 素土：泥質。器表：灰白色(風化) 「成形・調整」外面：回転ナデ 内面：回転ナデ 〈年代〉弥生/後期～終末期 〈遺存状態〉口縫部径(復原)14.8cm
55	36	9440	楽浪系土器	鉢 谷1203-11層 646-8542	<前土・後成> 素土：泥質。器表：灰白色(風化、黒化処理の痕跡) 「成形・調整」外面：回転ナデ、内面：回転ナデ 〈年代〉弥生/後期～終末期 〈遺存状態〉底部付近図示部1/10 (計測) 底部径15.4cm
55	36	9442	楽浪系土器 大型	鉢 谷1203-11層 646-9051	<前土・後成> 素土：泥質。器表：灰白色(風化) 「成形・調整」外面：回転ナデ 内面：回転ナデ 〈年代〉弥生/後期～終末期 〈遺存状態〉底部付近図示部1/10 (計測) 底部径15.4cm

表15 墓入土器観察表(1)

頁	圖	遺物番号	遺物	出土位置	遺物記述
55	36	12982	樂浪系土器 跡	谷1203-4層 646-8551	〈筋土・焼成〉 素土：泥質。器表：黑色（黒化処理）〈成形・調整〉 外面：底部静止系切→ケズリ 内面：回転ナデ 〈年代〉 弥生/後期～終末期 〈遺存状態〉 底部 縁片（底部周り1/10） 〈計測〉 底部径8.6cm
55	36	12984	樂浪系土器 跡	谷1203-11層 647-9214	〈筋土・焼成〉 素土：泥質。器表：黑色（黒化処理、風化氣味）〈成形・調整〉 外 面：回転ナデ 内面：回転ナデ 〈特記〉 B9203と同一個体か。〈年代〉 弥生/後 期～終末期 〈遺存状態〉 口縁部縁片、複数破片。
56	37	716	三韓系瓦質土器 鉢	谷1203-10層 646-9924	〈筋土・焼成〉 素土：砂粒極少量。器表：灰色～黒灰色（成形・調整） 外面：口頭部 は回転ナデ、脚部は格子目タキナ（底部下部はナデ消し氣味） 内面：ナデ（文様等） 胸上部に沈線1mm以上 〈年代〉 弥生/後期～終末期 〈遺存状態〉 〈遺存〉 口縁周 り1/10未満 〈計測〉 口縁部径（復原） 9.7cm
56	37	3485	三韓系瓦質土器 壺	谷1203-40層 646-7356	〈筋土・焼成〉 素土：砂粒極少量。器表：灰褐色（成形・調整） 外面：縦目タキ ナデ 〈年代〉 弥生/後期～終末期 〈遺存状態〉 縱片（胸部）
56	37	6579	三韓系瓦質土器 壺	谷1203-36層 646-7354	〈筋土・焼成〉 素土：砂粒極少量。器表：灰褐色（成形・調整） 外面：縦目タキ ナデ 〈年代〉 弥生/後期～終末期 〈遺存状態〉 縱片小片
56	37	7621	二韓系土器	谷1203-36層 646-7352	〈成形・調整〉 内面ナデ消し 〈特記〉 B8501と同一か。〈遺存状態〉 体盤破片
56	37	8501	二韓系瓦質土器 壺	谷1203-48層 646-8313	〈筋土・焼成〉 〈筋土・焼成〉 素土：砂粒極少量。器表：灰褐色～黒色（成形・調整） 〈調査〉 外面：脚部回転ナデ、脚部縁目タキナ 内面：無文で具瓶ナデ 〈特記〉 同一個体か。B9061(M1203-38層 646-8313) 〈年代〉 弥生/後期～終末期 〈遺 存状態〉 縱片（復原） 1/6
56	37	8506	二韓系瓦質土器 壺	漢代印地 1567-47層 646-8323	〈筋土・焼成〉 素土：砂粒極少量。器表：灰褐色（成形・調整） 外面：縦目タキナ 内面：ナデ 〈年代〉 弥生/後期～終末期 〈遺存状態〉 胸部小片
56	37	8665	二韓系瓦質土器 壺	谷1203-36層 646-8411	〈筋土・焼成〉 素土：2mm砂粒少量。器表：暗灰色～淡褐色灰色（成形・調整） 外面： 格子目タキナ 内面：ナデ 〈年代〉 弥生/後期～終末期 〈遺存状態〉 胸部小片
56	37	8789	三韓系瓦質土器 壺	谷1203-10層 646-9534	〈筋土・焼成〉 素土：1～2mm砂粒少量。器表：灰褐色～黒灰色（成形・調整） 外面： 縦目タキナ 内面：ナデ 〈特記〉 接合：B9339(M1203-10層 646-8312) 〈年代 〉 弥生/後期～終末期 〈遺存状態〉 小破片（胸部）
56	37	9056	陶質土器 鉢	谷1203-10層 646-9851	〈筋土・焼成〉 素土：砂粒極少量。器表：淡褐色灰黑色（成形・調整） 外面：口預部は 回転ナデ。内面：回転ナデ 〈特記〉 〈年代〉 古墳前期 〈遺存状態〉 頸部周り 1/5 〈計測〉 口縁部径（復原） 21.7cm
56	37	9057	三韓系瓦質土器 壺	谷1203-11層 646-9743	〈筋土・焼成〉 素土：砂粒極少量。器表：灰褐色（成形・調整） 外面：頸部回転ナ デ、胸部縁目タキナ 内面：ナデ 〈年代〉 弥生/後期～終末期 〈遺存状態〉 体部 縁片（胸部）
56	37	9062	三韓系瓦質土器 壺	谷1203-49層 646-8312	〈筋土・焼成〉 素土：砂粒極少量。器表：灰褐色（成形・調整） 外面：縦目タキナ 内面：ナデ 〈年代〉 弥生/後期～終末期 〈遺存状態〉 小破片（付属）
56	37	9581	三韓系瓦質土器 壺	谷1203-35層 646-8412	〈筋土・焼成〉 素土：砂粒少量。器表：灰褐色～淡黒灰色（調整） 外面：口預部は 回転ナデ。頸部回転ナデ、胸部縁目タキナ 内面：ナデ 〈年代〉 弥生/後期～終末期 〈 遺存状態〉 縱片（胸部）
56	37	9656	三韓系瓦質土器 壺	谷1203-10層 646-8225	〈筋土・焼成〉 〈筋土・焼成〉 素土：砂粒少量。器表：灰褐色（成形・調整） 〈調 整〉 外面：縦目タキナ 内面：ナデ 〈特記〉 B9205と同一個体か。〈未だ未 確認9411、12040/4点も同。〉 〈年代〉 〈年代〉 弥生/後期～終末期 〈遺存状態〉 頂部縁片
57	38	1382	外來系弥生土器 (山陰か) 壺	谷1203-646- 8023	〈筋土・焼成〉 素土：1～3mm砂粒多量。器表：淡褐色（白目）〈成形・調整〉 外面： タケハケ→ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ→タケズリ、頸部下部タケズリ→ 文様等口縁外面に回転2次。頸部下面に点文状の調整工具なり 〈年代〉 弥生/ 後期後半～終末期 〈遺存状態〉 口縁部破片（1/5） 〈計測〉 口縁部径（復原） 19.4cm
57	38	2661	外來系弥生土器 (近畿西部系) 鬱台	谷1203-36層 646-8542	〈筋土・焼成〉 素土：1～3mm砂粒多量。器表：淡褐色（白目）〈成形・調整〉 外面： タケハケ→ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ→タケズリ、頸部下部タケズリ→ 文様等口縁外面に回転2次。頸部下面に点文状の調整工具なり 〈年代〉 弥生/ 後期後半～終末期 〈遺存状態〉 上半部（顯示部はほぼ全周） 〈計測〉 遺存尚 13.5cm 口縁部径（復原） 25.4cm
57	38	4049	外來系弥生土器 (山陰系) 壺	谷1203-36層 646-8435	〈筋土・焼成〉 素土：1～3mm砂粒多量。器表：淡褐色灰色 〈年代〉 弥生/終末 〈遺存状態〉 口縁部破片（縫隙開口1/4）
57	38	8798	外來系弥生土器 (山陰系) 壺	谷1203-48層 646-8551	〈ヒト・焼成〉 素土：1～3mm砂粒多量。器表：淡褐色（成形・調整） 外面：タケハ ケ→ヨコナデ 内面：ヨコハケ 〈文様等〉 頸部外縁にヘラ彫の有輪羽状文 〈年代〉 弥生/後期～終末期 〈遺存状態〉 頸部縁片（頸部）
57	38	8812	外來系弥生土器 (山陰系) 小型 甕	谷1203-38層 646-7352	〈筋土・焼成〉 素土：1～3mm砂粒多量。器表：暗褐色（成形・調整） 口縁部外面：ヨ コナデ、縁部羽状文3～5条 内面：口縁部ヨコナデ、頸部以下ケズリ 〈年代〉 弥 生/後期後半 〈遺存状態〉 口縁周り1/5 〈計測〉 口縁部径（復原） 12.4cm
57	38	9054	外來系弥生土器 (西部瀬戸内 系) 壺	谷1203-49層 646-8433	〈筋土・焼成〉 素土：1～3mm砂粒多量。器表：暗褐色灰色 〈成形・調整〉 内面： ヨコナデ（文様等）頸部基部外面に櫛割波状文 〈年代〉 弥生/後期後半 半形式 〈遺存状態〉 頸部縁片
57	38	9078	外來系弥生土器 (西部瀬戸内 系) 壺	谷1203-36層 646-8422	〈筋土・焼成〉 素土：1～3mm砂粒定置。器表：暗褐色（赤み）〈成形・調整〉 外面： ヨコナデ→タケミカギ 内面：ヨコナデ（文様等）口縁部ヨコナデ（文様等）口縁外 面に櫛割波状文 〈年代〉 弥生/後期後半形式 〈遺存状態〉 口縁部片
57	38	9089	外來系土器標 甕	谷1203-36層 646-8423	〈筋土・焼成〉 素土：1～3mm砂粒多量。器表：淡褐色灰色（成形・調整） 外面： ヨコナデ 内面：ヨコナデ（文様等）頸部以下ケズリ 〈年代〉 弥生/後期後 半形式 〈遺存状態〉 口縁周囲1/5 〈計測〉 口縁部径（復原） 20.0cm
57	38	9091	外來系弥生土器 (近畿系河内 か) 壺	谷1203-49層 646-7351	〈筋土・焼成〉 素土：1～3mm砂粒多量。器表：暗褐色（赤み）〈成形・調整〉 外面： タケハケ→ヨコナデ（文様等）頸部以下ケズリ 〈年代〉 弥生/後期後半 半形式 〈遺存状態〉 口縁周囲1/5 〈計測〉 口縁部径（復原） 12.5cm
57	38	9164	外來系弥生土器 (近畿系) 鬱台 (鈎形鬱台)	谷1203-11層 646-9014	〈筋土・焼成〉 素土：1～3mm砂粒多量。器表：暗褐色灰色 〈成形・調整〉 外面： タケハケ→ヨコナデ 内面：受部ヨコナデ→脚部以下ケズリ、ナデ 〈年代〉 弥生/終 末 〈遺存状態〉 脚周り1/5 〈計測〉 脚部径（復原） 18.6cm

表16 摺入土器観察表(2)

頁	圖	遺物番号	遺物	出土位置	遺物記述
57	38	9278	外來系弥生土器 (山陰系) 低脚 杯	谷1203-36層 G46-8553	〈断土・施成〉胎土：1~3mm砂粒多量。器表：灰白色～淡褐色。〈成形・調整〉外面：ハケ→コナデ。脚部オナエ痕。内面：杯底タテミガキ。脚部ナデ。弥生/終末(遺存状態) 脚を半分近くはがき完形。〈計測〉高4.7cm 口縁部径14.0cm 脚径7.0cm
57	38	9528	外來系弥生土器 (山陰系) 親	谷1203-109 層 G46-9822	〈断土・施成〉胎土：1mm砂粒多量(雲母)。角閃石、赤褐色粒子含む)。器表：淡褐色(白色)。〈成形・調整〉口縁部外面：ヨコナデ、脚部タテハケ。内面：口縁部ヨコナデ、頸部以下ケズリ。〈年代〉弥生/終末(遺存状態) 口縁周り1/8 〈計測〉口縁部径(復原) 15.6cm
57	38	11782	外來系弥生土器 (瀬戸内系) 親	谷1203-49a 層 G46-8445	〈断土・施成〉胎土：1mm砂粒少量(雲母微砂多い)。器表：外面黒みのある暗褐色。〈成形・調整〉外面：タテハケ→口縁部強いヨコナデ。内面：ナデ。文様等口縁外側に凹溝2条。〈年代〉弥生/瀬戸内中期後半型式(遺存状態) 口縁周り1/6 〈計測〉口縁部径(復原) 15.5cm
57	38	11862	外來系弥生土器 (山陰系) 鋼形 器台	谷1203-11層 G46-9032	〈成形・調整〉R11867と同様。〈特記〉R11867と同一個体か。類似口縁部(年代) 弥生/終末(遺存状態) 脚周り1/6 〈計測〉脚部径(復原) 14.7cm
57	38	11867	外來系弥生土器 (山陰系) 鋼形 器台	谷1203-11層 G46-9032	〈断土・施成〉胎土：1~3mm砂粒多量。器表：茶褐色。〈成形・調整〉外面：ヨコナデ→タテミガキ。内面：受ヨコナデ→タテミガキ。脚部以下ナズリ。〈年代〉弥生/終末(遺存状態) 口縁周り1/3 〈計測〉口縁部径(復原) 15.0cm
57	38	11926	外來系弥生土器 (瀬戸内系) 親	谷1203-23層 G46-9612	〈断土・施成〉胎土：1~2mm砂粒多量。器表：淡赤褐色。〈成形・調整〉外面：横ナデ。内面：ナデ。脚部以下ケズリ。〈年代〉弥生/後期前半型式(遺存状態) 口縁周り1/8 〈計測〉口縁部径(復原) 17.2cm
57	38	12377	外來系弥生土器 (山陰系) 親 (小型座)	谷1203-11層 G47-9312	〈断土・施成〉胎土：1~3mm砂粒多量。器表：暗赤褐色。〈成形・調整〉外面：ヨコナデ、擬似輪郭文→ヨコミガキ。内面：ヨコミガキ(年代) 弥生/終末(遺存状態) 口縁周り1/5 〈計測〉口縁部径(復原) 11.6cm
57	38	12985	外來系弥生土器 (瀬戸内系) 親	谷1203-23層 G46-9735	〈断土・施成〉胎土：1~2mm砂粒多量。器表：外赤黒色～淡褐色(収束吸着の無化現?)。外面赤色。〈成形・調整〉外面：ヨコナデ→横ナデ。内面：ナデ。文様等口縁外側に凹溝2条。削痕に瘤(単位不明)。〈年代〉弥生/後期前半型式(遺存状態) 口縁周り1/4 〈計測〉口縁部径(復原) 13.4cm
58	39	748	土師器 (布留式)	谷1203-11層 G46-9935	〈断土・施成〉胎土：1~3mm砂粒多量。器表：淡灰褐色。〈成形・調整〉外面：口縫部ヨコナデ。内面：口縫部ヨコナデ。脚部以下ケズリ。〈年代〉弥生/後期前半型式(遺存状態) 口縫部断片(縫周り1/8) 〈計測〉口縫部径(復原) 19.8cm
58	39	4924	外來系弥生土器 広口三耳鉢	柱穴1630 G46-88	〈断土・施成〉胎土：1mm砂粒多量。器表：褐色。〈成形・調整〉外面：ハケ→ナデ。内面：ハケ→ナデ。文様等口縫片。把手の有無は不明。〈特記〉赤色顔料の付着や煮沸痕跡はなし。二次被熱未観。〈年代〉弥生/後期(遺存状態) 前部
58	39	8308	外來系弥生土器 (豊前系) 親	流路1388-35 層 G46-7225	〈断土・施成〉胎土：1mm砂粒多量、3mm少量。器表：淡褐色灰(成形・調整)。外面：口縫部ヨコナデ。内面：ナデ。〈年代〉弥生/中期後半(遺存状態) 口縫部破片(口縫周り1/6) 〈計測〉口縫部径(復原) 29.2cm
58	39	9079	外來系弥生土器 (高杯)	谷1203-23層 G46-9821	〈断土・施成〉胎土：1mm砂粒多量。器表：明褐色。〈成形・調整〉外面：ミガキ。内面：ヨコナデタテミガキ。文様等口縫部直線文+貝殻腹縫羽状列点文2枚以上(年代) 弥生/後期～終末(遺存状態) 口縫部断片(口縫周り1/10未満) 〈計測〉口縫部径(復原) 12.5cm
58	39	9184	外來系弥生土器 土師器 高杯	谷1203-10層 G46-8041	〈断土・施成〉胎土：1mm砂粒多量(雲母)。器表：淡褐色(外側丹塗りの可能性あり)。〈成形・調整〉外面：ハケ→ミガキ。内面：ナデ。脚部ハケ。文様等脚部上端に丸く突起。円形透孔142単位。〈年代〉弥生/終末～古墳初(遺存状態) 脚部(顯示部はほぼ100%) 〈計測〉高(遺存) 3.8cm
58	39	9185	外來系弥生土器 (豊前系) 親	谷1203-22層 G46-9942	〈断土・施成〉胎土：1~3mm砂粒多量。器表：淡褐色～淡褐色。〈成形・調整〉外面：ナデ。内面：ナデ。文様等口縫部直線文+竹管状疣痕あり。尾部把手あるが、側面把手の有無は不明。〈特記〉赤色顔料の付着や煮沸痕跡はなし。〈年代〉弥生/後期(遺存状態) 基部(計測) 高(遺存) 11.4cm
58	39	9204	外來系弥生土器 広口三耳鉢	谷1203-10層 G46-8035	〈断土・施成〉胎土：1~5mm砂粒多量。器表：暗褐色～赤褐色。〈成形・調整〉外面：ハケ→ナデ。耳の周辺オナエ痕。内面：ナデ。文様等口縫部直線文+竹管状疣痕あり。尾部把手あるが、側面把手の有無は不明。〈特記〉赤色顔料の付着や煮沸痕跡はなし。〈年代〉弥生/後期(遺存状態) 基部(計測) 高(遺存) 7.3cm
58	39	9206	外來系弥生土器 鉢	谷1203-11層 G46-8055	〈断土・施成〉胎土：砂粒少。器表：暗褐色。〈成形・調整〉外面：タテミガキ。内面：ヨコハケ→ヨコナデ→タテミガキ。文様等外側にヘラ彫刻文(羽伏文、巻闌文等)。〈年代〉弥生/後期(遺存状態) 上部断片(口縫周り1/8) 〈計測〉口縫部径(復原) 7.3cm
58	39	9483	外來系弥生土器 (肥前型) 器台	谷1203-11層 G46-9833	〈断土・施成〉胎土：1~3mm砂粒多量(雲母、角閃石、赤褐色粒子含む)。器表：淡褐色(外側丹塗りの可能性あり)。〈成形・調整〉外面：タテミガキ。内面：ヨコナデ。文様等縦長透孔2箇所以上。〈年代〉弥生/後期(遺存状態) 脚部細片

表17 深入土器觀察表(3)

4 おわりに

今宿五郎江第11次調査では、遺跡西縁部の低い台地部とそれを開析して流れる谷部の調査を行った。調査面積は6,900m²となり、台地部では多数の掘立柱建物の分布を確認し、谷部では、遺跡外縁をめぐるような位置にある溝（2195）を調査した。

第11次調査地点では、出土遺物からは先土器時代に始まり縄文時代、弥生時代初頭の痕跡をたどることができるが、発掘調査出土遺物の大部分は、この溝の埋没が進行し、更に谷全体が埋没する段階に遺棄あるいは投棄されたものである。その量は、重量にして24.9tとなり、本調査で出土した土器量の87%を占める。このうち、溝2195がほぼ埋没し、堆積が谷1203を梅は初めて後（谷1203上部層）からの土器出土量は14,642kgで、谷1203出土量の59%を占める。

対象を変えて、石器についてみると、上部層から谷内出土石器数の75%が出土している。更に金属製品の大部分、攻玉遺物のほとんどがやはり、この上部層からの出土である。また、地域外から搬入されたと考えられる土器も同様の傾向が認められる。

このように、多様な遺物も含め、今宿五郎江遺跡は、それをめぐる大溝が痕跡を残して埋没しつつあって、溝の内外という関係の判然としない景観の中で考えてゆく必要がある。

今回、出土土器の検討が全く不十分なまま報告に至ったが、現状では、土器が大量に投棄される時点として弥生時代後期後半期を考えることができよう。この後も、谷全体に土器の遺棄、投棄が継続する中で泥炭層の堆積が進行し、極緩く窪んだ地形へと移ってゆく。

ここで、遡って溝2195掘削前後の状況をみてみる。溝2195は、谷1203の底に掘削されて、やや蛇行しながら第11次調査区の中央を超えた位置、谷1203がその幅を急に広げる地点で掘削をやめている。それが、当初から意図されたものかどうかはわからない。調査時の所見では、この位置に流水が集中し、短時間で埋没したような堆積が観察される。さらに溝の北端部には、多数の杭が打設されている。このことからすると、何らかの不測の事態が発生した可能性も考えられる。一方、図上では調査区の東にある溝1204と対応しているように見える。この溝は隣接する第2次調査区の溝（SD50）へ続き、谷の縁辺に沿うように弧状に掘削され、その延長が第11次調査区へ向かうが、両調査区の間で終わる。これからみると、溝2195も意図した位置で掘削を停止したものかとも思われる。

溝2195掘削時の残土による盛土層（29層・53層）中から土器が出土し、またその層中に埋置されたとみられる土器が出土した（M1716～1718）。土器は何れも弥生時代中期後半を示している。一方、谷1203東岸から谷底部に向かって土器包含層（27b層・24層・41層・42層・52層）が形成されている。出土状況から人為的な投棄を想定するが、やはり中期後半頃か。調査区南部で51層と52層が重なり、51層が上位となる。ただし52層とした部位は谷底に薄く広がるもので、不明瞭。他地点とは堆積状況が異なる。

溝2195掘削前後の遺構について、第11次地点では該当する遺構は確認できなかった。他調査地点の成果をみると、隣接する第2次地点では井戸（SE-1）を調査している。遺跡中央部に近い東の第5次地点では、東西方向の溝（SD-01・02）に土器の投棄が行われる。溝2195に続く溝427を検出した第9次地点では台地上に2基の井戸（M421・422）が分布する。更に溝427が北東へ繋がる第10次地点では、溝が断片的に遺存する（M1017・1096）。以上、散漫ではあるが、遺構の分布を見ることができる。

なお、第9次地点では、溝の外側（谷側）に本地点と同様残土による盛土層が残り、同様に土器が出土している。

報告書抄録

福岡市埋蔵文化財調査報告書第1221集

今宿五郎江 16

— 今宿五郎江遺跡第11次調査報告(2) —

2014年(平成26年)3月24日

発行 福岡市教育委員会

福岡市中央区天神1丁目8番1号

印刷 協文社印刷株式会社

福岡市西区小戸4丁目24番5号
